訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業

「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業

実施報告書

令和２年３月２４日

国土交通省　四国運輸局

目　次

［共通編］
【１】背景
・訪日グローバルキャンペーン
【２】事業全体の実施状況
１．実施項目
２．実施手法

［第１編］
【３】本格派向けコンテンツ造成事業
１．コンテンツ造成の背景
２．調査データの活用
３．コンテンツの造成
４．コーディネーター
５．情報拠点
６．地域住民意識啓発セミナーの開催
７．事業化へ向けた取組
８．コンテンツ造成等に至る検討・協議

［第２編］
【４】ライト層向けコンテンツ造成事業
１．コンテンツの造成
２．情報拠点の整備
３．地域住民等の意識醸成
４．コンテンツ造成における実施手法
５．海外旅行会社等の招請とブラッシュアップ
６．コンテンツ造成等に至る検討・協議

［第３編］
【５】滞在型旅行商品の造成・販売と環境整備
１．本格派向けコンテンツを活用した旅行商品
２．ライト層向けコンテンツを活用した旅行商品
３．環境整備

［総括］

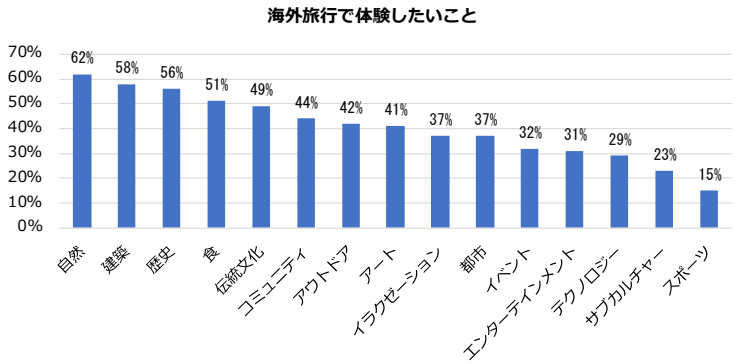
［資料編］
１．成果物
２．関連資料

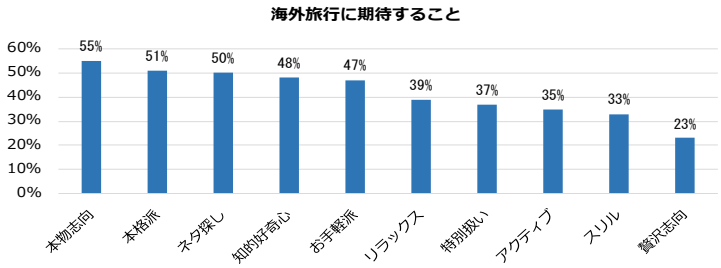
［共通編］

【１】背景

本事業は、観光庁と日本政府観光局（JNTO）が連携して展開している欧米豪９市場（独・英・仏・米・加・豪・伊・西・露）の訪日無関心層をターゲットとした「Enjoy my Japan グローバルキャンペーン」に対応した新たな滞在型コンテンツ等の創出を行うことを目的とするものである。

昨今の外国人遍路の嗜好は多岐に亘るが、観光庁の調査「体験型観光コンテンツ市場の概観」によると、「海外旅行で体験したいこと」については、「豊かな自然」「街並み、有名な建築」「その国の歴史や遺跡」「地域の食やお酒」等に類するコンテンツが上位を占めており、「海外旅行に期待すること」については「現地でしか体験できないこと、本物の体験」「じっくり時間をかける」「家族や知人に話せるような面白い体験」が上位を占める。従来の富士山、桜、寺社仏閣といった典型的なイメージだけでなく、豊かな自然・アウトドアアクティビティ、日本食にとどまらない食の魅力、伝統芸術に加え世界から注目される現代アートなど豊かな四国の魅力を発信することが必要となる。



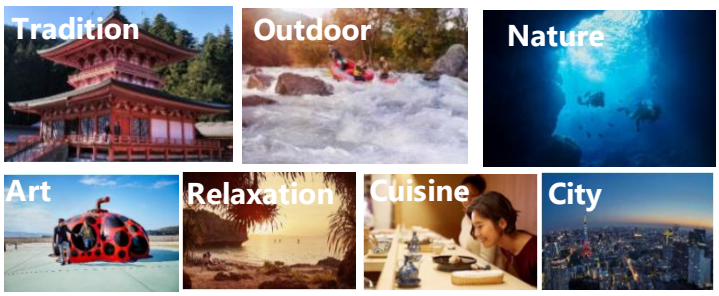


「体験型観光コンテンツ市場の概観」観光庁（平成 31 年３月）による

本事業では、四国地区でしか体験することのできない観光資源であり、重要な文化遺産である四国遍路「Shikoku88」をテーマとした滞在型コンテンツを造成し、訪日無関心層に向けて訴求を図る。本事業は「本格派向けコンテンツ造成に係る事業」と「ライト層向けコンテンツ造成に係る事業」の２つの方向からの取り組みを行った。

訪日グローバルキャンペーン Enjoy my Japan

海外の旅行者の７つのパッション



欧米豪主要６カ国において大規模アンケート調査を実施し、自然や文化の分野に跨る７つの主要パッション（興味関心）を特定。

- **Tradition**　伝統文化や歴史的遺跡・建築などを楽しむ
- **Cuisine**　食事やお酒を楽しむ
- **City**　大都市の刺激、エンターテインメントを楽しむ
- **Nature**　豊かな自然を楽しむ
- **Art**　アートやデザインを楽しむ
- **Relaxation**　リゾートや宿泊施設での滞在を楽しむ
- **Outdoor**　アウトドアアクティビティを楽しむ

【２】事業全体の実施状況

１． 実施項目

事業実施にあたっては、下表のとおり、①ターゲット層に訴求する２つのタイプの滞在型コンテンツ（本格派向けコンテンツ及びライト層向けコンテンツ）を企画開発し、②コンテンツ造成に付随する情報拠点の整備を行うとともに、③コンテンツ造成及び造成後の運営に不可欠な地域住民の意識醸成をはかるため、必要な施策を実施した。

	実施項目		実施概要
コンテンツの開発・造成			外国人及び専門家 10 名の意見・助言を基にコンテンツを造成
	本格派向けコンテンツ	「Shikoku88」の完歩を目指す外国人を対象として、四国遍路のスタートの地である徳島県において３つのトレーニング・プランを造成。 ・日帰りプラン ・短期プラン（１泊２日程度） ・オプショナルプラン	「最もニーズが高い１泊を標準とし、短縮及びオプション付きを加えることが効果的」との専門家の意見を反映して、３つのプランを造成した。 ・日帰りプラン ・短期プラン（１泊２日程度） ・オプショナルプラン
	ライト層向けコンテンツ	周辺観光と併せて、遍路体験もしてみたい外国人を対象とした日帰り又は１泊２日程度コンテンツを７件以上造成。	１泊２日程度のコンテンツを四国全体で 9 件造成。 ・徳島県 2 件 ・香川県 2 件 ・愛媛県 3 件 ・高知県 2 件
	素材集の作成と滞在型旅行商品の提案	造成したコンテンツをまとめた素材集を作成する。英語翻訳を必須としコンテンツの魅力が伝わる写真などを貼付する。 造成したコンテンツを活用した滞在型旅行商品を 4 件以上提案する。	本格派向け素材集１式（成果物①、②、⑤、⑥）ライト層向け１式（成果物③、④、⑦、⑧）を作成した。 滞在型旅行商品として本格派向け 1 件、ライト層向け 4 件（成果物⑪）を作成した。
情報拠点整備	宿坊等	遍路を行う者にとって、灯台的な役割を担い、造成したコンテンツに紐付けされた情報拠点となる施設（宿坊等）を各県１～２カ所程度整備。	四国全体で 25 件整備した。 ・徳島県　7 件（内本格派 4 件） ・香川県　4 件 ・愛媛県　5 件 ・高知県　9 件
	それ以外	宿坊以外の既存の施設（おもてなしステーション、道の駅を含む）についても視野に入れ、検討。	情報拠点（候補）先への説明にあたっては資料③等を使用した。

２．実施手法

事業を効果的に遂行するため、（一社）四国ツーリズム創造機構、（一社）イーストとくしま観光推進機構との連携により、①コンテンツ開発に関する過去の調査等の活用、②外国人・専門家によるワークショップの開催、③ガイド等の養成、④海外旅行会社等の招請、⑤地域住民等意識啓発セミナーを、下表のとおり実施した。

	実施手法	実施概要
①過去の調査調事業のデータやオープンデータの活用	コンテンツ開発にあたり、ニーズの把握、改善点を明確化するために、以下の調査・分析を行う。 ・過去の調査、オープンデータの活用。 ・過去の調査データに無い項目について、その項目に特化した調査・分析を実施。	本事業には以下の調査結果を活用した。 ・過去の調査 「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」（四国アライアンス・2018 年） 「体験型観光コンテンツ市場の概観」（観光庁・2019 年） ・新たな調査 「“歩き遍路”を目的とした欧米豪からの訪日外国人旅行者の受入環境整備対策事業」（百十四経済研究所・2019 年）
②ワークショップ等の開催	コンテンツの開発、検証、課題抽出、磨き上げを行うため、以下を構成員とするワークショップを実施 DMO、外国人（日本在住の外国人を含む）、四国遍路の実態や状況を普段から把握している関係者、専門家	ワークショップを 7 回開催した。 ・本格派向け 2 回 ・ライト層向けコンテンツ造成 5 回 ・それ以外に検討会 2 回実施。
③コーディネーター及びガイドの育成	造成したコンテンツや情報拠点等で以下の業務を行う人材をピックアップして育成する。人材の育成にあたっては、実地研修を取り入れて行う。 ・コーディネーター育成 5 回 ・ガイド育成 5 回	・徳島県にて本格派向けコーティネーター養成講座を 5 回開催 ・ライト層向けガイド養成講座を香川県、高知県、愛媛県各 1 回、計 3 回開催（資料①参照） ・コーディネーター、ガイドのためのマニュアルとして成果物⑤、⑥、⑨、⑩を作成した。
④海外旅行会社等の招請とブラッシュアップ	造成されたコンテンツについて、課題抽出のためのモニタリングとして海外旅行者等を招請し、検証、修正、磨き上げを行う。 ・海外旅行会社と欧米向けに事業を展開するランドオペレーター等を 3 名選定し、2 回招請。 ・1 回目は課題抽出のためのモニタリング、2 回目はモニタリングを踏まえた修正結果の検証を行う。	3 名を招請し、2 回実施した。各回 2 組に分かれてコンテンツ候補地をモニタリングした。 1 回目（課題抽出） 第 1 組　12 月 9 日～13 日（2 名） 第 2 組　12 月 19 日～22 日（1 名） 2 回目（修正結果の検証） 第 1 組　2 月 10 日～14 日（2 名） 第 2 組　2 月 19 日～24 日（1 名）
⑤地域住民意識啓発セミナー等の実施	コンテンツ造成後の運営、連携に係る地域住民の理解や協力を得るために、地域住民等意識啓発セミナー等を実施する。 ・セミナー形式 4 回、個別訪問形式 10 回程度	関係者の理解の浸透や協力要請を効果的に実施するため、幅広い関係者を巻き込むべく集合セミナーと個別訪問による説明を企画し実施した。 ・座学セミナー2 回（高知県、愛媛県） ・地元住民等への個別訪問 12 回、 ・その他松山市内、高松市内の関係業者先を個別訪問（2 回） （資料②、③、④を参照）

［第１編］

【３】本格派向けコンテンツ造成事業

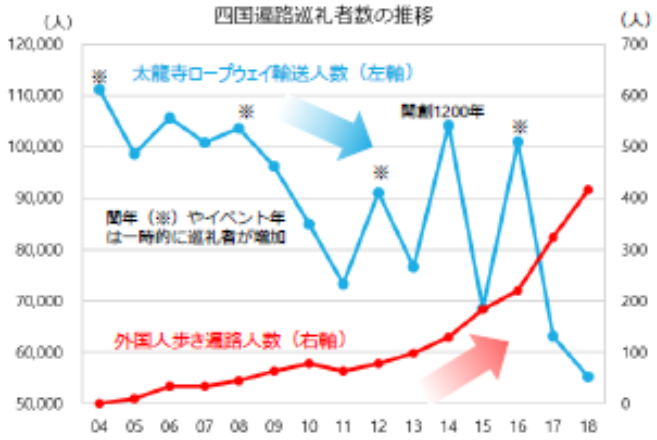
１．コンテンツ造成の背景

歩き遍路は、中山間部の過疎地を含む 1,200km・札所 88 ヶ寺を 40～50 日かけて歩く巡礼体験（回遊型観光コンテンツ）であり、外国人歩き遍路は、生活習慣・文化の異なる環境で長期間過ごすこととなり、事前のガイダンスや旅ナカの質問・困りごと等へのサポートが特に必要と考えられている。このような要請に応えるかたちで、有識者やボランティアが徳島県内の霊場や遍路道において、外国人遍路を支援するためのレクチャーや同行案内を行ってきた。

しかし、近時、歩き遍路に関心を示す欧米豪の外国人旅行者が急増しており、以下の環境変化を踏まえると、早晩ボランティア等では対応できなくなる状況が予想される。また、札所 88 ヶ寺を完歩した外国人遍路へのアンケートやインタビューから、歩き遍路が欧米豪の旅行者に対するキラーコンテンツとして強い訴求力を持つことが明らかになっており、本格派向けコンテンツ造成事業において、欧米豪旅行者の属性・ニーズ等を分析し、四国遍路のスタート地点で、完歩を目指す外国人歩き遍路のための３つのトレーニング・プランを造成する。

(1) 日本人遍路減少への対応

四国遍路を訪れる旅行者の数は、10 数年前と比べ 4 割程度の大幅な減少になっているとのデータが出ており（右図）、今後も減少が続くとの見方が多数を占める。そのようななか、札所、遍路道周辺の地域が旅行消費等を確保するためには、外国人歩き遍路の積極的な誘客は避けられない。

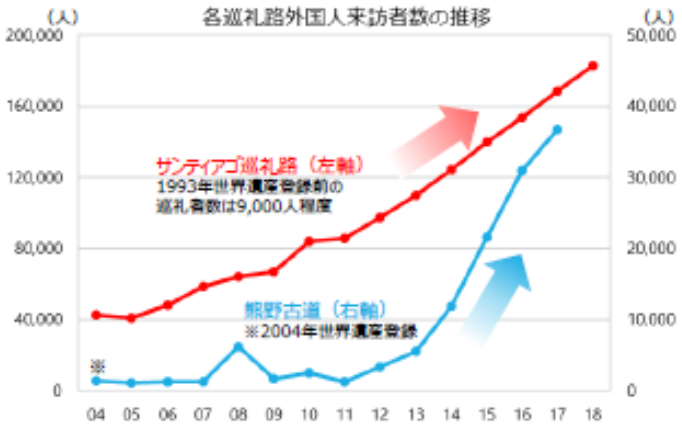


(2) 外国人遍路の増加

世界的な歩く巡礼旅ブーム等を背景に、四国遍路を完歩する外国人の数は過去 10 年間で 10 倍という大きな伸び率を見せているが、人数自体は 500 人程度（2020 年１年間の予想）にとどまっており、今後の施策次第で大幅な伸びが期待できる。

(3) 先進地域における巡礼体験者の増加

スペイン・サンティアゴ巡礼路、熊野古道等では、近時、巡礼者に対する受入環境の整備を徹底することで、外国人旅行者が飛躍的に増加している（右図）。世



資料：四国アライアンス「新時代における遍路受入態勢のあり方調査 2019 年」より

界文化遺産登録が旅行者の増加に寄与していることは無視できないが、両地域とも、受入環境の継続的整備が外国人旅行者の大きな伸びに繋がっていると考えられている。

２．調査データの活用

(1) 本事業で活用した調査データ

本格派向けトレーニング・プランにおける体験型メニューの内容、コーディネーターが提供すべきサポート情報や周辺観光情報、訴求力のある巡礼プランの構築方法等を検討する際の参考として、以下の調査結果を用いた。

① 過去の調査データ

- 新時代における遍路受入態勢のあり方調査～遍路宿泊施設の現状・課題等の調査～（四国アライアンス 2018 年）
  - ・外国人歩き遍路が求める情報や改善点
  - ・情報拠点として活用できる候補場所
  - ・高野山、熊野古道の視察、サンティアゴ巡礼路の文献調査にみる観光地運営の在り方
- 「体験型観光コンテンツ市場の概観」世界のコト消費と海外旅行者の意識・実態調査結果（観光庁 2019 年 3 月）
  - ・海外旅行時の嗜好性（期待する体験価値）
  - ・海外旅行で体験したいコンテンツ
  - ・海外旅行や訪日旅行時の意識・実態

② 追加的に実施した調査

- 宿坊、宿泊施設、遍路関係者への聞き取り調査

  情報拠点の抽出、地域住民セミナーの開催、地域関係者との情報交換を行うなかで、本事業の参考となる多くの情報を収集した。
  - ・外国人歩き遍路の困りごとの内容・発生地域
  - ・宿泊施設経営者が歩き遍路やコーディネーターに期待すること
  - ・四国遍路とロングトレール、サイクリングの関り方
  - ・宿泊＋体験型コンテンツ提供の必要性
- 「“歩き遍路”を目的とした欧米豪からの訪日外国人旅行者の受入環境整備対策事業」（2020 年度運輸局事業・百十四経済研究所受託）

  並行して実施している遍路関連事業の成果の活用として、欧米豪の歩き遍路のアンケート、聞き取り、動態調査を活用した。
  - ・外国人歩き遍路による四国遍路への期待と完歩後の満足度
  - ・古道、アスファルト道等、実際に利用した巡礼路
  - ・外国人歩き遍路の困りごと、トラブル等と発生場所

(2) 分析結果のコンテンツ造成への活用

本格派向けトレーニング・プランは、「安全で快適な完歩」という基本コンセプトに加え、「周辺観光を含めた充実した巡礼体験」という視点が求められる。従って、分析結果を踏まえ、宿泊、歩き方、困りごと等への対応だけでなく、コーディネーターによる巡礼プラン提案の際

に、体験型周辺観光まで提案できる水準を目指す。

① 外国人歩き遍路の困りごとやトラブルの解消への取り組み

・利用すべきでない古道や道選びの留意点

・宿泊予約のトラブルを避ける指導

・ベジタリアン、ビーガン等、食事確保の対応

② 外国人旅行者が期待するガイド付きコンテンツの整備と磨き上げ

調査結果で、ガイド付き現地ツアーへの参加意欲が強いことから、以下のことに注力する。

・ガイド付きトレーニング・プランの早期商品化に向けた磨き上げ

・コーディネーターが巡礼途中のガイド付き観光コースを提案できる仕組み造り

③ トレーニング・プランの中で外国人旅行者が期待する体験価値を具現化

国・地域、セグメントに関わらず、全般的に以下の体験項目を高く評価する傾向があり、コンテンツ造成に当たっては、そのような外国人旅行者の期待を盛り込む。

・現地でしかできないことなど、本物の体験

・じっくり時間をかけて体験

・自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験

・家族や友人に話せるような旅先での面白い体験

３．コンテンツの造成

(1) 外国人遍路の多様性への対応

四国遍路を、訪日外国人旅行者に対する観光資源として捉えた場合、1,200km を回遊する巡礼または歩き体験の場として、様々な考え方や価値観を持った多くの外国人旅行者を惹きつける素材となっている。コンテンツ造成にあたっては、外国人遍路が以下のような体験が可能となるようなトレーニング・プランを提供することが必要であり、「本格派向け（トレーニング・プラン運営指針)」を作成した。

・四国遍路の歴史、仏教文化、史跡等を知る体験

・トレッキングと周辺観光、自然体験

・日本人の日常に溶け込む体験

・歩き遍路同士の交流、地域の人たちとの交流

(2) 上質な観光地運営戦略

四国遍路は、産業空白地帯である四国南部の中山間部を長時間歩く回遊型の体験型観光コンテンツとして、地域との共存を特に重視すべき観光資源であり、コーディネーターはそのような観点から以下の観点からガイダンスを行うことで、上質な観光地としての発展を目指す。

・宿泊、体験型観光プラン等において一定の旅行消費を促す

・お接待を受けるだけでなく、受けた好意を地域に還流させるような行動を促す

・地域住民との良好な接点を創出できるような交流を促す

(3) コンテンツ造成の概要

本格派向けコンテンツとしてのトレーニング・プラン造成にあたっては、上述の四国遍路の多様性を積極的に生かすため、日程、トレーニング内容について、幅広い外国人旅行者に対応

できる柔軟なコンテンツの造成を目指した。具体的には、ワークショップのほか、遍路文化研究者、ガイド実績のある有識者、山岳巡礼のエキスパート等との意見交換を頻繁に行い、巡礼路の大半を歩こうとする外国人旅行者が、その目的を安全かつ充実した態様で達成できるよう、「１番札所を起点とした巡礼体験とコーディネーターによる説明・助言とをセットにした体験型観光コンテンツ」として３つのプランを造成した。→　成果物①、②、⑤、⑥

	区　間	テーマ	対象者
プラン 【１】 ＜Short＞ １日	1番札所霊山寺 ～6番札所安楽寺 （必要に応じて、～3番札所または4番札所に短縮可能）	○基礎知識 ・装備、遍路のマナー ・宿泊、食事等 ・歩き方（プランの立て方） ・ルートや標識の探し方	時間的制限があるなか、最低限の知識を手短に習得すれば十分と考えるサンティアゴ巡礼やロングトレール経験者等
プラン 【２】 ＜標準＞ 1泊	1番札所霊山寺 ～6番札所安楽寺 （安楽寺では宿坊での勤行体験等）	○基礎知識 ・装備、遍路のマナー ・宿泊、食事等 ・歩き方（プランの立て方） ・ルートや標識の探し方 ○宿坊体験 ・夜勤行への参加を通じて仏教の基礎知識を説明 ・宿泊予約の取り方、チェックインや過ごし方、食事・風呂・洗濯、翌日以降の準備等を説明 ・夜勤行後、必要な説明を行ってガイドは終了	宿泊施設の滞在時間も含めて、遍路の一日の流れ全体について体験学習を行い、仏教や遍路文化の基礎的知識の習得まで希望する旅行者
プラン 【３】 ＜ｵﾌﾟｼｮﾝ＞ ＜Short＞又は＜標準＞にオプションとして追加	1番札所霊山寺 ～6番札所安楽寺 ＋ オプション内容に従ったロケーションで実施	「プラン1」又は「プラン2」に受講者の希望に沿った「オプション」を追加 ○オプション 1 開始前日に余裕をもったサポートを実施 ・遍路用品購入サポート ・札所での参拝方法の指導等 ○オプション 2 山間部の遍路道のサポート ・11 番札所藤井寺～12 番札所焼山寺 ・可能であれば、別格1番大山寺（6番札所安楽寺から日帰り）	遍路向けの物品の購入の知識がなく、相談したい旅行者 日本人と同様の手順と作法による参拝を計画している旅行者 登山や長距離自然道の歩行に不安があり、ガイドによる同行サポートを希望する旅行者

４．コーディネーター

(1) コーディネーターの役割

コーディネーターは、上表のトレーニング・プランのガイドとして、外国人遍路に対し、道中1,200kmを歩く中で生じるトラブルやストレスに対処しながら四国遍路の魅力を最大限享受するための知恵を伝授するための指導を行う。具体的には、四国遍路のスタート段階で、遍路に関する説明、巡礼生活や充実した巡礼のための助言等を行い、最終的には、旅程プランの提案までできる能力が求められる。このようなコーディネーターの役割を念頭に置いて育成プランやマニュアル類の作成等を進めた。

(2) コーディネーターの育成

① 育成プログラムの実施

通訳案内士や通訳経験者等約 40 人をピックアップし、下表のとおり、徳島県内の札所・巡礼路において OJT によるコーディネーター育成のための「お遍路インバウンドガイド講座」を5回に分けて実施した。→　資料①参照

実施回・日	講　師	札所・遍路道	参加者
第1回目 10月13日	・英語・遍路文化：徳島大学モートン准教授、 ・ガイド指導：ツーリズム徳島黒田代表 ・山歩き・装備：インバウンドコーディネーター岩本氏	①霊山寺～③金泉寺、⑤地蔵寺～⑥安楽寺・宿坊泊	29名
第2回目 10月14日		④大日寺～⑤地蔵寺～①霊山寺	29名
第3回目 11月2日		⑥番十楽寺～⑧番熊谷寺～⑨法輪寺～⑩番切幡寺	23名
第4回目 11月30日		⑬番大日寺～⑭番常楽寺～⑮国分寺～⑯観音寺～⑰井戸寺	22名
第5回目 12月1日		⑳番鶴林寺～太龍寺道～一宿寺～かも道～㉑太龍寺・捨身ヶ嶽～道の駅鷲の里	25名

② 育成プログラムの内容

コーディネーターには、英語力、四国遍路の知識に加え、観察力、柔軟性、体力、コミュニケーション能力等、多様な資質と能力が求められる。当初、OJT による下表の育成項目を設定した育成プログラムを計画したが、参加申込者の状況を見ると、そのようなレベルに達している人材の数は限定的だと判断した。そのような状況のもと、5回のガイド育成プログラムは「英語で札所や遍路について簡単な案内を行う観光ガイドの育成」のためのプランで行い、段階的にレベルを上げていく方針に切り替えて実施した。

育成方法	育成項目（予定）
ガイド育成プラン (5回)	・四国遍路の歴史、文化に関する事項 ・日数、経験、体力等を考慮した巡礼プラン作成の助言 ・遍路用品や作法に関する事項 ・歩き方、荷物、食事、宿泊に関する事項

③ コーディネーター人材の状況

5回の育成講座を通して、「通常の英語ガイド」として即戦力化できる人材は相当数確認できたが、外国人歩き遍路を指導するコーディネーターとして登用可能な人材は限られていた。更

に、体力まで考慮すると、英語ガイドとしての能力と山登りの体力を併せ持つ人材は少なく、現時点では、平坦地（①霊山寺～⑥安楽寺）と山岳地域（⑪藤井寺～⑫焼山寺）とでは、別のコーディネーターに担当させることが現実的だと考えられる。

トレーニング・プランでは、「プラン３」において、山間部の遍路道のサポートをオプションとして提供しており、健脚で体力に自信のあるコーディネーターが、プラン１又は２の担当者から受講者を引き継ぎ、山間部を案内するような役割分担が容易なプランとしている。

(3) 遍路コーディネーターの確保

今回のガイド育成プログラムでは、人材の資質と数を確認する段階にとどまっており、徳島県だけでは十分な数の人材が確保できないという感触も得ている。しかし、四国全体で考えると、通訳案内士資格保有者のなかで相当数の優秀な人材が確認でき、四国遍路を舞台に活躍したいという強い意欲を持つ人たちも数多く存在する。そのような中で、高松市には、公認先達と通訳案内士の資格を併せ持つ海外留学経験者も存在し、志を同じくする者が組織的に連携しようとする動きもみられる。

今後、コーディネーター養成プランを継続的に実施することが必要であり、一定水準に達した通訳案内士を「遍路コーディネーター」(公認先達とは全く異なり、札所ではなく、生活、トレッキング、周辺観光を指導）として登録する仕組みも有効である。

５．情報拠点

(1) 情報拠点（候補）への依頼

情報拠点は、ライトコンテンツ造成地域を中心に抽出・調整しており、その中で、四国遍路の観光振興に対する意識が高く、外国人歩き遍路に対する支援が期待できそうな拠点を選定してリストアップした。あくまで、無償のサービス提供となるため、本格派コンテンツ造成事業においては「歩き遍路のための最低限の灯台機能の実現」を念頭に置いた対応となっており、現時点では、「情報拠点（候補)」と位置づけ、今後、情報拠点が期待する環境整備を進めながら、Win-Win の関係が実現できる形で整備を行うことが必要だと考えている。

→　P.31「情報拠点一覧」参照

(2) 情報拠点整備のあり方

① 情報拠点に期待する役割

情報拠点は外国人歩き遍路の「灯台」としての役割が期待されているが、それ以外に、各地域の遍路に関する情報（周辺を歩く外国人遍路の動向・要望・困りごと、宿泊・飲食施設、地域の行事、周辺観光、災害等）を収集する「アンテナ」としての機能が期待できる。コーディネーターは、外国人歩き遍路に対する指導、提案、情報提供が必須であり、その情報は、巡礼路沿線に散りばめられた情報拠点から吸い上げることが効果的だからである。

② 将来展望

情報拠点を選定する際に、宿泊・物販施設等の管理者、オーナーと意見交換するなかで、それらの施設には、上場企業の管理職、外資系企業や海外勤務経験者等の UIJ ターン人材を中心に、意識が高く行動力のある人たちが含まれていることが確認できた。都会地から地域に入って宿泊・物販施設を経営しているようなケースである。彼らは宿泊施設経営の在り方や四国全

体での情報連携等、数々の問題意識を抱えているが、共通の問題意識は、「四国に情報連携の核となる組織が存在しないこと」であり、彼らは、四国遍路の観光振興を先導する組織があれば、そこに地域情報を提供することは厭わないとの意向を持っている。

今後、トレーニング・プランを磨きあげて行くうえで、受講者の属性・希望に応じて巡礼路周辺の宿泊・飲食施設や体験型方観光コンテンツに関するアップデートされた情報の提供が不可欠だと考えられ、情報拠点を「アンテナ」として活用して、コーディネーターと情報連携する仕組み作りを行うことが必要である。

６．地域住民意識啓発セミナーの開催

（1）実施状況

地域住民・関係者に対する、造成したコンテンツや地域価値の理解、外国人受入の必要性等の意識醸成を目的として、幅広い関係者を巻き込んで地域住民意識啓発セミナー等（含、訪問による個別説明）を実施した。

（2）説明内容

啓発セミナーにおいて、地域関係者によるトレーニング・プランを受講した外国人歩き遍路に対する情報提供や困りごとへのサポートにも言及し、本格派の外国人遍路が、不自由なく巡礼できる気運の醸成に努めた。

７．事業化へ向けた取組

（1）現状認識

トレーニング・プランは、優れた遍路コーディネーターとのセットになった体験型観光コンテンツであり、欧米豪の歩き遍路が増加するなか、整備が急がれる項目の一つである。現時点で下表のような認識を持っており、課題解決により事業化を急ぎたい。

項　目	現状と課題
① トレーニング場所として優れた環境	トレーニングの素材として、①霊山寺～⑥安楽寺で遍路の基礎を指導し、⑥安楽寺の宿坊体験、⑪藤井寺～⑫焼山寺の山岳古道体験等、周辺に必要な素材は揃っており、プランの運営には比較的良好な環境がそろっている。
② コーディネーター人材のレベルアップ	①霊山寺～⑥安楽寺宿坊の指導については、短期間で育成可能な通訳士レベルの人材は数名確認できているが、巡礼計画全体の助言や山岳古道の案内が可能と考えられる人材は限定的であり、育成を急ぐ。
③ 提供すべき遍路情報の収集	コーディネーターは、徳島県内だけでなく、四国全体の巡礼路や周辺情報を一定程度把握しておく必要がある。トレーニング・プランの強化に向けて、「四国４県の情報収集、管理・保管、更新を行う仕組み（遍路情報センター等）の構築」が急がれる。
④ 一定のサービスレベルの確保	トレーニング・プランは、これまで一部の有識者がボランティアとして提供してきたサービス（巡礼開始後の電話やメールでの相談にも乗って来た）であり、内容を参考にしながら、楽しむ要素を加えるなど、付加価値をつけて提供することも必要だと思われる。

(2) 事業化に向けた対応

今後、外国人歩き遍路の急速な伸びが期待されるなか、上述の課題解決を急ぎつつ、トレーニング・プランの事業化に向けた①または②の試行を進めることが望ましい。

項　目	試行プランの概要
試行①	講師の立場にある人材をコーティネーターとして登用し、試行的に有料でトレーニング・プランを運営する。あくまで試行であり、料金は低く抑え、アンケートにより、プランの対価として適正な金額を調査する。 なお、コーディネーター人材を同行させて人材育成の効率化をはかる。
試行②	育成途上にあるコーディネーター人材（2 人 1 組等）を投入して、「将来事業化を計画している」ことを説明したうえで、試行的に無料または廉価にトレーニング・プランを提供する。この試行により、一定水準のサービスの提供、人材育成の促進、トレーニングの対価として支払える金額の調査等を並行して行うことが可能となる。

(3) 運営指針等の活用

今般の事業で、トレーニング・プランの適正な運営やコーティネーターの育成にターゲットを絞った以下の書類を作成した。今後、「お遍路インバウンドガイド講座」を通して把握したコーディネーター人材の戦力化を図りつつ、効果的なトレーニング・プランに磨き上げていくために以下の書類を活用して、プランの試行や少人数の養成講座を継続する。コーディネーター候補者は、徳島県内に限らず、香川県で遍路関連のグループが立ち上がっており、それらの人材も積極的に活用する。

書類名	概　要
本格派向けコンテンツ トレーニング・プラン運営指針（成果物⑤）	トレーニング・プランの運営主体が、同プランを運営して行くうえで不可欠の情報をまとめたものであり、イーストとくしま観光推進機構による活用を想定している。
本格派向けコンテンツ コーディネーター・ガイド用マニュアル（成果物⑥）	トレーニング・プランを利用する外国人歩き遍路に対する指導、情報提供をコーディネーターが行う際に利用するハンドブック。コーディネーターとしての役割や必要知識が網羅されており、コーディネーター研修等における活用を想定している。
本格派・ライト層共通 ガイドのための自主学習資料（成果物⑨）	通訳案内士が四国遍路について学習したり勉強会を開催する際の自主学習資料として活用されることを想定している。
本格派・ライト層共通 ガイド用のための自主学習資料（成果物⑩）	コーディネーターとして知っておくべき四国遍路に関する情報を、和英併記で記載。基礎的な項目だけでなく、88 ヵ所霊場の情報まで網羅しているのが特徴。

８．コンテンツ造成に至る検討・協議

本格派向けコンテンツ開発事業として、３回のワークショップを開催した。

・第１回ワークショップ　令和 1 年 8 月 30 月（金）（ライト層向けコンテンツ造成事業と共通）

・第２回ワークショップ　令和 1 年 11 月 13 日（金）

・第３回ワークショップ　令和 2 年 2 月 18 日（火）

■第 1 回（ライト層向けコンテンツ造成事業の中で報告）

1. 日時：令和 1 年 8 月 30 月（金）10：00～12：00
2. 場所：サンポート合同庁舎　北館 702 号会議室
3. ライト層向けコンテンツ開発事業と共通開催

■本格派 第2回

1. 日時：令和1年11月13日（金）13：00～15：00
2. 場所：JR徳島駅クレメントプラザ会議室
3. 出席者

【委託元】

・大麻　浩三　　国土交通省四国運輸局　国際観光課　課長
・増田　有美　　国土交通省四国運輸局　国際観光課　係員

【有識者】

・黒田　忠良　　一般社団法人　ツーリズム徳島　代表理事
・宍戸　栄徳　　NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク　事務局長
・岩本　昌子　　コーディネーター/ライター/通訳・翻訳/ガイド

【連携先】

・勇　寿憲　　一般社団法人　イーストとくしま観光振興機構　専務理事
・青木　伸太郎　　一般社団法人　イーストとくしま観光振興機構マネージャー

【受託者】

・西川　良隆　　一般財団法人　百十四経済研究所　専務理事所長
・村尾　耕太　　一般財団法人　百十四経済研究所　主任研究員
・松本　佳代子　　一般財団法人　百十四経済研究所　研究員
・久保田　宏平　　株式会社　穴吹トラベル　インバウンド事業部係長
・ｶﾅﾙ・ｻﾞﾝｼﾞｰﾌﾞ・ﾗｽﾞ　株式会社　穴吹トラベル　インバウンド海外事業課

4. 議事

議題（1）事業コンセプトの再確認

・「同行トレーニング・プランは、四国88カ所霊場の完歩を目指す外国人にターゲットを絞った体験型観光コンテンツであり、利用者のニーズに応じて３種類のプランを用意する」ことについて確認。

議題（2）事業の報告と協議

○ガイド養成講座（英語編）について

・西川所長より第1回～第3回までの実施報告および第4回、第5回の予定について説明
・外国人歩き遍路の案内人として求められる資質や条件、及びそれに照らした適正人材の見極め方針について説明。

議題（3）成果物の骨子

○本格派コンテンツ3種類（案）

・出席者からの意見に基づき、基本となるベーシックプランを造成し加えて短期プラン及び長期プランを造成して3種類とすることとなった。
・ベーシック（1泊2日）･･･前日ガイダンス～No.1霊山寺からNo.6安楽寺～宿坊案内あり
・短期プラン（1日以内）･･･前日ガイダンス～No.1霊山寺からNo.6安楽寺（宿坊案内なし）
・長期プラン（2泊3日）･･･ベーシックに加え焼山寺までの山岳地帯ガイダンスまで

○運営指針（案）について

・成果物イメージについては大筋で了解となり、完成へ向けて進めることとなった。出席者か

らの意見に基づき、危機管理や安全管理（けが、病気）についても盛り込むこと

〇主な意見・提言

・ガイド対象者の属性、体力、経験を把握することは重要でありその意味で前日ガイダンスは必須である。(宍戸氏)

・病気、けが、自然災害の発生時の対応を盛り込むことは重要である。(大麻課長)

・津波警報が出たときなど、とっさの避難行動については特に重要である。(岩本氏)

・ベーシックプランでは No.6 安楽寺で終了となるが、その後の行程の情報もガイドの知識として重要である。(岩本氏)

・外国人の嗜好や行動は千差万別である。ガイドにも様々なキャラクターがいると思われるので、最終的にはユーザー側からチョイスできる体制ができれば理想である。(勇専務)

■本格派 第２回ワークショップ資料１（一部掲載）

○四国遍路トレーニング・プラン運営指針（案）

2019 年 11 月 13 日
『四国遍路』滞在型コンテンツ開発事業
本格派第２回ワークショップ　添付資料①

四国遍路トレーニングプラン
運営指針（案）

～コーディネーターの心得と説明事項を中心に～

2019 年〇月〇日

一般社団法人イーストとくしま観光推進機構

目次

【第１節】総　論
1、本格派向けコンテンツ。
（1）同行トレーニングプラン。
（2）コーディネーター。

2、外国人遍路への接し方。
（1）四国遍路の観光コンテンツとしての特異性。
（2）把握事項。
（3）ガイド案内中に注意すべきこと。

3、説明・助言の内容。
（1）基本事項の説明・助言。
（2）留意事項。

4、コーディネーター。
（1）必要な特性。
（2）人材確保・適正判断。
（3）養成・訓練手段。

【第２節】各　論
1、指導の方向性の見極め。
（1）巡礼経験。
（2）巡礼プランとトレッキング経験、体力等。
（3）四国遍路を歩く目的。
（4）滞在日数、予算等。
（5）宗教、宗教観。
（6）職業、興味の対象。

2、生活上の基本情報。
（1）服装と装備（用意してきたものと買い足すもの）。
（2）宿泊施設の種類と選定・予約方法。
（3）英語版遍路地図。
（4）遍路道標の探し方と見方。
（5）歩くペースと無理のない旅程。
（6）食事・飲料水の入手の注意事項。
（7）トイレ・休憩。
（8）各種代金の支払い方法。
（9）所持金。
（10）食糧品の管理。
（11）治安・防犯。
（12）通信・コミュニケーション手段の確保。
（13）マナー・エチケット。
（14）「お接待」。

3、遍路関連情報の提供。
（1）遍路用品購入の指導。
（2）参拝手順・作法。

4、その他。

【第３節】同行トレーニングプランの一例。
1、日帰りコース（1番札所～6番札所）。
2、1泊2日コース（1番札所～6番札所～11番札所）。
3、山歩き遍路道コース（11番札所～12番札所～神山町鍋岩地区）。

【付録】コーディネーター用英文単語・フレーズ集

四国遍路トレーニングプラン運営指針

～コーディネーターの心得と説明事項を中心に～

本指針は、コーディネーターが、四国 88 カ所霊場の完歩を目指す外国人（以下「外国人遍路」という）に対し、３種類のトレーニングプランを案内する際の留意事項をまとめたものである。本指針は、管理運営者の利用を想定しており、コーディネーターの育成や四国遍路トレーニングプラン（以下「同行トレーニングプラン」という）の具体的説明は、本指針に基づきマニュアル、手引き等を作成して行う。

【第１節】総　論

1．本格派向けコンテンツ。

（1）同行トレーニングプラン。

同行トレーニングプランは、四国 88 カ所霊場の完歩を目指す外国人にターゲットを絞った「１番札所を起点とする巡礼体験とコーディネーターによる説明・助言とをセットにした体験型観光コンテンツ」であり、利用者のニーズに応じて３種類のプランを用意している。

	区　間	テーマ	対象者
プラン１，日帰り	１番札所霊山寺～５番札所地蔵寺（または３番か４番まで）	最低限の事項を手短に説明。 ・装備、遍路のマナー。 ・宿泊、食事等。 ・歩き方（プランの立て方）	四国滞在期間など時間的制限があり、最低限の知識を手短に習得し先を急ぎたい旅行者。
プラン２，1泊2日	１番札所霊山寺～６番札所安楽寺（またはその先数ヶ寺を加えて、10番札所までのいずれかの寺まで）	プラン１に追加し、 宿坊体験と重要事項の再確認。 ・宿坊体験（朝夕の勤行への参加含む）を通して仏教・お接待文化・地域の人々の生活などの説明。 ・宿泊や歩き方など、遍路の全期間毎日関わる重要事項の再確認。	早朝や夜も含む遍路の一日の流れ全てについて学ぶことを希望し、遍路や日本文化により深い関心を持つ旅行者。
プラン３，2泊3日	１番札所霊山寺～12番札所焼山寺～鍋岩地区まで（またはもう１泊して１３番札所まで）	プラン１及び２に追加し、 山道の遍路道を歩く指導。 ・「遍路ころがし」と呼ばれる難所の山道区間に同行し、適切な登山歩行を指導。四国遍路の 20％を占める山道歩きでの負傷や事故、旅程の狂いを予防できるようにする。 ・服装・荷物・行動食・宿泊予約野タイミングの見極など。	登山や長距離自然道の歩行の経験が少なく、体力に不安を感じており、有償ガイドガイドによるしっかりとしたサポートを希望する旅行者。

（2）コーディネーター。

コーディネーターとは「同行トレーニングプラン」のガイドとして、外国人遍路が文化的・言語的・体力的違いなどから道中に感じる様々なストレスに上手く対処しながら四国と歩き遍路の魅力を最大限享受できるようにサポートする者をいう。具体的には、四国遍路のスタート段階で外国人遍路に遍路として知っておくべき事項の説明や、異文化圏での生活の知恵や本人にとって楽しく実り多い旅にするための助言、旅程プランの提案などを行う。

コーディネーターは、外国人遍路が自力で事故なく有意義に完歩できるようになるために広範な事柄についてサポートを行うものであり、数時間～一日程度の一時的な遍路体験の提供や遍路道沿いの観光案内が主となる一般の観光ガイドと異なる。

2、外国人遍路への接し方。

（1）四国遍路の観光資源としての特異性。

四国遍路は、札所、遍路道、伝統、お接待、自然、原風景、周辺観光等の観光素材に、巡礼文化というバックボーンを通すことで回遊型の統合的観光資源を構成しており、観光事業の観点からは、四国 88 カ所霊場をめぐる体験型コンテンツと位置付けられる。

四国遍路を訪れる外国人の宗教・宗教観は多様であり、来訪の目的・動機も多岐に渡っている。観光目的や日本文化・仏教文化への関心だけでなく、自分探し・心の安らぎを求めて・地元の人々との触れ合いを期待して等、精神面の充足が動機の中で大きな割合を占めているのが、国内の他の外国人観光客訪問地と比べて際立っている点である。

このように四国遍路は多様で奥深い観光資源であり、コーディネーターはサポートする外国人遍路と最初の段階で十分にコミュニケーションとって、個人個人の特性や旅の目的などを正確に汲み取り、各人に合わせて最適にカスタマイズしたサポートを提供できる能力が求められる。

一般の観光ガイドであれば、遍路の歴史や札所や遍路道沿いの名所・旧跡の案内、境内での礼拝の作法、ご本尊や弘法大師等の説明に力点を置くことが多い。一方、「同行トレーニングプラン」のコーディネーターは、サポートする外国人遍路が「安全に有意義に完歩できること」や「個人個人の旅の目的や興味の対象は何か」を最重要事項と考え、広い視野と多くの引き出しを持ち、個人に合わせて違う手法を駆使してサポートしていく。対象となる外国人遍路の興味の度合いによっては、寺や仏教の説明や参拝方法などは省く場合もある。

（2）把握事項。

コーディネーターは、「トレーニングプラン案内マニュアル」に沿って、個々の外国人遍路の特性や希望に合わせた最適な説明・助言を行うことが求められる。そのために、外国人遍路と十分にコミュニケーションをとって以下の事項を把握し、どこに力点を置いてどのような説明・助言を行うべきかを判断する。

・体力、巡礼または長距離歩行旅の経験。
・四国遍路の目的および、自身が遍路に期待している事項。
・本人の宗教や宗教観。

■本格派 第２回ワークショップ資料２

ガイドを行う際のポイント（その１）No.１霊山寺～No.６ 安楽寺　１／２

2019年11月13日
「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業
本格派第2回ワークショップ　添付資料②

ガイドを行う際のポイント（その1）

No.1霊山寺~No.6安楽寺

第１番 霊山寺 → 第２番 極楽寺 → 第３番 金泉寺

四十四経済研究所

- スタート前　レクチャー、服装、所持品、用品購入、ガイド対象の属性把握
- 第1番霊山寺　札所内施設の基本構成、札所内での一般的マナーについて
- 道中　歩き遍路を行ううえでの基本知識（道案内表示、交通ルール、路上での一般的マナー）
- その他　ガイド対象の体力、経験に応じたペース配分、嗜好にあわせたガイド

第３番 金泉寺 → 愛染院 → 第５番 地蔵寺

四十四経済研究所

- 道中　わかりにくい道標、見間違えやすい矢印など注意喚起
- お接待　お接待を受ける際のマナーなど
- 登り坂道　体力に応じたペース配分、服装、シューズ、荷物などについて注意喚起

第５番 地蔵寺 →（第６番 安楽寺）

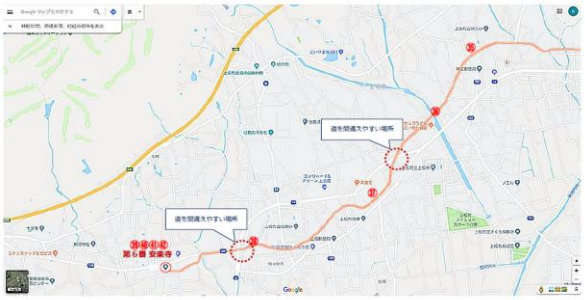
四十四経済研究所

- 休憩所　休憩所利用の際のマナーなど
- 宿泊施設　宿泊施設利用の際のマナー（予約、キャンセル、チェックイン時刻の順守など）
- 天気予報　天候の確認のほか、災害時の対応について（台風、地震、津波）
- その他　完歩を目指すための自己管理、事故・けが・病気などトラブル対応。

（第５番 地蔵寺）→ 第６番 安楽寺

四十四経済研究所

- 道中　ペース配分（チェックイン時刻に間に合う宿泊施設への到着）
- 宿泊施設　宿泊施設利用の際のマナー（施設内ルール、予約、キャンセル、チェックイン時刻の順守など）
- その他　宿坊での仏教体験、関連知識



四十四経済研究所

位置	場所	コーディネーターの役割	項目	対象	目的	番号
スタート前	前泊場所など	対象者に適したガイドを行うために属性を確かめる。（遍路交流サロンで前泊させると十分な時間を確保できる）基本的装備、服装や所持品について指導と購買支援を行う。	属性確認	経験、体力、嗜好など	ガイド対象をよく知り適切なガイドを行う	①
			装備、服装	遍路用品一式	歩き遍路と認められる外観を整える	
			装備、服装	服装、シューズ、その他所持品	全行程を歩きとおせる準備を整える	②
			所持品	ガイドブック、貴重品管理など	その他必携品をそろえる	
No.1　霊山寺	場内	最初の札所では、共通事項（札所場内の構成要素や場内内での基本的作法、歩様手順、マナーなど）をガイドする	作法の基本	他者への配慮、敬意など	巡礼者として周囲から認知される最低限のマナーについて知る	③
			各札所に共通する場内構成	山門、鐘楼、手水、本堂、大師堂、納経所	基本的な構成を知り、場内での一般的なルーチンやルールについて知る	④
			外国人にもわかりやすい仏像	薬師如来、地蔵菩薩、不動明王	仏像について（少し）知る	⑤
			その他の見どころ	納経揮毫所		⑥
No.1～No.2	遍路道中	基本的交通ルール、マナー、道標、お接待など、全行程の道歩きに共通必須事項についてガイドする。 体力、経験に応じたペース配分についてアドバイスする。 ガイド対象の嗜好にあわせた道中での見どころ解説、説明。	道標	ステッカー、シール、石標など	見誤らないように注意	⑦
			基本的交通ルール	押しボタン式信号機	山門正面の横断歩道	⑧
			宿泊施設、お接待	遍路交流サロン	善意で運営される施設、お接待について	⑨
			作法の基本（橋をわたる）	坂東橋	橋のうえで就をつかない、及びその理由についても。	⑩
			その他の見どころ	バルトの楽園	近代史（ドイツ人捕虜との交流）	⑪
			極楽寺石門		見過ごさないように注意喚起	⑫

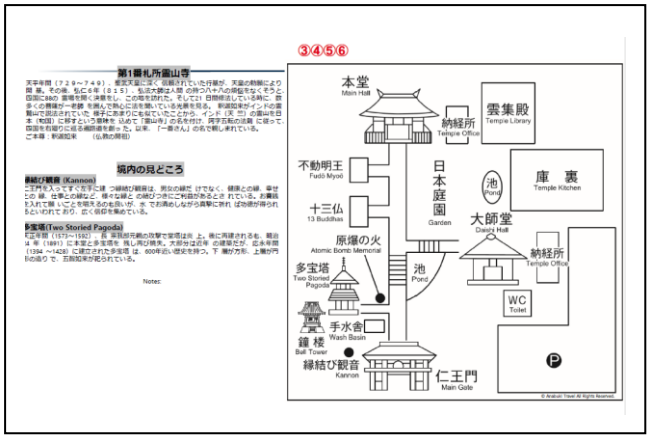
四十四経済研究所

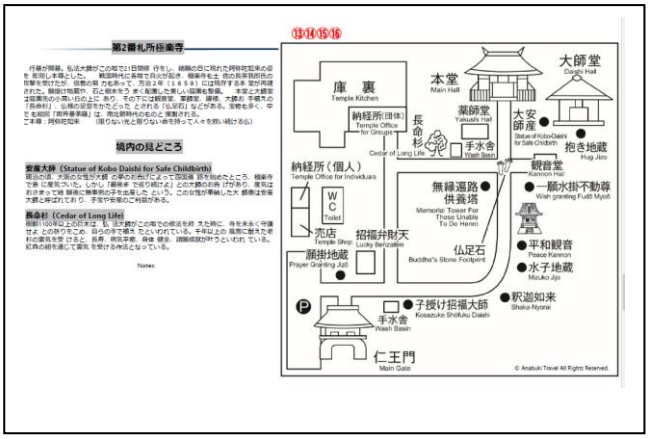
位置	場所	コーディネーターの役割	項目	対象	目的	番号
No.2　極楽寺	場内	共通事項を復習しつつ、要素を追加していく	作法の基本	基本的マナー、場内の構成など	基本事項習得の定着を図る	⑬
			各札所に共通する場内構成	大木（樹齢1,100年の長命杉） 大太を神聖なものとする日本文化について		⑭
			トイレに関する注意事項	和式、男女兼用など欧米にない仕組み	注意喚起、ガイド対象が女性の場合は特に重要	⑮
			その他の見どころ	石標（江戸時代）		⑯
No.2～No.3	遍路道中	道歩きの共通事項を復習しつつ、要素を追加していく	日本の日常風景	民家、田畑、果樹、あぜ道など	単調な農村部外の道での話題	⑰
			神社と寺院	鼎訪神社	道沿いの神社で、寺院との違いを説明	⑱
			標識	金泉寺へ向かうあぜ道を示す石標	わかりにくい道標について注意喚起	⑲
No.3　金泉寺	場内	自分でやらせてみて共通事項の定着を図りつつ、新たな要素を追加	その他の見どころ	黄金の井戸	弘法大師と“水”にまつわる多くの伝説	⑳
			昼食	コンビニ、マルナカなど	飲食店以外での食事の調達について。ゴミ処理、分別ルールについても。	㉑
			トイレに関する注意事項	和式、男女兼用など欧米にない仕組み	左記、金泉寺場内内のトイレで実例確認	㉒
No.3～愛染院	遍路道中		標識	大日寺へ向かう山道を示すシール、標識	わかりにくい道標について注意喚起	㉓
			その他の見どころ	吉右衛門（江戸時代？）		㉔
愛染院	お接待	お接待について解説	お接待文化について	愛染院のお接待所	お接待の意味、受けた際の作法	㉕
					住職との歓談（住職在寺の場合）	㉖

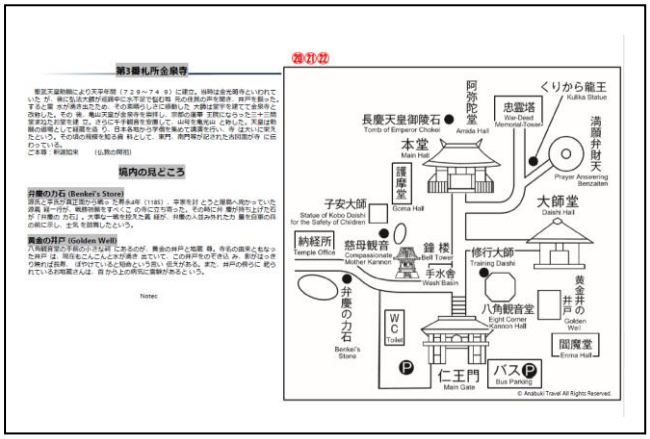
四十四経済研究所

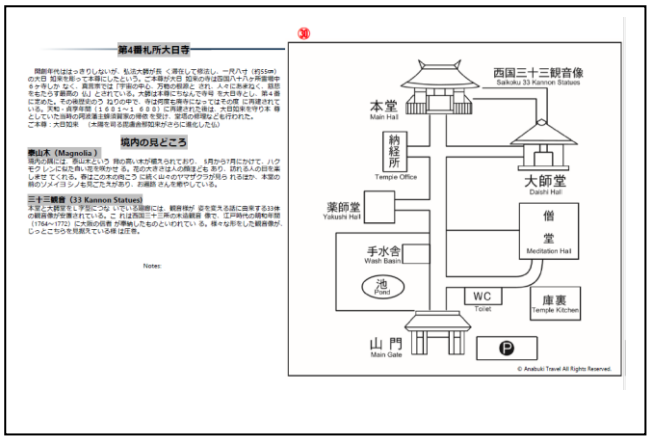
位置	場所	コーディネーターの役割	項目	対象	目的	番号
愛染院～No.4	遍路道中	登坂道の道中で体力に応じたペース配分や服装、シューズ、荷物について再度アドバイスする	日本の日常風景	民家、田畑、果樹、あぜ道など	単調な登坂道での話題	㉗
			装備、服装		疲労を感じるころを見計らって、適切な装備、服装、所持品について注意喚起	㉘
			所持品			㉙
No.4　大日寺	場内	共通事項の定着確認	トイレに関する注意事項		水洗男女別、障碍者用あり	㉚
No.4～No.5	遍路道中	道歩きの共通事項の定着確認	標識	地蔵寺へ向かう経路にあるシールなど	自力で正しいルートを探すことに慣れさせる	㉛
No.5　地蔵寺	地蔵寺	共通事項の定着	各札所に共通する場内構成	大イチョウの木	大木を神聖なものとする日本文化	㉜
			外国人にもわかりやすい仏像	500羅漢像	羅漢について説明	㉝
No.5～No.6	遍路道中	単調で長い住宅地を、リードしつつ、点在する休憩所の利用についてアドバイス、宿泊施設利用上のマナーについてアドバイスする。 間違えていたら軌道修正を早めにできるように道標や地図を確認させる オフラインで作れるMAPS.ME や、GoogleMapのダウンロードを推奨する	休憩所	コンビニエンスストア	コンビニの機能と活用について	㉞
			善意の休憩所	ヘンロ小屋プロジェクト（第44号陣屋）	善意の休憩所の成り立ちについて先にある休憩所や善根宿をの利用上のマナー、注意点について	㉟
			善意の休憩所	小椿休憩所		㊱
			宿泊施設に関する注意喚起	歩くペースを調整	チェックイン時刻を意識した行動について	㊲
			日本の日常風景	さとうきび畑		㊳

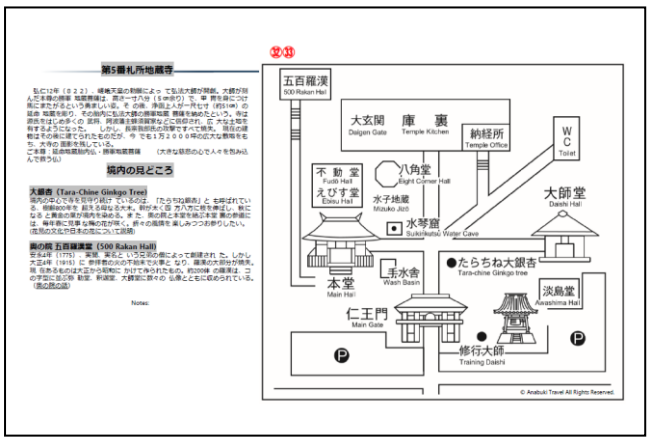
No.１霊山寺～No.６ 安楽寺　２／２

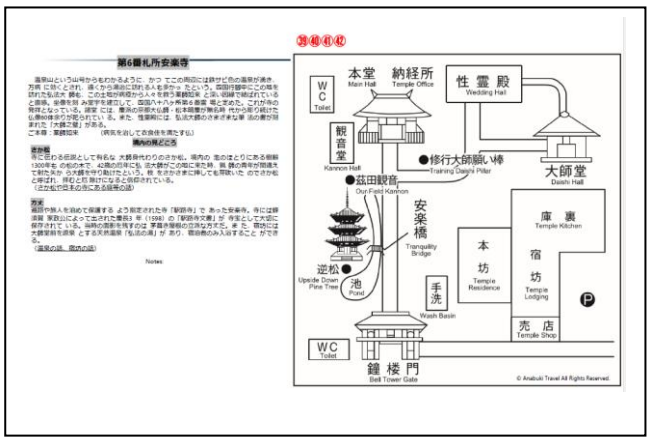












■本格派 第２回目ワークショップ資料３

ガイドを行う際のポイント（その２）No.６安楽寺～ No.10 切幡寺　１／２

2019年11月13日
「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業
本格派第2回ワークショップ　添付資料③

ガイドを行う際のポイント（その2）

No.6安楽寺～No.10切幡寺

【遍路道編1】第6番 安楽寺 → 第7番 十楽寺 → 第8番 熊谷寺　　百十四経済研究所

- 第6番安楽寺　宿坊で迎える2日目の朝と出発の準備と心構え。宿泊施設でのマナー
- 道中　初日で伝えた作法、マナーなどのほか、正しい道を見つける知恵、知識の定着を図る
- その他　嗜好にあわせて興味を引く素材（仏教、風景、地域住民など）の解説

【遍路道編2】第８番 熊谷寺 → 第9番 法輪寺 → 第10番 切幡寺　　百十四経済研究所

- 各札所　各札所に特有のみどころなどをとおして仏教文化への理解をうながす
- 道中　道中の風景や地元住民の様子をとおして日本文化への理解をうながす
- 第10番切幡寺　急坂、石段をのぼらせて荷物やシューズなど見直しと体調管理の重要性を理解させる

百十四経済研究所

位置	場所	コーディネーターの役割	項目	対象	目的	番号
No.6　安楽寺	宿坊	宿坊など宿泊施設を去る前の注意事項やマナーなどについて。また、必要に応じて、先々の宿泊施設の場所や予約の段取りや相談もしておくことを教えておく。（強制されるものではないが）遍路の装束をまとうことで周囲からの尊敬を得ることができ、外国人歩き遍路自身が気持ちよくより快適に過ごすことができることを教える。	体調確認	健康状態	気分や足の調子を自己管理する 疲労次第で休息日とすることも重要	①
			所持品、服装確認	遍路用品一式 服装、シューズ	忘れ物がないか自己点検させる	
			行程確認	地図、ガイドブック	自分自身でプランニングさせる	
			チェックアウト	支払い	チェックアウト時の注意点 室内点検、最低限かたずけ	
		無料の宿泊施設は、地域住民などの善意のもとにあることを理解させる	通夜堂、善根宿	安楽寺山門2階	無料の宿泊施設利用時のマナー	②
No.6~No.7	遍路道中	自分自身で正しいルートを選ばせる	道標	ステッカー、シール、石標など	見誤らないように注意 自分自身で発見、判断できるか	③
		No.1~No.6で学んだことの復習	基本的交通ルール	信号、横断歩道、右側通行など	一日目で学んだことを覚えているか 実践できるか	④
		ガイド対象の嗜好にあわせた道中での見どころ解説、説明。	その他の見どころ	真念しるべ石（江戸時代）	重要な遍路の史跡について解説（嗜好にあわせて）	⑤
			食事場所	たらいうどん店	当地名物（嗜好にあわせて）	⑥
No.7　十楽寺	境内	No.1~No.6で学んだことの復習	作法の基本	本堂、太子堂、納経所などでのマナーなど	他の参拝者への配慮など 実践できるか	⑦
		境内での過ごし方を定着させつつ新たな視点を提供する	その他の見どころ	水子地蔵、不動明王等	重要な仏教文化とその背景について解説（関心度合いによる）	⑧
No.7~No.8	遍路道中	さまざまな道標について注意喚起しつつ自分自身で正しいルートを選ばせる	道標	ステッカー、シール、石標など	自家用車向けの道標は、歩き遍路向けとは異なる場合が多いことに注意	⑨
		ガイド対象の嗜好にあわせた道中での見どころ解説、説明。	その他の見どころ	水田、田植えや刈り入れなど農作業	日本の原風景、稲作文化について解説（嗜好にあわせて）	⑩
		No.1~No.6で学んだことの復習	作法の基本	橋をわたる際のマナー	橋の上では杖をつかないことの再確認	⑪

百十四経済研究所

位置	場所	コーディネーターの役割	項目	対象	目的	番号
No.8　熊谷寺	境内		その他の見どころ	多宝塔（1774年建立）四国最大最古の塔	多宝塔について解説（嗜好にあわせて）	⑫
No.8~No.9	遍路道中	景観説明（田舎道、農村風景、地元住民）をとおして日本の文化への理解をうながす	その他の見どころ	水田、田植えや刈り入れなど農作業	日本の原風景、稲作文化について解説（嗜好にあわせて）	⑬
				茶店	地域住民とのふれあい 草餅、たらいうどん	⑭
				托鉢僧	僧侶の修行や暮らしぶりなどについて解説（嗜好にあわせて）	⑮
No.9　法輪寺	境内	さまざまな伝説、言い伝えを説明	その他の見どころ	草鞋	日本古来のはきものや健脚にまつわる伝説、言い伝えについて	⑯
				涅槃像	釈迦の入滅、北枕などについて	⑰
No.9~No.10	遍路道中	さまざまな道標について注意喚起	道標	ステッカー、シール、石標など	自家用車向けの道標は、歩き遍路向けとは異なる場合が多いことに注意	⑱
		体力、脚力を自覚させる		急坂、石段	歩き遍路最初の登り坂を体験	⑲
No.10　切幡寺	境内		その他の見どころ	多宝塔	多宝塔の歴史、（大阪から移設）多宝塔からの阿波市景観	⑳
	遍路道中	体力や脚力を自覚させたのち、荷物や服装、シューズの重要性を改めて認識させる	所持品、服装確認	歩き遍路用品店	遍路用品のみなおし、追加購入、荷物の持ち方について再検討を促す	㉑

【札所編1】　⑦⑧　　百十四経済研究所

A Guide to Temples 7 to 10(Associate professor David Moreton)

Temple Seven: Jūrakuji 十楽寺

Deity: Amida Nyorai Founder: Kōbō Daishi Sect: Shingon, Kōya Branch

Brief History:

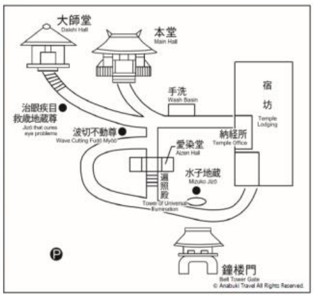
806-810: Kōbō Daishi felt the spirit of Amida Nyorai when he visited the area called Dōgahara, which is located 3 km north of the present temple site. He carved a statue of Amida Nyorai and established the temple. He gave it this name because he wanted to take away the ten forms of sufferings of humans and provide ten forms of enjoyment (ju-raku: ten pleasures).
1573-1592: All of the halls and buildings were burned down by the troops of Chōsokabe Motochika. At that time, the temple's head priest Shinnen, rescued the main image, the accompanying statue of Buddha, and busshari (bones of Buddha). However, the monk who carried the sutras was shot by an arrow and the sutras were buried in the ground at that spot. Today there remains a mound where the sutras were interred.
1635: The buildings were rebuilt at the present site.
1868-1912: The present Hondō was rebuilt.

Sights and Stories :

- Within the vermilion and white front gate gate, there are seventy small statues of Mizuko Jizō (水子地蔵)a guardian of aborted and stillborn children. (Pic.1)
- To the left of the Hondō, there is a Jizō statue called Jigan Jimmoku Kyūsai Jizō 治眼疾目 救済地蔵 contained within a small red structure. This deity is believed to cure people with eye problems or people who have lost their sight. Protective amulets or omamori for eyes are sold at the temple office.
- About the 7-meter Fudō Myōō statue: in order to remember the war dead of the 13th Class of Flight Reserve Students(Pic.2)

The Japanese government cut short the studies of university students in September 1943, and many volunteered to join the greatly expanded 13th Class of Navy Flight Reserve Students. About one third of the 13th Class died in battle with 449 of them losing their lives in special (suicide) attacks... The back of the monument, erected on September 23, 1987...We erect here a Fudo Myoo for the pacification of their spirits, and we pray that the spirits of our comrades who died in battle may rest in eternal peace."

Distance to the next temple: 4 km



【札所編2】　⑫　　百十四経済研究所

A Guide to Temples 7 to 10(Associate professor David Moreton)

Temple Eight: Kumadaniji 熊谷寺

Deity: Senju Kannon Bosatsu Founder: Kōbō Daishi Sect: Shingon, Kōya Branch

Brief History:

815: When Kōbō Daishi was training in the valley of Aka, the deity Kumano Nyorai appeared to him, said, "Enshrine this statue," and left behind a golden, 5.5 cm high statue of Kanzeon Bosatsu. Kōbō Daishi then carved a 1.87 cm statue of the Senju Kannon Bosatsu and stored the smaller statue inside the larger one. However, both were destroyed in a fire in 1927.

1687: The Niōmon, the largest among all the eighty-eight temples, was built. It has been designated an Important Cultural Property of Tokushima Prefecture.

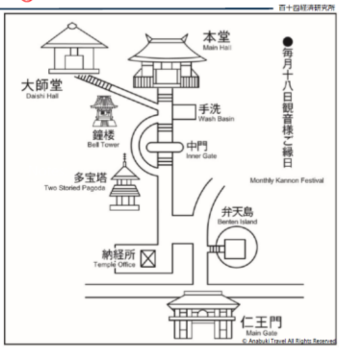
1774: The Tahōtō here is the oldest one in Shikoku and was built by the priest Gōi (剛意上人). It contains statues of Ashuku Nyorai, Hōshō Nyorai, Muryōju Nyorai, and Fukūjōju Nyorai surrounding a statue of Dainichi Nyorai.

1927: The statue of Kanzeon Bosatsu and the Hondō burned in a fire.

1940: The Hondō was rebuilt.

1971: The present statue of Kannon Bosatsu was carved by a sculptor of Buddhist images from Nagoya.

Distance to the next temple: 2.4 km



【札所編3】　⑰⑱　　百十四経済研究所

A Guide to Temples 7 to 10(Associate professor David Moreton)

Temple Nine: Hōrinji 法輪寺

Deity: Shaka Nyorai Founder: Kōbō Daishi Sect: Shingon, Kōya Branch

Brief History:

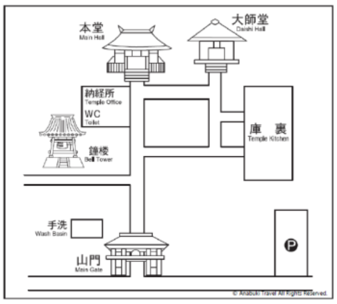
774-835: Kōbō Daishi established this temple. During his training, demons at the foot of the Asan Mountains attacked and frightened the people, so Kōbō Daishi carved an 80 cm statue of a reclining Shaka Nyorai and enshrined it in a building.
16th Century: This temple which had a great compound with numerous buildings near the valley called Norike at the foot of the Asan Mountains, was burned down by the troops of Chōsokabe Motochika.
1644-1648: The priest Kaigan (快眼) from Ninnaji temple (仁和寺) built the new Hōrinji temple at the present site after removing the deity statue from the former location.
1859: All of the temple buildings except for the gate burned down in an accidental fire.
1868-1912: The present temple buildings were rebuilt

Sights and Stories :

- This is the only temple out of the eighty-eight that has a Buddhist statue that is in a reclining position and not standing. It expresses the position the Buddha was in when he passed away.

In the Hondō, you can see many straw sandals which have been offered along with prayers for strong, healthy legs. (Pic.1)

Distance to the next temple



■本格派 第3回

1.　日時：令和2年2月18日（火）9：50～11：50

2.　場所：あわぎんホール第2会議室

3. 出席者

【委託元】

・大麻　浩三　　国土交通省四国運輸局　国際観光課　課長

・岡田　真理子　　国土交通省四国運輸局　国際観光課

【有識者】

・モートン常磁　　国立大学法人　徳島大学　教養教育院准教授

・宍戸　栄徳　　NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク　事務局長

【連携先】

・勇　寿憲　　一般社団法人　イーストとくしま観光振興機構　専務理事

・青木　伸太郎　　一般社団法人　イーストとくしま観光振興機構マネージャー

【受託者】

・西川　良隆　　一般財団法人　百十四経済研究所　専務理事所長

・村尾　耕太　　一般財団法人　百十四経済研究所　主任研究員

・松本　佳代子　　一般財団法人　百十四経済研究所　研究員

・久保田　宏平　　株式会社　穴吹トラベル　インバウンド事業部係長

・ｶﾅﾙ・ｻﾞﾝｼﾞｰﾌﾞ・ﾗｽﾞ　　株式会社　穴吹トラベル　インバウンド海外事業課

・横山　哲也　　株式会社　穴吹トラベル　インバウンド海外事業課

4. 議事

〇以下の書類に沿って、事業の進捗、成果物等について説明。

事業報告書の骨子、成果物の方向性について出席者からの了解を得た。

・四国遍路滞在型コンテンツ開発事業　事業報告書（作成中）

・お遍路インバウンドガイド［英語編］養成講座　参加者資料

・外国人歩き遍路のための巡礼トレーニング・プラン（案）

・外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プラン運営指針（案）

＜成果物＞

・外国人歩き遍路向け「巡礼トレーニング・プラン」

・外国人歩き遍路向け「巡礼トレーニング・プラン」運営指針

・外国人歩き遍路向け「巡礼トレーニング・プラン」案内ハンドブック

・四国遍路の基礎および四国88ヵ所霊場の解説（和英併記）（準備中）

〇出席者意見

・勇専務

おおむね良好な仕上がりを見込める内容である。

さしあたり、主として造成コンテンツ（標準コース）から商品化を図っていく。

No.1～No.6区間をトレーニングコースとしつつ、体験商品としても考えられる。

ガイド人材のプラットフォーム体制を整えFITなどのニーズとのマッチングを図っていく。

・宍戸氏

ボランティアと異なり有償ガイドとなれば相応の責任が生ずることとなる。

特に、NPO の立場として有償化を図るには課題が多いと思われる。

・大麻課長

今回の報告内容をみるに、一定の成果は認められる。

ガイド人材のプラットフォームとしては広域 DMO である四ツ創が望ましい。

本事業における本格派コンテンツとは一般的な観光コンテンツと異なり、観光素材、コースに加えガイドの役割が極めて重要な要素となっている。事業報告書を仕上げる際にはその点の説明にも配慮すること。

■本格派 第３回ワークショップ資料１（一部のみ掲載）

「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業　事業報告書（案）

訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業

「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業

事 業 報 告 書

＜その１＞

本格派向けコンテンツ造成に係る事業

作成中

令和２年３月〇〇日

一般財団法人 百十四経済研究所

令和元年度　訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業

「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業

その１　本格派向けコンテンツ造成に係る事業

【１】事業全体の実施状況

本事業は、官公庁と日本政府観光局（JNTO）が連携して展開している欧米豪９市場（独・英・仏・米・加・豪・伊・西・露）の訪日無関心層をターゲットとした「Enjoy my Japan グローバルキャンペーン」に対応した新たな滞在型コンテンツ等の創出を行うことを目的とするものであり、本報告書は「本格派向けコンテンツ造成に係る事業」について報告するものである。

１．実施項目

事業実施にあたっては、下表のとおり、①ターゲット層に訴求する２つのタイプの滞在型コンテンツ（本格派向けコンテンツ及びライト層向けコンテンツ）を企画開発し、②コンテンツ造成に付随する情報拠点の整備を行うとともに、③コンテンツ造成及び造成後の運営に不可欠な地域住民の意識醸成をはかるため、必要な施策を実施した。

		仕　様　書	実 施 概 要
①コンテンツの造成	外国人目線や専門家の意見・助言を反映してコンテンツを造成		外国人及び専門家10名の意見・助言を基にコンテンツを造成
	本格派向けコンテンツ	「Shikoku88」の完歩を目指す外国人を対象として、四国遍路のスタートの地である徳島県において３つのトレーニング・プログラムを造成。 ・日帰り ・短期（1泊２日程度） ・長期（7泊８日程度）	「最もニーズが高い１泊を標準とし、短縮及びオプション付きを加えることが効果的」との専門家の意見を反映して、３つのプログラムを造成した。 ・１日（短縮） ・１泊（標準） ・１日又は１泊＋オプション
	ライト層向けコンテンツ	周辺観光と併せて、遍路体験もしてみたい外国人を対象とした日帰り又は１泊２日程度コンテンツを７件以上造成。	１泊２日程度のコンテンツを四国全体で９件造成。 ・徳島県２件 ・香川県２件 ・愛媛県３件 ・高知県２件
②情報拠点の整備	宿坊等	遍路を行う者にとって、灯台的な役割を担い、造成したコンテンツに紐付けされた情報拠点となる施設（宿坊等）を各県１～２カ所程度整備。	宿坊、その他の宿泊施設、物販・飲食施設、観光案内所等を対象に検討を行い、一定レベルの対応ができる「情報拠点」と「それに準じる拠点」の２段階に分けて整備した。 ・徳島県　（　）拠点 ・香川県　（　）拠点 ・愛媛県　（　）拠点 ・高知県　（　）拠点 ＊（）内は情報拠点に準じた拠点。
	それ以外	宿坊以外の既存の施設（おもてなしステーション、道の駅を含む）についても視野に入れ、検討。	
③地域住民の意識醸成		外国人向けコンテンツ造成及び造成後の運営にあたっては、地域住民等の理解や協力が不可欠であることから、地域住民の意識醸成を図る。	次頁の「(2) 実施手法」に従って、地域住民の意識醸成に必要な施策を実施した。

２．実施手法

事業を効果的に遂行するため、（一社）四国ツーリズム創造機構、（一社）イーストとくしま観光推進機構との連携により、①コンテンツ開発に関する過去の調査等の活用、②外国人・専門家によるワークショップの開催、③ガイド等の養成、④海外旅行者等の招請、⑤地域住民等意識啓発セミナーを、下表のとおり実施した。

	仕　様　書	実 施 概 要
①過去の調査調事業のデータやオープンデータの活用	コンテンツ開発にあたり、ニーズの把握、改善点を明確化するために、以下の調査・分析を行う。 ・過去の調査、オープンデータの活用。 ・過去の調査データに無い項目について、その項目に特化した調査・分析を実施。	本事業には以下の調査結果を活用した。 ・過去の調査 「新時代における遍路受入態勢のあり方調査」（四国アライアンス・2018年） 「体験型観光コンテンツ市場の概観」（観光庁・2019年） ・新たな調査 「“歩き遍路”を目的とした欧米豪からの訪日外国人旅行者の受入環境整備対策事業」（百十四経済研究所・2019年）
②ワークショップの開催（5～12回程度）	コンテンツの開発、検証、課題抽出、磨き上げを行うため、以下を構成員とするワークショップを実施 DMO、外国人（日本在住の外国人を含む）、四国遍路の実態や状況を普段から把握している関係者、専門家	ワークショップを７回開催した。 ・本格派向けコンテンツ造成４回 ・ライト層向けコンテンツ造成３回 ＊それ以外に検討会２回実施。
③コーディネーター及びガイド等の育成（10回程度）	造成したコンテンツや情報拠点等で以下の業務を行う人材をピックアップして育成する。人材の育成にあたっては、実地研修を取り入れて行う。 ・本格派向けのコーディネーター ・ライト層向けのガイド	OJT手法を取り入れて、以下のインバウンドガイド養成講座を合計10回開催した。 ・徳島県：本格派向けコーディネーター養成講座を５回開催 ・四国４県：ライト層向けガイド養成講座を５回開催（香川県のみ２回）
④海外旅行会社等の招請（同一事業者を２回程度）	造成されたコンテンツについて、課題抽出のためのモニタリングとして海外旅行者等を招請し、検証、修正、磨き上げを行う。 ・海外旅行会社と欧米向けに事業を展開するランドオペレーター等を選定し、同一事業者を２回招請。 ・１回目は課題抽出のためのモニタリング、２回目はモニタリングを踏まえた修正結果の検証を行う。	実施中。
⑤地域住民意識啓発セミナー等の実施（10回程度）	コンテンツ造成後の運営、連携に係る地域住民の理解や協力を得るために、地域住民等意識啓発セミナー等を実施する。 ・地域企業（法人、個人）、地域住民を対象とし、小規模単位のセミナー等を実施。	関係者の理解の浸透や協力要請を効果的に実施するため、幅広い関係者を巻き込むかたちで、座学セミナーと個別訪問による説明を実施した。 ・座学セミナー4回（各県１回） ・関係者への個別訪問24先 （座学セミナー6回分に相当）

---

②　育成プログラムの内容

有料で行うコーディネーターとしての案内には、英語力、四国遍路の知識に加え、観察力、柔軟性、体力、コミュニケーション能力等、多様な資質と能力が求められる。当初、OJTによる下表の育成項目を設定した育成プログラムを計画したが、参加申込者の状況を見ると、そのようなレベルに達している人材の数は限定的だと考えられた。そのような状況のもと、５回のガイド育成プログラムは「英語で札所や遍路について簡単な案内を行う観光ガイドの育成」のためのプログラムで行い、段階的にレベルを上げていく方針に切り替えた。

育成方法	育成項目（予定）
ガイド育成プログラム（5回）	・四国遍路の歴史、文化に関する事項 ・日数、経験、体力等を考慮した巡礼プラン作成の助言 ・遍路用品や作法に関する事項 ・歩き方、荷物、食事、宿泊に関する事項

③ コーディネーター人材の状況

５回の育成講座を通して、「通常の英語ガイド」として即戦力化できる人材は相当数確認できたが、外国人歩き遍路を指導するコーディネーターとして登用可能な人材は限定的であった。更に、体力まで考慮すると、英語ガイドとしての能力と山登りの体力を併せ持つ人材は極めて少なく、現時点では、平坦地（①霊山寺～⑥安楽寺）と山岳地域（⑪藤井寺～⑫焼山寺）とでは、別のコーディネーターに担当させることが現実的だと考えられる。

トレーニング・プログラムでは、「プログラム３」において、山間部の遍路道のサポートをオプションとして提供しており、健脚で体力に自信のあるコーディネーターが、プログラム１又は２の担当者から受講者を引き継ぎ、山間部を案内するような役割分担が容易なプログラムとしている。

(3) コーディネーター人材の育成・登用

今回のガイド育成プログラムでは、人材の資質と数を確認する段階にとどまっており、徳島県だけでは十分な数の人材が確保できないという感触も得ている。しかし、四国全体で考えると、通訳案内士資格保有者には相当数の優秀な人材が確認でき、四国遍路を舞台に活躍したいという強い意欲を持っている人たちも数多く存在する。そのような中で、高松市には、公認先達と通訳案内士の資格を併せ持つ海外留学経験者も存在し、志を同じくする者が組織的に連携しようとする動きもみられる。

今後、面接等により優秀な人材をピックアップして、個々人の意向を汲み取りながら、コーディネーターとして養成するプログラムを継続的に実施することが求められる。また、一定の水準に達した通訳案内士を「巡礼コーディネーター」（公認先達とは全く異なり、札所ではなく、生活、トレッキング、周辺観光を指導）として登録する仕組みも有効だと考えられる。

５．情報拠点の整備

(1) 情報拠点への依頼事項

外国人歩き遍路が多く立ち寄っている宿坊、宿泊・飲食施設、物販施設、道の駅等をピックアップし、情報拠点としての意向を確認したうえで、以下①②の依頼を行った。あくまで、無

■本格派 第３回ワークショップ資料２（一部省略）

外国人歩き遍路のための巡礼トレーニング・プラン　１／３

令和元年度
訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業
「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業

外国人歩き遍路のための
巡礼トレーニング・プログラム

～完歩するための知恵を授けるガイド同行の旅～

（作成中）

2020年3月○日

一般財団法人 百十四経済研究所

■ リーフレットの作成目的

百十四経済研究所

本書は、「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業において造成した「外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プログラム」の概要をまとめたものであり、関係者への概要説明や外国人向けリーフレット作成のベースとして利用することを想定している。

外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プログラムはコーディネーターによるガイドを伴う体験型観光プログラムであり、運営にあたっては、以下の関係書類を活用する。

① 外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プログラム運営指針
トレーニング・プログラムを運営するための考え方や必要項目を整理したものであり、プログラムの運営主体による活用を想定している。

② 外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プログラム案内ハンドブック
トレーニング・プログラムを利用する外国人歩き遍路に対する指導、情報提供をコーディネーターが行う際に利用するハンドブック。コーディネーターとしての役割や必要知識を網羅しており、コーディネーター育成のための研修等での活用を想定している。

③ 四国遍路の基礎および四国88ヵ所霊場の解説（和英併記）（準備中）
コーディネーターとして知っておくべき四国遍路に関する情報を、和英併記で説明しており、四国遍路関係の事柄を英語で説明する際の参考として利用できる。基礎的な項目だけでなく、88ヵ所霊場の情報まで網羅しているのが特徴。

■ 巡礼トレーニング・プログラムについて

百十四経済研究所

◇ プログラムの目的

四国遍路は、札所、遍路道、雄大な自然、周辺観光を楽しみながら、1,200kmもの巡礼路を40～50日かけて歩くことロングトレイルのような巡礼体験です。札所を参拝したり、古道を歩くことで歴史ある巡礼文化を体感したり、お接待や地域のイベントへの参加を通じて、地域の人たちのと交流を楽しむことができますが、生活習慣・文化の異なる環境の中で長期間過ごすことになるため、困りごとやストレスに悩まされることもあります。

四国遍路を訪れる外国人の多くは、SNSを利用した情報収集を行ったり、経験者のアドバイスを受けたりして、在る程度、四国遍路の知識を得て来日するケースも多いようですが、情報が古かったり、一般的ではない助言を受けたり、必ずしも正しい情報が得られているとは言えません。また、サンチアゴ巡礼路の経験から思い込みで、特別な情報収集をしないまま、歩き始める外国人旅行者もみられます。

四国遍路を完歩した外国人旅行者からは、以下のような困りごとや要望が出ており、そのような状況を踏まえて、四国遍路の完歩を目指す外国人旅行者のために、「巡礼トレーニング・プログラム」を作成しました。

・言葉が分からない
・土地勘がない
・作法を知らない
・日本の習慣が分からない
・周辺観光情報が少ない

◇ ３つのトレーニング・プログラム

本プログラムは、四国八十八ヶ所霊場を、主に徒歩で巡礼しようとする外国人旅行者のうち、一気に全札所を参拝する「通し打ち」のほかに、相当日数をかけて多くの札所寺院を巡ろうとする外国人遍路を対象としています。
内容は、第１番札所を起点とする幾つかの札所で、同行するコーディネーターと一緒に歩き遍路の楽しさを体験しながら、第88番札所まで完歩するための知恵を習得できるものになっています。

① ショートプログラム
② 標準プログラム
③ オプション付きプログラム
　①、②に１個または複数のオプションを追加したプログラムです。

■ プログラム ① ショートプログラム

百十四経済研究所

１～６番札所同行（希望に応じて、３番札所または4番札所までに短縮可能）

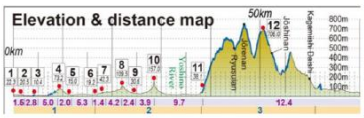
○プログラムの内容
- 当日の朝、顔合わせをし、要望等のヒアリングを行い、希望に応じて、トレーニングの内容を決定
- １～６番札所で外国人遍路に同行して指導を行う

○所要時間
- 基本は７時半～１７時
- 希望により短縮も可能

○学べるポイント
- お遍路の服装や用品の説明、購入サポート
- お遍路の心得、参拝方法、お接待
- 遍路道の標識の見方、地図の利用、その他注意事項
- 飲食（含、ベジタリアン）、飲料水の確保
- 宿泊施設の利用、宿泊予約とキャンセル方法
- 予算、ATM利用、支払い方法
- トイレ、通信環境
- 貴重品の管理、病気、怪我等の危機管理

○コースの特徴
- 短時間で、歩き遍路の基礎や宿泊・食事等の生活関連事項について最低岸の説明を受け、質問に対しアドバイスが受けられる
- 時間的制限のある人や最低限の知識を手短に習得すれば十分と考える人に適する
- サンチアゴ巡礼やロングトレール経験者等に勧められるプログラム

○ルート案内



お遍路用品の説明及び購入サポート

参拝方法

遍路道サインの見方

あなたが知りたいことをお伝えします。

外国人歩き遍路のための巡礼トレーニング・プラン　２／３

■ プログラム ① ショートプログラム

百十四経済研究所

午前：１～３番札所＋ＡＴＭ立寄り＋昼食休憩

午後：４番札所＋愛染院＋５番～６番札所まで

■ プログラム ② 標準プログラム

百十四経済研究所

１～６番札所同行＋安楽寺宿坊での勤行体験等

○プログラムの内容
- 当日の朝、顔合わせをし、要望等のヒアリングを行い、希望に応じて、トレーニングの内容を決定
- １～６番札所で外国人遍路に同行して指導を行う
- 6番札所で宿坊体験、夕食後に旅のプランニング支援

○所要時間
- 基本は７時半～２１時
- 希望により、翌朝８時まで延長も可能

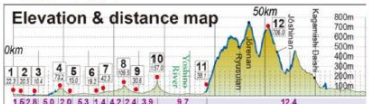
○学べるポイント

○第１番～６番札所までの巡礼体験
- お遍路の服装や用品の説明、購入サポート
- お遍路の心得、参拝方法、お接待
- 遍路道の標識の見方、地図の利用、その他注意事項
- 飲食（含、ベジタリアン）、飲料水の確保
- 宿泊施設の利用、宿泊予約とキャンセル方法
- 予算、ATM利用、支払い方法
- トイレ、通信環境
- 貴重品の管理、病気、怪我等の危機管理

○第６番札所宿坊の宿泊体験
- 勤行体験（19時～読経、法話、先祖供養、祈願）を通じて仏教文化を学び、特別に仏像や所蔵品の拝観
- 日本の伝統的食文化の説明
- 余裕時間を利用して、振り下げた説明が得られる

○コースの特徴
- 宿坊の滞在も含めて、巡礼生活の一日の流れに沿った体験学習が受けられる
- 歩き遍路の基礎や宿泊・食事等の生活関連事項に加え、宿坊体験を通じて、仏教や遍路文化の基礎も説明が受けられる
- 巡礼やロングトレール等の経験がなく、余裕をもった説明を受けたい人に勧められる

○ルート案内



お遍路用品の説明及び購入サポート

参拝方法

遍路道サインの見方

6番安楽寺宿坊

■ 巡礼路沿いの指導項目 プログラム ① ②

百十四経済研究所

午前:1～3番札所

位置	場所	コーディネーターの役割	ジャンル・項目	対象	目的
スタート前		対象者に適したガイドを行うため属性を確かめる。(遍路交流サロンで前泊させると十分な時間を確保できる)基本的装備、服装や所持品について指導し購買支援を行う。	属性確認	経験、体力、嗜好など	適切なガイドを行うため
			装備、服装	遍路用品一式	歩き遍路と認められる外観を整える
			装備、服装	服装、シューズ、その他所持品	全行程を歩きとおせる準備を整える
			所持品	ガイドブック、貴重品管理など	その他必携品
No.1 霊山寺	境内	最初の札所では、共通事項(札所境内の構成要素や境内内での基本的作法、参拝手順、マナーなど)をガイドする	作法の基本	他者への配慮、敬意など	巡礼者として周囲から認知される最低限のマナー、山門以降は聖域である、など
			各札所に共通する境内構成	山門、鐘楼、手水、本堂、大師堂、納経所	基本的なルーチン、ふるまい、納経は参拝を終えてから、など
			外国人にもわかりやすい仏像	薬師如来、地蔵菩薩、不動明王	
			その他札所特有の見どころ	多宝塔など	
No.1~No.2	遍路道中	基本的交通ルール、マナー、道標、お接待など、全行程の道歩きに共通必須事項についてガイドする。体力、経験に応じたペース配分についてアドバイスする	基本的交通ルール	ステッカー、シール、石標など	見誤らないように注意
				押しボタン式信号機	山門正面の横断歩道
			宿泊施設、お接待	遍路交流サロン	善意で運営される施設、お接待について
			作法の基本(橋をわたる)	板東橋	橋のうえで杖をつかない、及びその理由についても
			(ライト層向けコンテンツ要素)	バルトの楽園	近代史(ドイツ人捕虜との交流)
			地蔵寺石門		見過ごさないように注意喚起
No.2 地蔵寺	境内	共通事項を復習しつつ、要素を追加していく。	作法の基本	基本的作法、境内の構成など	
			各札所に共通する境内構成	大木(樹齢1,100年の長命杉)	大木を神聖なものとする日本文化
			トイレに関する注意事項	和式、男女兼用など欧米にない仕組み	注意喚起
			(ライト層向けコンテンツ要素)	石標(江戸時代)	
No.2~No.3	遍路道中	道歩きの共通事項を復習しつつ、要素を追加していく	日本の日常風景	民家、田畑、果樹、あぜ道など	単調な農村郊外の道にて
			神社と寺院	諏訪神社	道沿いの神社で、寺院との違いを説明
			標識	金泉寺へ向かうあぜ道を示す石標	わかりにくい道標について注意喚起

■ 巡礼路沿いの指導項目 プログラム ① ②

百十四経済研究所

午前:ATM立寄り＋昼食休憩　**午後:4～6番札所**

位置	場所	コーディネーターの役割	ジャンル・項目	対象	目的
No.3 金泉寺	境内	自分でやらせてみて共通事項の定着を図りつつ、新たな要素を追加。	各札所に共通する境内構成	黄金の井戸	弘法大師と"水"にまつわる多くの伝説
			昼食	コンビニ、マルナカなど	ゴミ処理、分別ルールについても
			トイレに関する注意事項	和式、男女兼用など欧米にない仕組み	左記、金泉寺境内内のトイレで実例確認
No.3~No.4	遍路道中		標識	大日寺へ向かう山道を示すシール、標識	わかりにくい道標について注意喚起
			(ライト層向けコンテンツ要素)	古石像群(江戸時代?)	興味を示すならば解説する
愛染院	お接待	お接待について解説	お接待文化について	愛染院のお接待所	お接待の意味、受けた際の作法 住職との歓談(運がよければ)
No.4~No.5	遍路道中	登坂道の道中で体力に応じたペース配分や服装、シューズ、荷物について再度アドバイスする。	日本の日常風景	民家、田畑、果樹、あぜ道など	単調な登坂道にて
			装備、服装		
			所持品		
No.4 大日寺	境内	共通事項の定着確認	トイレに関する注意事項		水洗男女別、障碍者用あり
	遍路道中	自力で正しいルートを確かめる	標識	地蔵寺へ向かう経路にあるシールなど	
No.5 地蔵寺	地蔵寺	共通事項の定着と要素の追加	各札所に共通する境内構成	大イチョウの木	大木を神聖なものとする日本文化
			外国人にもわかりやすい仏像	500羅漢像	羅漢について説明
No.5~No.6	遍路道中	単調で長い住宅地を、リードしつつ、点在する休憩所の利用についてアドバイス。宿泊施設利用上のマナーについてアドバイスする。	休憩所	コンビニエンスストア	コンビニの機能と活用について
			善意の休憩所	ヘンロ小屋プロジェクト(第44号神宅)	善意の休憩所利用の際の注意について
			善意の休憩所	小柿休憩所	善意の休憩所利用の際の注意について
			宿泊施設に関する注意喚起	歩くペースを調整	安福寺到着の時刻を意識
			日本の日常風景	さとうきび畑	
No.6 安楽寺	宿泊施設	宿泊施設利用上のマナー、体調管理についてアドバイス 完歩を目指すための自己管理、トラブル対応、天気予報などについてアドバイス	宿坊内での基本的マナー、ルールなど	安楽寺宿坊施設	食事、勤行参加、大浴場など
			宿泊施設利用上の共通事項	宿坊内で様子をみながら	予約、キャンセル、チェックイン時刻の配慮、料金など
			仏教体験	安楽寺での勤行など一連の体験メニュー	仏教について(少し)知る
			フットケア、体調管	応急措置、体調の	完歩するための自

外国人歩き遍路のための巡礼トレーニング・プラン　３／３

■ プログラム ③ オプション付き

百十四経済研究所

プログラム①または②にオプション１、２を追加

◇オプション１：開始日前日からのサポート

- プログラム①、②では時間が不足するような場合に、開始前日から余裕を持ったサポートを行います
- 十分なコミュニケーションが取れるので適切なサポートができます

○所要時間

- 事前の相談により、自由に場所と時間が決められます
- 場所は、サポート内容に応じて、遍路用品販売店、宿泊施設や街中のレストラン等が一般的です

○学べるポイント

- 事前に十分な面談をして、用品購入、参拝、巡礼プランの作成等、きめ細かなサポートを行います
- 1番または10番札所周辺の遍路用品販売店に同行し物品購入をサポートすることもできます
- 希望者には、般若心経読経や真言等の唱え方を含めた参拝方法を指導します（公認先達資格保有者が実施）

◇オプション２：山間部の遍路道のサポート

- 11番藤井寺～12番焼山寺の山道を指導します
- 鍋岩まで降りて解散します

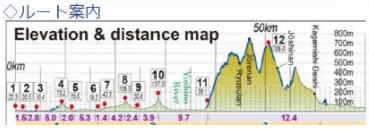
○所要時間

- 7時半～17時
- 歩くペースにより延長も可能です

○学べるポイント

- 11番～12番札所の遍路道は「遍路ころがし」と呼ばれる最初の難所です
- 12番札所焼山寺は標高800メートルの山寺。「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」と表現される阿波の難所をコーディネーターに同行し、登山や長距離自然道の歩行の不安を取り除きます

◇ルート案内



お遍路用品の説明及び購入サポート

参拝方法

遍路ころがし

焼山寺

■ プログラム ③ オプション１

百十四経済研究所

例：オプション1：開始日前日からのサポート

	スケジュール	テーマ	参照ページ
徳島市内ホテルで情報交換	宿泊ホテルで面会 レストラン、ロビー等で面談	遍路の目的、巡礼経験等を聞き取って、 ・旅行プラン等の作成補助 ・翌日のトレーニング項目の決定	
		・希望に応じた情報提供や指導	
遍路用品販売店等に同行	1番札所、10番札所付近の遍路用品販売店	・本人の属性、希望により、物品購入を選定し、用品の意味や歴史も説明	
ガイド終了	宿泊ホテルまで送って終了		

ホテルで面談

屋外で打ち合わせ

遍路用品の選定

■ プログラム ③ オプション２

百十四経済研究所

例：オプション2：山間部の遍路道サポート

	スケジュール	テーマ	参照ページ
徳島県内札所にて ガイドによる指導	宿泊地 →11番札所へ移動	11番札所（藤井寺）山門で集合後、山間部遍路道歩行の指導	P37
	道中	山寺の特徴、市街地の寺院との違い 山道ルートの歩行（上り、下り）	P39
下山後の指導	宿泊施設にて	日数・経験・体力等を考慮した巡礼プラン作成の助言について	P15
ガイド終了	荷物・身体のメンテナンス	・疲労を翌日以降に蓄積しないための重点的な身体的なメンテナンス ・荷物の故障・損傷等の点検、準備	P39

道標

へんろころがし 1/6

なべいわ荘

出発前の山道対応への指示・提言を行います。山道に適した服装・装備と携行品、地図の確認の仕方、飲食料の補給点予測など、今後遍路道で起こりうる事象に対し、事前に注意点を細かに伝えることができる。

■ プログラム ③ オプション２

百十四経済研

午前：11番札所及び12番札所（広域地図）詳細は次ページ参照

■本格派 第３回ワークショップ資料２（一部省略）
お遍路インバウンドガイド［英語編］養成講座　参加者資料より　１／２

お遍路インバウンドガイド［英語編］養成講座
参加者資料より

2019年10月～12月

企画：イーストとくしま観光推進機構
受託：一般財団法人 百十四経済研究所　株式会社穴吹トラベル

お遍路インバウンドガイド［英語編］養成講座

百十四経済研究所

1．講座の目的

本日の講座は、以下の事業においてトレーニングプランを運営するためのコーディネーター人材の育成を最終目的としており、目指す到達点が一般の外国人向け観光ガイドと異なる点にご留意ください。

［四国運輸局受託事業の内容］

（1）トレーニングプランの造成
- ✓ 四国８８カ所の完歩（通し打ち）を目指す外国人を対象として、四国遍路のスタート地点である徳島県において、３つの「トレーニングプラン」（例：日帰り、１泊２日、長期 ）を開発・造成する。
- ✓ 外国人に歩き遍路の楽しさを体験させることは当然重要ですが、トレーニングプランの中心は完歩するための知識や知恵を外国人に授けることです。

（2）コーディネーターの育成
- ✓ 造成した「トレーニングプラン」を運営するための「コーディネーター人材」（外国人の希望や経験に応じた指導ができる上級ガイドのようなイメージ）を、実地研修を取り入れて育成する。
- ✓ 本日の講座は、コーディネーター入門講座の位置づけとなります。

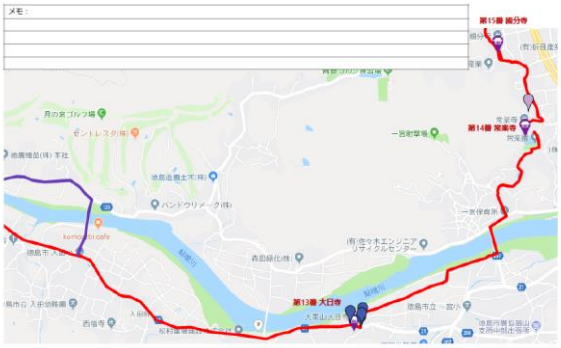
2．開催日程

第1回目（10月13日） ①霊山寺～③金泉寺、⑤地蔵寺～⑥安楽寺・宿坊泊
第2回目（10月14日） ④大日寺～⑤地蔵寺～①霊山寺
第3回目（11月02日） ⑥番十楽寺～⑧番熊谷寺～⑨法輪寺～⑩番切幡寺
第4回目（11月30日） ⑬番大日寺～⑭番常楽寺～⑮国分寺～⑯観音寺～⑰井戸寺
第5回目（12月01日） ⑳番鶴林寺～太龍寺道～一宿寺～かも道～㉑太龍寺・捨身ヶ嶽

【第４回】第13番 大日寺 → 第14番 常楽寺→ 第15番 國分寺

百十四経済研究所

メモ：



【第４回】第16番 観音寺 → 第17番 井戸寺

メモ：

【第５回】第20番鶴林寺～一宿寺～第21番太龍寺

百十四経済研究所

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Thirteen: Dainichiji 第13番札所大日寺

Deity: Jūichimen Kanzeon Bosatsu　Founder: Kōbō Daishi

Brief History:

815: Dainichi Nyorai appeared when Kōbō Daishi was performing the *goma* (fire) ceremony. Kōbō Daishi carved the statue of Dainichi Nyorai, built a hall, and enshrined the statue as the main deity.

1570-1573 and **1573-1592:** The temple was destroyed by fire.

1868-1912: The Jūichimen Kanzeon Bosatsu statue, which was the deity of Ichinomiya shrine (一宮神社の本尊), was moved to Dainichiji temple due to the separation of Buddhism and Shintoism. The Jūichimen Kanzeon Bosatsu statue became the main deity of Dainichiji and the original Daniichi Nyorai became the subordinate Buddha.

2007: The temple gate was rebuilt.

Sights and Stories :

- Within the small compound, there is a small statue called *Shiawase Kannon* (幸せ観音) pcide two large cleaped hands. People pray to it for happiness.
- To the right of the Hondō, there is a sitting state of *Binzuru Daishi* and it is believed that your wish will come true if you rub it while reciting the wish.
- Across the street is the Ichinomiya shrine, as well a path leading up to the ruins of old Ichinomiya cattle.
- Some people start at Temple 13 to perform a one-day, five-temple, 8.5 km pilgrimage to Temple 17. The route along the way is flat making it easy to walk.

Distance to the next temple: 2.3 km

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Fourteen: Jōraku-ji 第14番札所常楽寺

Deity: Miroku Bosatsu　Founder: Kōbō Daishi

Brief History:

815: When Kōbō Daishi trained this sacred place he prayed for the coming of Miroku Bosatsu and sensed the spirit of the Buddha. He carved an 80 cm seated statue of Miroku Bosatsu and enshrined it here. This is the only temple founded by Kōbō Daishi in Shikoku with main statue of Miroku Bosatsu. Later, his disciple (弟子) Shinnen made the temple buildings.

14th Century: This temple developed as the temple of prayer of the noted warrior and scholar, **Hosokawa Yoriharu**.

16th Century: The temple was burned down by the troops of Chōsokabe Motochika.

mid-16th Century: Hachisuka Mitsutaka 蜂須賀光隆 : 1630-1666, the third Lord of Awa Province restored the temple.

1818: The temple was moved to its present site.

Sights and Stories :

- On the temple grounds, the Hondō stands on an outcrop of sedimentary rock. It is called *Rjusuigan no niwa* 流水岩の庭
- The branches of a tall tree hang over the Hondō and the Daishidō. Look for a smiling statue of *Aaragi Daishi* (あらうぎ大師) in the tree.
- In a corner of the corridor of the Hondō, there is a red statue called *Binzuru Daishi* (びんずる大師) . It is said that if you touch the statue in the same place where you feel pain or illness, you will be cured.

Distance to the next temple: 1.4 km

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Fifteen: Kokubunji 第15番札所國分寺

Deity: Yakushi Nyorai　Founder: Gyōgi Bosatsu

Brief History:

710-794: Emperor Shōmu ordered that a provincial temple or *Kokubunji* (国分寺) be built in all sixty-six provinces throughout Japan. The Buddhist preet Gyōgi came to Shikoku at the request of Emperor Shōmu and founded the temple.

815: This temple originally belonged to the Hōsō sect, but it changed to the Shingon sect when Kōbō Daishi stayed here and trained.

1573-1591: The temple was burned down by the troops of Chōsokabe Motochika.

1741: The priest Kuzan Yōshi of Jōrokuji began to reconstruct the temple and changed it to the Sōtō sect.

1811: The Hondō was rebuilt.

1830-1843: The Daishidō was rebuilt.

1996: The Daichi hall burned down and was remade in 2014.

2017–2020: The main hall is being restored

Sights and Stories :

- On the temple grounds, you can see the original stone foundation for a central column of a seven-storied pagoda, which was built during the Tenpyō era (729-749).
- The rock garden is from the Azuchi Momoyama period (1573-1605). In 2000, the garden was designated a Place of Scenic Beauty of Japan.

Distance to the next temple: 1.1 km

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Sixteen: Kanonji 第16番札所観音寺

Deity: Senju Kanzeon Bosatsu　Founder: Kōbō Daishi

Brief History:

741: Kannonji was founded as a royal temple for Emperor Shōmu.

816: Kōbō Daishi came here and carved the life-sized statues of Senju Kanzeon Bosatsu as the main deity and Fudō Myōō and Bishamonten as the accompanying deities.

1573-1592: The temple was burned down by the troops of Chōsokabe Motochika.

1659: The priest Yūō rebuilt the temple.
The Hachisuka clan, Lords of Awa Province, built the present temple buildings.

Sights and Stories :

- In this narrow precinct, there are statues of *Yonaki Jizō*夜泣き地蔵, *Mizuko Jizō*水子地蔵 and *Hyokudo Ishi*百度石. If you see a red bib on the Yonaki Jizō, it means that a parent's wish for their child to stop crying during the night has come true.
- Among the treasures of this temple is a stamp of the Kōmyō mantra said to have been carved by Kōbō Daishi.
-
- In the Hondō, there is a picture of a woman engulfed in flames. It is based on a story from the Meiji period (1868-1912) when six people from nearby Awaji Island came here in the rain. While taking a rest and drying their clothes at the fire, the flames jumped up and set fire to one woman's pilgrim vest while she was still wearing it. Fortunately, she was able to remove the vest and was not injured. The woman said that in the past she had harassed someone and believed that this fire was a warning of her evil actions. She repented of her sin and drew this picture.

Distance to the next temple: 2.9km

© Arabuki Travel All Rights Reserved.

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Twenty: Kakurinji 第20番札所鶴林寺

Deity: Jizō Bosatsu　Founder: Kōbō Daishi

Brief History:

798: Kōbō Daishi established this temple as the place of prayer for Emperor Kanmu. Some time later, the priest Shinzen (真然), said to be Kōbō Daishi's nephew, built the large precinct with seven halls. Succeeding Emperors worshiped at this temple.
Yoritomo and Yoshitsune of the Minamoto clan and rulers from the Hachisuka clan protected this temple by restoring the buildings and donating to the expansion of the temple's territory.

16th Century: Unlike other pilgrimage temples, this temple was spared from the fires of war.

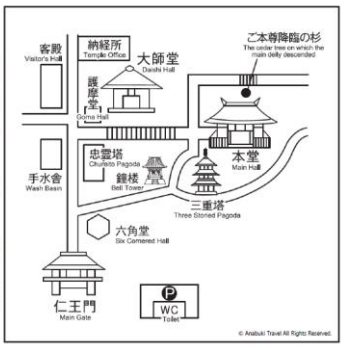
1604: The Hondō was rebuilt.

1827: The three-storey pagoda was rebuilt and designated a Cultural Property of Tokushima Prefecture in which the statues of the *Gochi Nyorai* are enshrined.

Sights and Stories :

When Kōbō Daishi came here, a golden statue of Jizō Bosatsu, protected by two cranes, descended from an old cedar. Kōbō Daishi carved a 90 cm standing statue of Jizō Bosatsu in which he placed the golden 5.4 cm statue of Jizō Bosatsu, and then enshrined it as the main statue of this temple. Today, this statue has been designated an Important National Cultural Property. The temple was renamed Kakurinji (Crane Forest Temple) after the cranes. This temple is on the summit of Mt. Washigao (elev. 500 m), and the steep mountain trail leading up to it is called *munatsuki hacchō* 胸突き八丁.

Distance to the next temple: 6.5 km



© Arabuki Travel All Rights Reserved.

【札所編】

百十四経済研究所

Temple Twenty-One: Tairyuji 第21番札所太龍寺

Deity: Kokuzō Bosatsu　Founder: Kōbō Daishi

Brief History:

798: Kōbō Daishi established this temple under the direction of Emperor Kanmu and carved a statue of Kokuzō Bosatsu.

1185-1333: The front gate was built. It is the oldest one in Tokushima prefecture.

1669: The Hondō was restored.

1861: The pagoda was built.

1894: A fire destroyed the treasure storehouse and many objects

Sights and Stories :

Tairyūji is located at the top of a mountain (elev. 520 m). In the past, it was called Mt. Kōya of the West and it is the place where Kōbō Daishi trained in his youth. In the book *Sangō Shiiki* (三教指帰)Kōbō Daishi wrote that, "When I was nineteen years old, I climbed up Mt. Tairyū in Awa Province and meditated to master the *Kokuzō Gumonji Hō* by reciting it one million times." Tairyūji, along with Temple 20, Kakurinji and Temple 12, Shōsanji are the most difficult places to reach when walking the Shikoku pilgrimage in Tokushima prefecture. However, now it is possible to take a ropeway up to this temple. (return ticket: 2400 yen)
To the right of the *nōkyōsho*, there is a building called Jibutsudō and on the ceiling along the hallway there is picture of a dragon.
Five hundred meters from the precinct, there is an historical site called *minamishashin kataki* (南舎心方窠) where Kōbō Daishi trained for 100 days in the mysteries of the Shingon Buddhism.

Distance to the next temple: 11.7 km

© Arabuki Travel All Rights Reserved.

■本格派 第３回ワークショップ資料３（一部のみ掲載）
外国人歩き遍路向け巡礼トレーニング・プラン運営指針（案）

外国人歩き遍路向け

巡礼トレーニング･プログラム

運 営 指 針

（案）

2020 年 3 月〇日

国土交通省 四国運輸局 国際観光課

一般社団法人イーストとくしま観光推進機構

目　次

【第１節】総　論
1．本格派向けコンテンツ
（1）巡礼トレーニングプログラム
（2）コーディネーター

2．外国人遍路への接し方
（1）四国遍路の観光コンテンツとしての特異性
（2）把握事項
（3）説明・指導の留意点

3．説明・助言の内容
（1）基本事項の説明・助言
（2）その他の留意事項

4．コーディネーター
（1）必要な特性
（2）人材確保・適正判断
（3）養成・訓練手段

【第２節】各　論
1．指導の方向性の見極め
（1）世界各地の巡礼旅や長距離歩行旅の経験
（2）体力や日常的な運動度合い
（3）事前準備（情報収集）の度合い
（4）日程・予算・帰国予定日
（5）歩行ペースや、移動手段、宿泊
（6）四国遍路を歩く目的・遍路旅に何を求めているか
（7）本人の宗教や宗教観
（8）職業や専門知識、興味や関心のある事項

2．生活上の基本情報
（1）服装と装備（用意してきたものと買い足すもの）
（2）宿泊施設の種類と選定・予約方法
（3）英語版遍路地図
（4）遍路道標の探し方と見方
（5）歩くペースと無理のない旅程
（6）食事・飲料水の入手の注意事項
（7）トイレ・休憩
（8）支払い方法
（9）所持金
（10）貴重品の管理
（11）治安・防犯
（12）自然災害への対処
（13）通信・コミュニケーション手段の確保
（14）マナー・エチケット
（15）お接待について

3．遍路関連情報の提供
（1）遍路用品購入の指導
（2）参拝手順・作法

4．その他

【第３節】巡礼トレーニングプログラムの一例
1．プログラム１（１日：１番～6 番札所）
2．プログラム２（２日間：１番～6 番札所及び宿坊泊）
3．プログラム３（追加サポートオプション）

【第４節】トレーニング実施のための頻出英単語・フレーズ集

外国人歩き遍路向け
巡礼トレーニング･プログラム運営指針
～コーディネーターの心得と説明事項を中心に～

本指針は、令和元年度「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業」において、四国 88 カ所霊場の完歩を目指す外国人（以下「外国人遍路」という）を対象に造成した「巡礼トレーニング・プログラム」を運営する際の留意事項をまとめたものである。本指針は、管理運営者の利用を想定して作成しており、巡礼トレーニング・プログラムを案内するコーディネーターは別途作成した「案内ハンドブック」を利用する。

【第１節】総　論
1．本格派向けコンテンツ
（1）巡礼トレーニング･プログラム
巡礼トレーニング･プログラムは、四国八十八ヶ所霊場を主に歩きで巡礼する外国人旅行者（外国人遍路）のうち、「通し打ち」（一度の四国長期滞在で全札所を参拝する）またはある程度長い期間をかけて多くの札所寺院を巡る予定である外国人遍路にターゲットを絞り、彼らが無事に目標を達成できるように「１番札所を起点とした巡礼体験とコーディネーターによる説明・助言とをセットにした体験型観光コンテンツ」である。
利用者（トレーニング受講者）のニーズや時間的制約に応じて、３種のプログラムを用意する。

	区　間	テーマ	対象者
プログラム１ ＜Short＞ １日	１番札所霊山寺 ～６番札所安楽寺 （必要に応じて、３番札所か４番札所までに短縮可）	○基礎知識 最低限の事項を手短に説明 ・装備、遍路のマナー ・宿泊、食事等 ・歩き方（プランの立て方） ・ルートや標識の探し方	時間的制限があるか、最低限の知識を手短に習得すれば十分と考えるサンチアゴ巡礼やロングトレイル経験者等
プログラム２ ＜標準＞ １泊	１番札所霊山寺 ～６番札所安楽寺 （安楽寺では宿泊での勤行体験等）	○基礎知識 ・装備、遍路のマナー ・宿泊、食事等 ・歩き方（プランの立て方） ・ルート・標識の探し方 ○宿坊体験 ・夜勤行への参加を通じて仏教の基礎知識を説明 ・宿泊予約の取り方、チェックインや過ごし方、食事・風呂・洗濯、翌日以降の準備等を説明 ・夜勤行後、必要な説明を行ってガイドは終了 ○復習 ・受講者の希望により翌日更に数ヶ寺を同行	宿泊施設の滞在時間も含めて、遍路の一日の流れ全てについて体験学習し、仏教や遍路文化の基礎的知識の習得も希望する旅行者
プログラム３ ＜Short＞ 又は ＜標準＞ にオプションを追加	１番札所霊山寺 ～６番札所安楽寺 ＋ オプション内容に従ったロケーションで実施	「プラン１」又は「プラン２」に受講者の希望に沿った「オプション」を追加 ○オプション１ 開始前日に余裕をもったサポートを実施 ① 遍路用品購入サポート ・プログラム１の時間内で十分な物品購入の時間を取ることが困難なため、1 番札所または 10 番札所周辺の遍路用品販売店に同行し、遍路の期間や本人の希望に従って必要物品の選定についてアドバイスし、購入をサポート。 ・前日から受講者と十分なコミュニケーションが取れるため、より本人の特性に合わせた円滑な同行サポートを提供できる。 ② 参拝方法の指導 ・プログラム１の時間内では時間の制約があるため、各札所において入門から納経までの一連の参拝方法をじっくりと学び、本堂及び大師堂での般若心経読経や真言等の唱え方も習得（指導は四国八十八ヶ所霊場会の公認先達資格保有者が行う）。 ○オプション２ ＜山間部の遍路道のサポート＞ ① 別格１番大山寺 ・６番札所安楽寺から日帰りで往復可能であり、麓から大山中腹に位置する寺まで 2.5km の間に山間部遍路道の特性が全て備わっている。 ・山間部遍路道での標識の探し方、車道との交差部での道迷い防止、野生動物に関する事故防止や山道歩行での注意点などを短期間で効率的に習得。 ② 11 番 藤井寺～12 番 焼山寺 ・上記①の指導に加え、四国遍路最長の山道であり最大の難所とみなされている区間の単独歩行に不安がある受講者に全行程を同行サポートすることも可能。 ・怪我や体調不良などの緊急事態や宿泊場所への到着の遅延などにも対処ができる。	白衣や菅笠など直接着用する物品や、長期の歩き遍路向けの物品の購入を希望している旅行者。またはどの物品が必要か事前知識がなく、全て相談しながら購入したい旅行者 仏教や四国遍路に特に関心が高く、各札所で日本人遍路と同様の手順と作法による参拝を計画している旅行者 登山や長距離自然道の歩行の経験が少ない、あるいは体力に自信がないなど、初めての山間部遍路道を単独歩行するには不安があり、ガイドによる同行サポートを希望する旅行者

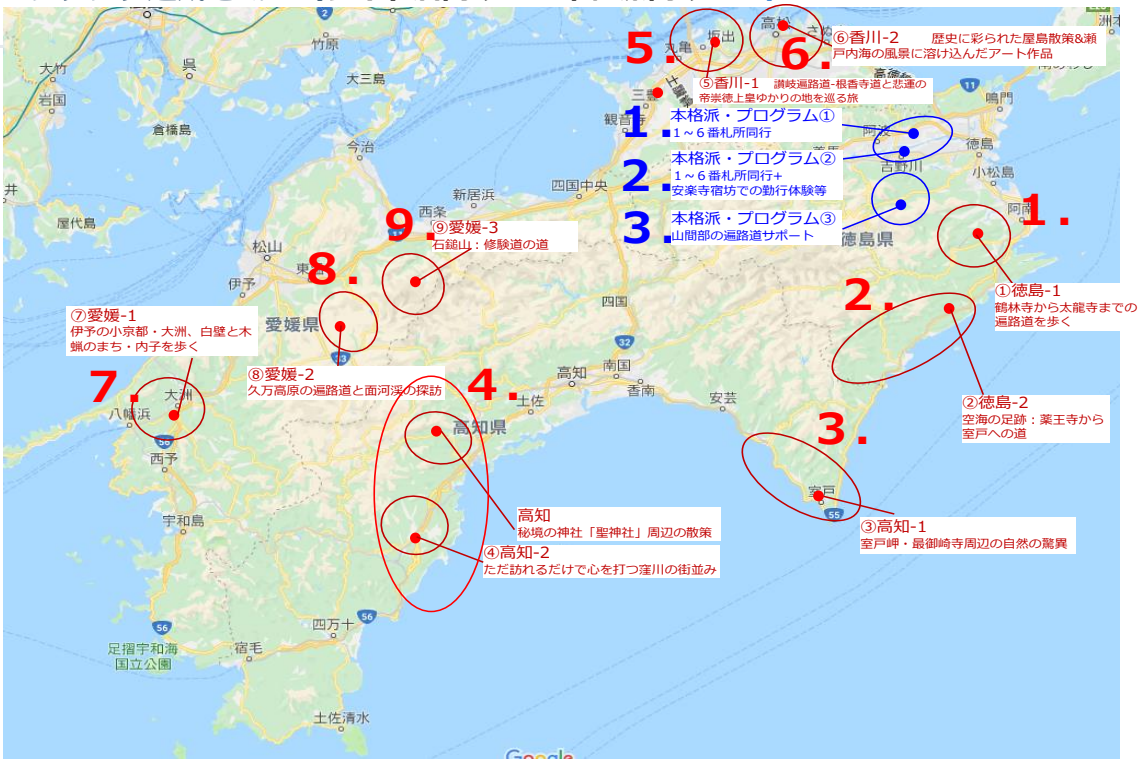
［第２編］

【４】ライト層向けコンテンツ造成事業

１．コンテンツの造成

「ライト層向けコンテンツ」とは、「周辺観光と併せて遍路体験もしてみたい外国人を対象」とするコンテンツである。本事業では、実地調査・視察にて候補地をピックアップし、ワークショップ（5 回）における協議・検討を経て絞り込み、モニタリングツアー（2 回）を実施して課題抽出と修正・磨き上げを行った。以上のプロセスを経て、ライト層向けコンテンツ 9 件（徳島県 2 件、高知県 3 件、愛媛県 2 件、香川県 2 件）の造成に至った。（別途、本格派 3 件造成）

コンテンツ造成地域　（ライト層向け・９本格派向け・３）



コンテンツ一覧

所在地	地域	コンテンツ名称
徳島県	①徳島-1	鶴林寺から太龍寺までの遍路道を歩く
	②徳島-2	空海の足跡：薬王寺から室戸への道
高知県	③高知-1	室戸岬・最御崎寺周辺の自然の驚異
	④高知-2	ただ訪れるだけで心を打つ窪川の街並み （＋秘境の神社「聖神社」周辺の散策）
香川県	⑤香川-1	讃岐遍路道-根香寺道と悲運の帝崇徳上皇ゆかりの地を巡る旅
	⑥香川-2	歴史に彩られた屋島散策＆瀬戸内海の風景に溶け込んだアート作品
愛媛県	⑦愛媛-1	伊予の小京都・大洲、白壁と木蝋のまち・内子をあるく
	⑧愛媛-2	久万高原の遍路道と面河渓の探訪
	⑨愛媛-3	石鎚山・修験道の道

２．情報拠点の整備

ライト層向けコンテンツに紐付けられた「情報拠点」を四国 4 県において 25 件（徳島県 3 件、高知県 9 件、愛媛県 5 件、香川県 4 件）整備した。（別途、本格派向けコンテンツの情報拠点 4 件）情報拠点整備にあたっては、宿坊やその他の宿泊施設（ホテル・旅館・民宿・ゲストハウス等））や、道の駅、観光案内所等から四国遍路の観光振興に対する意識が高く、外国人歩き遍路に対する支援も期待できそうな施設を情報拠点候補としてリストアップ。候補先を訪問して本事業の概要を説明し、その役割と必要性に理解ある先の応諾を得て「情報拠点」としての活動を依頼した。（情報拠点への依頼事項は資料③参照）

情報拠点一覧

No.	地域	業種等	施設名	所在地
1.	徳島・本格派	遍路用品店	スモトリ屋浅野総本店	徳島県阿波市市場町切幡字観音 173
2.	徳島・本格派	休憩所	めだかの里	徳島県吉野市鴨島町飯尾字古鋸 1579
3.	徳島・本格派	宿坊	第 6 番札所安楽寺宿坊	徳島県板野郡上板町引野寺ノ西北 8
4.	徳島・本格派	別格	愛染院休憩所	徳島県板野郡板野町那東字居内 32
5.	①徳島-1	宿泊施設	ふれあいの里さかもと	徳島県勝浦郡勝浦町坂本字宮平 1-5
6.	②徳島-2	藍染スタジオ	In Between Blues	徳島県海部郡海陽町宍喰浦字松原 216-3
7.	②徳島-2	ゲストハウス	お宿・キッチンみつ佳	徳島県海部郡海陽町宍喰浦宍喰 145
8.	③高知-1	観光施設	室戸市観光ガイドの会	高知県室戸市室戸岬町 1810-2
9.	③高知-1	宿泊施設	民宿徳増	高知県室戸市佐喜浜町 107-5
10.	③高知-1	宿泊施設	蔵空間茶館	高知県室戸市吉良川町甲 2234
11.	③高知-1	宿泊施設	ゲストハウスよろずや	高知県安芸郡奈半利町乙 702
12.	④高知-2	観光協会	越知町観光物産館	高知県高岡郡越知町越知甲 1736 番地 7
13.	④高知-2	宿泊施設	ゲストハウス縁	高知県高岡郡越知町片岡 4322 番地
14.	④高知-2	道の駅	道の駅あぐり窪川	高知県高岡郡四万十町平串 284-1
15.	④高知-2	観光施設	ゆういんぐ四万十	高知県高岡郡四万十町東大奈路 514-14
16.	④高知-2	宿坊	第 37 番札所岩本寺	高知県高岡郡四万十町茂串町 3-13
17.	⑦愛媛-1	宿泊施設	いかだや	愛媛県喜多郡内子町大瀬東 3581
18.	⑦愛媛-1	観光案内所	内子町ビジターセンター	愛媛県喜多郡内子町内子 2020
19.	⑦愛媛-1	飲食店	洋菓子金の羽	愛媛県喜多郡内子町内子 2042
20.	⑧愛媛-2	宿泊施設	国民宿舎古岩屋荘	愛媛県上浮穴久万高原町直瀬乙 1636
21.	⑨愛媛-3	宿泊施設	常住屋白石旅館	愛媛県西条市小松町石鎚 417
22.	⑤香川-1	禅寺・宿泊	公益財団法人喝破道場	香川県高松市中山町 1501-9
23.	⑥香川-2	観光施設	庵治・観光交流館	香川県高松市庵治町 5824-4
24.	⑥香川-2	観光施設	石の民俗資料館	香川県 高松市 牟礼町牟礼 2760-5
25.	⑥香川-2	道の駅	源平の里　むれ	香川県 高松市牟礼町原 631-7

３．地域住民等の意識醸成

外国人向けのコンテンツ造成及び造成後の運営にあたって地域住民等の理解や協力を得るために地域住民意識啓発セミナー等を以下のとおり開催した。

（1）お遍路インバウンドセミナー（2 回開催）

高知県、愛媛県にて各 1 回開催した。なお、当初は四国 4 県で各 1 回の開催を予定していたが、コロナウィルス感染防止の観点から香川県、徳島県での開催を中止した。

①高知県開催分の概要・結果

概要	
日時	令和 1 年 1 月 24 日（金）　14：00～16：00
場所	第 34 番札所　岩本寺　大広間
実施	四銀地域経済研究所、四国銀行
人数	24 名
内容	講演.1「新時代における遍路受入体制のあり方」 （一般財団法人百十四経済研究所　専務理事所長　西川良隆） 講演.2「外国人（欧米）目線でみる窪川エリアの魅力とお遍路について」 （株式会社穴吹トラベル　代表取締役　阿部有香　＆　ショーン氏）
参考	岩本寺窪住職、地元観光協会の協力のもと開催。四国銀行窪川支店が集客、ＰＲに全面協力
その他	地元メディア四万十ケーブルテレビが取材、放映。地元紙高知新聞に掲載
結果（アンケート）	
評価	とても参考になった･･･７名（43.8%）　参考になった･･･９名（56.3%） 有効回答数 16
意見 感想	・外国人のお遍路さんの滞在期間や消費額等、大変参考になりました。また、外国人が田舎に求めている景色等も分かったので今後のインバウンド対応の参考にさせて頂きたいです。 ・外国人観光客といかにコミュニケーションを図れるかがポイントであるかを再確認できた。また、外国人観光客は日本の原風景にも興味があり、窪川にはそれが残っている旨のショーン氏の話興味深いものがあった。これからの接客・案内に活かしていきたい。 ・ショーンさんのお話がリアルに胸を打った我が町の良さに気付かされた。 お遍路について具体的なことを全く知らない自分が恥ずかしかった。 これから勉強する必要を感じた。

②愛媛県開催分の概要・結果

概要	
日時	令和 1 年 1 月 29 日（水）　14：00～16：00
場所	伊予銀行本店 2 階セミナールーム
実施	いよぎん地域経済研究センター、伊予銀行
人数	20 名

内容	講演.1「新時代における遍路受入体制のあり方」 （一般財団法人百十四経済研究所　専務理事所長　西川良隆） 講演.2「ヒト」が四国の観光産業の核になる （株式会社四国遍路　佐藤崇裕） 講演.3　外国人（欧米）目線でみるお遍路の魅力と外国人お遍路さんについて （株式会社穴吹トラベル　カナル・サンジーブ・ラズ氏・カーラ・エンカボ氏）
参考	松山市内で開催することで、県下３ヵ所のコンテンツをふくめ県下から幅広く集客
結果（アンケート）	
評価	とても参考になった･･･６名（37.5%）　参考になった･･･９名（56:3%）　どちらでもない･･･１名（6.3%）　有効回答数 16
意見	・パネラー各々がテーマの切り口が違っていて面白かった。 ・遍路について、観光素材として包括的に捉えている組織がないように思います。四国四県の連携が必要。 ・色々な角度からお話しを聞けてよかったです。お寺も色々と取り組みをされていると分かりました。 ・貴重なセミナーに参加させてもらいました、有難うございました。 ・講演時間内に、質疑応答の時間を十分にとってほしかった。

（2）個別訪問（12 回実施）

地域企業（法人・個人）や地域住民等を対象とした小規模単位の意識啓発活動として、個別訪問を実施した。ライト層向けコンテンツ地域内に位置する宿泊施設等を訪問し、施設運営責任者やオーナーを含め直接外国人旅行者に対応する実務者に面談して本事業の主旨を説明した。

個別訪問実施の概要

回数	実施日	地域	訪問先など	面談先（人数）
1.	R1 年 11 月 25 日	⑤香川-1	五色台周辺・中西珍松園等	3 件（4 名）
2.	同 12 月 16・17 日	①徳島-1	勝浦郡、阿南市周辺・ファンファーム等	7 件（14 名）
3.	同 12 月 26・27 日	④高知-2	須崎市、津野町周辺・津野町役場等	5 件（8 名）
4.	R2 年 1 月 17 日	⑥香川-2	八栗、庵治周辺・牟禮庵治商工会等	9 件（14 名）
5.	同 1 月 23 日	④高知-2	越知町周辺・越知町観光協会等	5 件（9 名）
6.	同 1 月 24 日	④高知-2	四万十町周辺・道の駅あぐり窪川	7 件（13 名）
7.	同 1 月 26 日	⑦愛媛-1	大洲、内子町等・内子町ビジターセンター等	5 件（7 名）
8.	同 1 月 30 日	⑧愛媛-2	久万高原周辺・国民宿舎古岩屋荘等	2 件（2 名）
9.	同 2 月 5 日	②徳島-2	海陽町周辺・常満寺等	7 件（8 名）
10.	同 2 月 7 日	③高知-1	室戸市周辺・室戸市観光ガイドの会等	4 件（10 名）
11.	同 3 月 20 日	⑥香川-2	屋島周辺	３件（5 名）
12.	同 3 月 21 日	②徳島-2	日和佐周辺	3 件（5 名）
本格	R1 年 11 月～	本格派	板野郡、阿波市等・めだかの里等	4 件（5 名）
その他	R2 年 2 月 7・8 日	松山市内	道後周辺、石手寺等	14 件（16 名）
その他	R2 年 1、2 月中	高松市内	市内中心、高松ホテル旅館料理協働組合等	13 件（20 名）

訪問先個別リスト

回数	種別	訪問先	所在地	人数
1	観光施設	中西珍松園	香川県高松市鬼無町佐藤 148	2 名
	禅寺・宿泊	公益財団法人喝破道場	香川県高松市中山町 1501-9	1 名
	報道機関	四国新聞社	香川県高松市中野町 15 番 1 号	1 名
2	宿泊施設	ふれあいの里さかもと	徳島県勝浦郡勝浦町坂本字宮平 1-5	4 名
	宿泊施設	ファンファーム	徳島県小松島市櫛渕町大谷 47-1	1 名
	カフェ	風の駅	徳島県勝浦郡勝浦町大字坂本稲原 19	1 名
	宿泊施設	月ヶ谷温泉月の宿	徳島県勝浦郡上勝町福原平間 71-1	2 名
	カフェ	カフェボスコベル	徳島県阿南市吉井町皇神 7-3	2 名
	ベーカリー	和み工房　しげぱん	徳島県 阿南市 吉井町 地神南 6-2	2 名
	神社	お松権現	徳島県阿南市加茂町字不ケ 63 番地	2 名
3.	宿泊施設	須崎プリンスホテル	高知県知県須崎市西崎町 6-	1 名
	自治体	津野町役場	高知県高岡郡津野町力石 2870 番地	3 名
	日本茶インストラクタ	津野町内茶畑	高知県津野町芳生野甲 1456-1	1 名
	観光施設	吉村虎太郎邸	高知県津野町芳生野甲 1456-1	2 名
	観光施設	片岡生家郷土資料館	高岡郡津野町永野 486	1 名
4	地元商工会	牟禮庵治商工会	香川県 高松市 牟礼町牟礼 209-1	1 名
	観光施設	庵治・観光交流館	高松市庵治町 5824-4	2 名
	観光施設	石の民俗資料館	香川県 高松市 牟礼町牟礼 2760-5	2 名
	飲食店	そば処六六庵	香川県 高松市 牟礼町牟礼 3369-2	1 名
	公共交通	四国ケーブル	香川県 高松市 牟礼町牟礼 3378-3	1 名
	石材加工業	中山石材工房	香川県 高松市 牟礼町牟礼 2760-5	1 名
	道の駅	源平の里　むれ	香川県 高松市牟礼町原 631-7	1 名
	カフェ	REMUZA	香川県 高松市 牟礼町牟礼 3214-1	3 名
	宿泊施設	むれすずめ	香川県 高松市	2 名
5	観光協会	越知町観光物産館	高岡郡越知町越知甲 1736 番地 7	3 名
	観光施設	スノーピークかわの駅おち	高岡郡越知町越知丙 625 番地 4	1 名
	宿泊施設	ゲストハウス縁	高岡郡越知町片岡 4322 番地	2 名
	ボランティア団体	聖の里小日浦を守る会	高岡郡越知町越知甲 2093-1	2 名
	宿泊施設	美馬旅館	高岡郡四万十町本町 3-4	1 名
6	道の駅	道の駅あぐり窪川	高岡郡四万十町平串 284-1	3 名
	観光施設	ゆういんぐ四万十	高岡郡四万十町東大奈路 514-14	1 名
	自治体等	四万十町観光協会	高岡郡四万十町琴平町 1-1	2 名
	地元企業	しまんとえきめしＦＯＲＭ	高岡郡四万十町北琴平町 1-24	1 名
	金融機関	四国銀行窪川支店	高岡郡四万十町本町 5-9	1 名
	札所	第 37 番札所岩本寺	高岡郡四万十町茂串町 3-13	2 名
	観光施設	古民家カフェ中平	高岡郡四万十町茂串町 2-3	3 名

7	宿泊施設	いかだや	愛媛県喜多郡内子町大瀬東 3581	2 名
	観光案内所	内子町ビジターセンター	愛媛県喜多郡内子町内子 2020	1 名
	飲食店	洋菓子金の羽	愛媛県喜多郡内子町内子 2042	1 名
	観光案内所	大洲まちの駅あさもや	愛媛県大洲市大洲 649 番地 1	2 名
	観光案内所	旅里庵	愛媛県喜多郡内子町内子駅前	1 名
8	宿泊施設	国民宿舎古岩屋荘	愛媛県上浮穴久万高原町直瀬乙 1636	1 名
	宿泊施設	常住屋白石旅館	愛媛県西条市小松町石鎚 417	
	宿泊施設	いやしの宿八丁坂	愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川甲 1609-7	1 名
9	藍染体験	In Between Blues	海部郡海陽町宍喰浦字松原 216-3	3 名
	宿泊施設	お宿・キッチンみつ佳	海部郡海陽町宍喰浦宍喰 145	1 名
	ＮＰＯ法人	ＮＰＯあったかいよう	海部郡海陽町奥浦字堤ノ外 32	1 名
	禅寺	常満寺	海部郡海陽町吉田字西沢 62	2 名
10	観光施設	室戸市観光ガイドの会	高知県室戸市室戸岬町 1810-2	3 名
	宿泊施設	民宿徳増	高知県室戸市佐喜浜町 107-5	3 名
	宿泊施設	蔵空間茶館	高知県室戸市吉良川町甲 2234	1 名
	宿泊施設	ゲストハウスよろずや	高知県安芸郡奈半利町乙 702	3 名
11	行政	坂出観光協会	香川県坂出市京町 2-1-50	2 名
	案内所	坂出市観光案内所	香川県坂出市元町 1-1-1	1 名
	案内所	鬼無植木盆栽センター	香川県高松市鬼無町山口 333-1	1 名
12	宿泊施設	壱 THE HOSTEL	徳島県海部郡美波町奥河内字寺前 114-8	2 名
	飲食店	まめぼカフェ	徳島県海部郡美波町奥河内字寺前 1-1-1	2 名
	道の駅	日和佐の道の駅	徳島県海部郡美波町奥河内寺前 493-6	1 名
	宿泊施設	お宿　日和佐	徳島県美波町奥河内字本村 148-1	1 名
本格派	遍路用品店	スモトリ屋浅野総本店	徳島県阿波市市場町切幡字観音 173	1 名
	案内所	めだかの里	徳島県吉野市鴨島町飯尾古鋸 1579	1 名
	札所	第 6 番札所安楽寺宿坊	板野郡上板町引野寺ノ西北 8	2 名
	別格	愛染院休憩所	徳島県板野郡板野町那東字居内 32	1 名
追加	地域活性、宿泊施設の企画	旅 tabi.info	愛媛県松山市大街道 3 丁目 6-1	1 名
	宿泊施設	道後館	愛媛県松山市道後多幸町 7-26	1 名
	観光団体	松山観光コンベンション協会	愛媛県松山市大街道 3 丁目 2-46	1 名
	宿泊施設	道後プリンスホテル	愛媛県松山市道後姫塚 100	1 名
	行政	愛媛県・国際交流課	愛媛県松山市一番町四丁目 4 番地 2	1 名
	行政	松山市・観光・国際交流課	愛媛県松山市二番町四丁目 7-2	2 名
	札所寺院	51 番札所石手寺	愛媛県松山市石手 2 丁目 9-21	1 名
	宿泊施設	ホテル道後やや	愛媛県松山市道後多幸町 6-1	1 名

追加	宿泊施設	ゲストハウスカサブランカ	愛媛県松山市宮田町 106-2	1 名
	交通機関	伊予鉄道後温泉駅	愛媛県松山市道後町 1 丁目 10-12	1 名
	観光案内所	道後観光案内所	愛媛県松山市道後湯之町 6-8	2 名
	観光案内所	愛媛県観光物産協会	愛媛県松山市大街道三丁目 6 番地 1	1 名
	お土産屋	十五万国	愛媛県松山市道後湯之町 20-23	1 名
	お土産屋	道後　椿倶楽部　歩音	愛媛県松山市道後湯之町 3-16	1 名
追加	観光案内所	香川・高松ツーリストインフォメーション	香川県高松市浜ノ町 1-20，JR 高松駅 1 階コンコース	3 名
	観光協会	高松観光コンベンションビューロー	香川県高松市サンポート 1-1	2 名
	協同組合	高松ホテル旅館料理協同組合	香川県高松市西の丸町 10-15 西の丸ビル 3 階	2 名
	旅行会社	（株）リレイク	香川県高松市一宮町 620	1 名
	旅行会社	琴平バス（株）	香川県高松市あさひ町 5-4-18	1 名
	観光案内所	KOTOHIRA TRIP BASE - Kotori-	香川県仲多度郡琴平町 725	1 名
	行政	香川県	香川県高松市番町 4 丁目 1 番 10	2 名
	行政	高松市	香川県高松市番町 1 丁目 8 番 15	1 名
	行政	高松市国際交流協会	香川県高松市番町 1 丁目 11 番 63 アイパル 2 階	1 名
	行政	文化振興課	香川県高松市番町 4 丁目 1 番 10	1 名
	経済団体	四国経済連合会	香川県高松市丸の内 2-5	1 名
	経済団体	香川経済同友会	香川県高松市紺屋町 1-3	1 名
	観光案内所	香川・高松ツーリストインフォメーション	香川県高松市浜ノ町 1-20，JR 高松駅 1 階コンコース	3 名

４．コンテンツ造成における実施手法

(1) 調査データを活用したニーズ把握と改善点の洗い出し

ライト層向けコンテンツを検討するにあたり、以下の調査結果で上位にきている「自然、建築、歴史、食、伝統文化、コミュニティー、本物志向、ガイドツアー」等が有効な判断材料と考えられることからコンテンツ素材及びコンテンツ候補地域をピックアップする際の参考とした。

海外旅行歴がある旅行者のコト消費に関する意識や行動特性の全体的傾向（国・地域間傾向）

アンケート項目	上位項目（対象は米豪英仏加の訪日経験者と未経験者が各半数）
海外旅行で体験したいこと	歴史、食、自然、建築、伝統文化、コミュニティー、アウトドア、アート
海外旅行で期待すること	本格派、本物志向、ネタ探し、知的好奇心、お手軽派、リラックス
海外旅行で体験したコンテンツ	ガイドツァー、ナイトライフ、ナイトショー、リラクゼーション、施設見学
今後、海外旅行で体験したいコンテンツ	ガイドツァー、山のアクティビティ、ナイトツァー、海のアクティビティ

資料:観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」平成 31 年 3 月(https://www.mlit.go.jp/common/001279555.pdf)

(2) ワークショップの開催

ライト層向けコンテンツの発掘・開発、検証、課題抽出、磨き上げを行うためのワークショップを 5 回開催した。(その他、第一回目のワークショップ開催前に検討会を開催。)

ワークショップ構成員としては、四国運輸局（委託者)、一般財団法人百十四経済研究所（受託者)、株式会社穴吹トラベル（再委託先）一般社団法人四国ツーリズム創造機構（DMO）のほか、有識者としてグルネウォルド・マーク氏・和世氏をはじめ、四国遍路の実態や状況などを普段から把握している関係者、専門家を招請した。

ワークショップ等の概要

	日時	有識者
検討会	令和 1 年 8 月 19 日（月） 10:00～11：30	宍戸栄徳氏、グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏
第 1 回	同年 8 月 30 日（金） 10:00～12：00	宍戸栄徳氏、グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏、佐藤崇裕氏、十河瑞澄氏、松本浩氏
第 2 回	同年 9 月 27 日（金） 15：30～17：40	グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏、佐藤崇裕氏十河瑞澄氏、松本浩氏、横山哲也氏
第 3 回	同年 11 月 29 日（金） 10：00～12：00	グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏、佐藤崇裕氏十河瑞澄氏
第 4 回	令和 2 年 1 月 20 日（金） 13：00～15：00	グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏、佐藤崇裕氏十河瑞澄氏
第 5 回	同年 3 月 4 日（水） 13：00～15：00	グルネウォルド・マーク氏、グルネウォルド・和世氏、佐藤崇裕氏
四国運輸局、一般社団法人四国ツーリズム創造機構、一般財団法人百十四経済研究所、株式会社穴吹トラベルは毎回出席。		

（３）ガイドの育成

①「お遍路インバウンドガイド講座」の開催

本格派向けコンテンツで実施したコーディネーター育成（徳島県 5 回）の経験を基に、各県の国際交流関係組織（地域通訳案内士グループ、各県ＳＧＧ、観光協会等）を中心にガイド人材を募集して、ライト層向けコンテンツを案内するガイドを育成するための「お遍路インバウンドガイド講座」を 3 回開催した。

お遍路インバウンドガイド講座（英語編）の概要

実施回・日	講師	札所・遍路道	参加者
第1回目　12月22日	徳島大学： モートン准教授 穴吹トラベル： 外国人社員	（香川県） 白峰寺～根香寺道～根香寺～屋島寺～八栗寺	34名
第2回目　1月25日		（高知県） 岩本寺～窪川まちあるき～呼坂古道	24名
第3回目　1月26日		（愛媛県） 内子町～十夜ヶ橋～内子町まちあるき	14名

第 1 回目の概要と結果

概要	
日時	令和 1 年 12 月 22 日（日）　8：30～16：00
場所	合同庁舎会議室及び白峰寺、根香寺、屋島寺、八栗寺、白峰寺～根香寺までの古道歩き
人数	34 名（内全国及び地域通訳案内士 19 名）
実施	百十四経済研究所・穴吹トラベル
講師	徳島大学　モートン准教授、穴吹トラベル外国人社員（カナル氏・ハンス氏）
内容	・座学で基礎知識を習得・白峰寺境内等にてロープレ、根香寺古道ガイドの実地学習
結果（アンケート）	
感想	非常によい･･･10 名（37.0%）期待以上･･･8 名（29.6%）期待通り･･･7 名（25.9%） 普通　･･･　1 名（3.7%）　期待外れ･･･1 名（3.7%）　有効回答数 27
意見	・お遍路についての説明がもう少しあったほうがよい。（40 代・女性） ・是非次回を企画してほしい（40 代・女性） ・もっとお寺の話を聞きたかった。講義資料はためになった（30 代・女性） ・モートン先生の座学講座をもっと聞きたい（女性・40 代） ・行程が時間的にきつかった（60 代・男性） ・欧米豪のインバウンドの方に尋ねられそうなことを知ることができた（30 代女性） ・お遍路参拝を実際にやってみたかった（20 代女性）

第 2 回目の概要と結果

概要	
日時	令和 2 年 1 月 25 日（日）10：00~16：00
場所	岩本寺大広間、境内、窪川周辺、呼坂古道
人数	24 名（内全国及び地域通訳案内士 10 名）
実施	四銀地域経済研究所・百十四経済研究所・穴吹トラベル
講師	穴吹トラベル外国人社員（カナル氏・ハンス氏・カーラ氏）
内容	・座学の後、ショーン氏が窪川まち歩きを四万十町観光協会が呼坂古道歩きを案内しつつ実施学習
その他	四万十町観光協会がこのセミナーのために呼坂古道を整備

結果（アンケート）	
評価	非常によい･･･10 名（40.0%）期待以上･･･10 名（40.0%）期待通り･･･4 名（1.6%） 普通　　･･･　0 名（ 0.0%）　期待外れ･･･1 名（　0.4%）　　有効回答数 25
意見 感想	・地元四万十の今まで知らざる魅力に触れることができてよかった（30 代・女性） ・もう少しスモールグループごとに動けるようなシステムが良かったが貴重な経験になった。（20 代男性） ・穴吹トラベルのかたは大変親切で楽しかったです。改めてわが町の良さを知ることができた。（60 代女性 ・有意義で楽しかった。これからのガイド活動に生かしたい。（70 代男性） ・自分の知らないことをたくさん教えてもらったのでやる気が出た（60 代女性） ・スートラについての説明、スピリチュアルな面についての解説も求められることがあるのでそこまで踏み込んだ説明が聞きたかった。窪川のポイントは意外なところが多く目からうろこ状態だった。（70 代男性） ・こういう機会があればまたさんかしたいです。ショーンさんから違う視点でいろんなものの見方を教えていただき少し視野が広がった気がします（50 代男性）

・第 3 回目の概要と結果

概要	
日時	令和 2 年 1 月 26 日（月）9：30~13：00
場所	内子町の駅ＮＡＮＺＥ、十夜ヶ橋、内子町内
人数	14 名（内全国及び地域通訳案内士 2 名）観光事業に従事する地元在住外国人 1 名が参加。
実施	いよぎん地域経済研究センター・百十四経済研究所・穴吹トラベル
講師	穴吹トラベル外国人社員（カナル氏・ハンス氏・カーラ氏）
内容	座学の後、十夜ヶ橋でロープレなど実地学習を行い、内子町内で街歩き学習
その他	内子町近辺に札所はないが、弘法大師伝説のなかで重要なスポット十夜ヶ橋があるので、ロープレ実地学習の場として活用した。 （十夜ヶ橋は、空海が野宿した場所であり、「橋のうえでは杖をつかない」作法の現場である）
結果（アンケート）	
評価	非常によい･･･　9 名（69.2%）　期待以上･･･1 名（7.6%）　期待通り･･･2 名（15.3%） 普通　　･･･ 1 名（7.6%）　有効回答数 13
意見 感想	・このような機会を作っていただいてありがとうございました（70 代男性） ・日本語でも知らないことを知ることができた。また機会があったらぜひ参加したいです。（50 代女性） ・十夜ヶ橋ロールプレーイングをもっと時間をかけてしたかった。（30 代男性） ・有意義な反日でしたスタッフ皆様お疲れさまでした（50 代男性） ・内子町でガイドをしておりますが改めて外国人の視点がわかりとても役に立ちました。（60 代女性）

・

５．海外旅行会社等の招請とブラッシュアップ

コンテンツ候補地が適切なものであるか検証するため海外旅行社・ランドオペレーターを対象にモニターツアーを実施した。以下のとおり 3 名を招請し１回目は課題抽出、２回目は修正結果の検証を行った。

・招請者について

招請者①		
氏名	宮武宏征	BEAR LUXE JAPAN　代表取締役兼 COO
会社名	BEARLUXE JAPAN	高付加価値型観光サービス予約・決済ポータル「Bear Luxe Japan」開発及び運営・観光業界に特化したマーケティング・コンサルティングサービスの提供・旅行サービス手配業の提供。
モニタリングの観点		旅行会社目線（海外の旅行会社に商品を卸している DMC の立場）にてコンテンツが欧米市場向けの旅行会社が採用できるかどうかという観点でモニタリングを依頼した。
招請者②		
氏名	ノーマン・ホワイト	CYCLE SHIKOKU　代表
会社名	CYCLE SHIKOKU	アジア最大のサイクリングツアー旅行会社「Grasshopper Adventures」の Japan Country Manager も務めており、欧米を中心とした旅行者を案内している。 訪日外国人お遍路さんへのレンタサイクルの貸出事業なども行い、FIT 層の訪日外国人の四国旅行の動向についても知見がある。
モニタリングの観点		訪日外国人観光客目線で欧米市場の旅行者が日本の地方に何を求めているか、どういったコンテンツが喜ばれるかという観点でモニタリングを依頼
招請者③		
氏名	アレックス・ブラッドショー	GOTOKU　代表、イギリス・シェフィールド出身。2005 年に鹿児島に移住。
会社名	GOTOKU ㈱島津興業	・鹿児島県鹿児島市川上町 2721 - 73 日本の観光産業に特化した観光コンサルティング会社 ・鹿児島県鹿児島市吉野町 9700-1 世界文化遺産である、仙巌園・尚古集成館の運営管理等を行う
モニタリングの観点		インバウンド向けに日本の地方観光をプロデュースしてきた経験を活かし、コンテンツそのものの良し悪し・環境整備・プロモーション等総合的な観点でモニタリングを依頼

・第 1 回目（課題抽出）

招請者	実施日	対象コンテンツ地域（訪問順）
宮武宏征 ノーマン・ホワイト	令和 1 年 12 月 9 日（月）～13 日（金）	⑤香川-1、⑥香川-2、①徳島-1、②徳島-2、③高知-1④高知-2
アレックス・ブラッドショー	同年　12 月 19 日（木） ～22 日（日）	⑦愛媛-1、⑧愛媛-2、④高知-2、

・第 2 回目（修正結果の検証）

招請者	実施日	対象コンテンツ地域（訪問順）
宮武宏征 ノーマン・ホワイト	令和 2 年 2 月 10 日（月）～14 日（金）	⑦愛媛-1、④高知-2、⑥香川-2、②徳島-2
アレックス・ブラッドショー	同年　2 月 19 日(月)～21 日(金)	③高知-1、②徳島-2、①徳島-1、⑤香川-1、⑥香川-2、

６．コンテンツ造成等に至る検討・協議

（1）ライト層向けコンテンツ　検討会

日時	令和１年８月 19 日（月）10：00～11：30
場所	サンポート合同庁舎　103 号会議室
出席者	四国運輸局（大麻課長・柴原係長）一般社団法人四国ツーリズム創造機構（山本本部長・森副本部長）一般財団法人百十四経済研究所（西川所長・村尾主任研究員）株式会社穴吹トラベル（阿部社長・久保田係長）、四国旅客鉄道株式会社（六車課長）
有識者	宍戸栄徳氏、グルネウォルド・マーク氏、和世氏
議題	（1）本事業の概要について （2）ライト層向けコンテンツ造成について
会議資料	（1）ライト層向けコンテンツ検討会 （2）コンテンツ造成サマリー

説明事項

・資料「ライト層向けコンテンツ検討会」により、本事業関係者の認識一致を行った。

協議事項

①ワークショップの位置づけについて

・ワークショップは、有識者を含め出席者から広く意見を集めて協議し、本事業の方針を決定する場と位置づけられた。

②ライト層向けコンテンツ造成のすすめ方

・「コンテンツ造成サマリー」のシートを用いてコンテンツ素材、地域の候補を抽出。

・ワークショップにて候補地について説明し、有識者の評価、修正指示を受ける。

・修正指示について再検討しシートに反映して次回ワークショップにて承認を受ける。

・第１回ワークショップを開催しコンテンツ造成の初回案を提示する。（8 月 30 日予定）

③ライト層向けコンテンツ造成の指針

・これまで知られていなかった素材・地域を、外国人目線で探し、造成すること。

・2 次交通など様々な難点がある素材でもワークショップに提示して、ポジティブ目線で意見交換を行うこと。

・四国４県でのバランスに配慮すること。

資料

コンテンツ造成サマリーの作成要領	
①	各県毎に通し番号
②	コンテンツの名称
③	最寄りの札所寺院
④	紐付けられる情報拠点候補
⑤	コンテンツ素材を列挙
⑥	周辺地図に③～⑤をプロット

ライト層向けコンテンツ検討会（令和１年８月 19 日）

資料名：ライト層向けコンテンツ　検討会

表紙

令和元年度
訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業
「四国遍路」滞在型コンテンツ開発事業

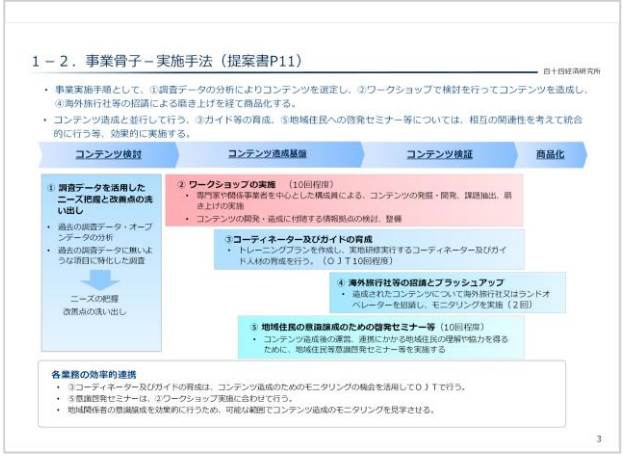
ライト層向けコンテンツ　検討会

四国運輸局　第103会議室
2019年8月19日

一般財団法人 百十四経済研究所

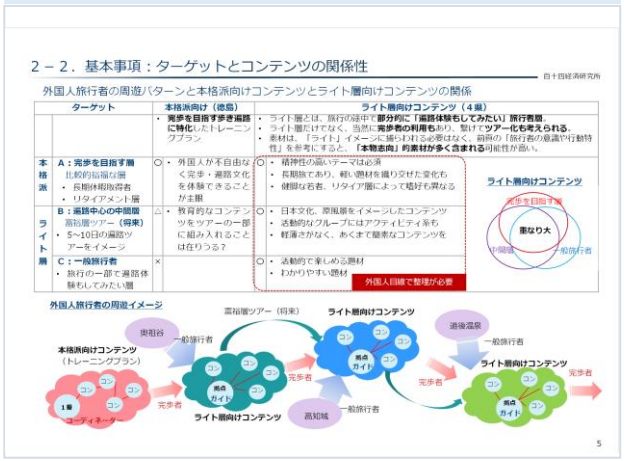
1-1.事業骨子-実施項目

1-2.事業骨子-実施手法

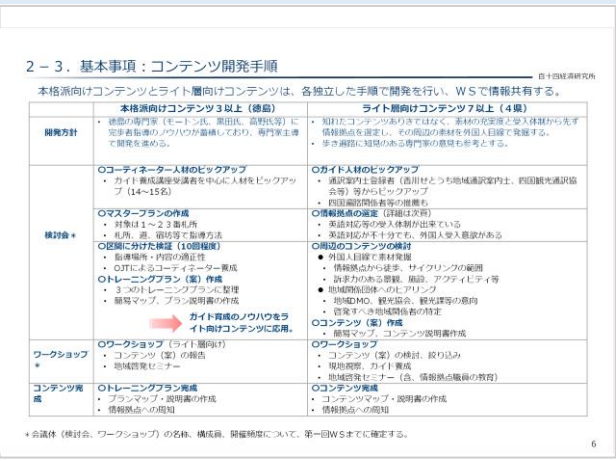


2-1.基本事項：ターゲットとする外国人遍路のイメージ

2-2.基本事項：ターゲットとコンテンツの関係性



2-3.基本事項：コンテンツ開発手順



資料名：ライト層向けコンテンツ　検討会

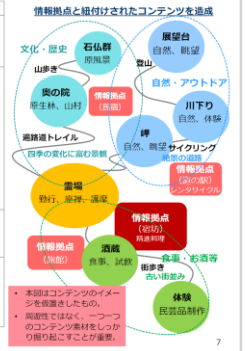
2-4.基本事項：情報拠点とコンテンツ素材の紐付けイメージ

2－4．基本事項：情報拠点とコンテンツ素材の紐付けイメージ

四十四経済研究所

情報拠点としての機能面から拠点を決定し、拠点周辺のコンテンツを掘り起こし、紐付けして一体化させる。

項　目	検討内容
紐つけイメージ	歩き遍路は複数の拠点で滞在するため、情報拠点は複数が望ましい。 ○紐付け個数 主（宿坊・宿泊施設１～２） 補助（おもてなし S、道の駅１～3）　⇔　コンテンツ素材大小（S～7）
情報拠点	持続性を考えると、遍路の消費（宿泊、飲食、物品購入）が発生する拠点。 ○宿泊機能 ・宿坊（テンプルステイ）に限るものではない ・日本文化を感じさせる施設が望ましい ・機能重視で、簡素で清潔なものでも可 ○受入態勢 ・言語対応等の受入体制が出来ていることが望ましい ・言語対応が不十分でも受け入れ意欲があれば可 ○情報機能 ・徒歩、サイクリング圏内に相応のコンテンツが所在すること ・カイト駐在によるコンテンツの説明が理想 ・カイトマップの交付と簡易説明でも可
コンテンツ	○抽出目録（次頁参照） ・情報拠点との距離は、徒歩、サイクリング圏内から掘り起こす ・外国人目線で、地方に期待されるコンテンツを探す ・コンテンツの規模は大小さまざま
案内人	○コーディネーター（上級ガイド） ・遍路の希望に応じて、四国全体のコンテンツを活用した旅行プランを組み立てるスキルのあるガイド（各コンテンツ情報のネット・ワーク化、一元化が前提） ・徳島での育成を想定するが、４県の情報拠点でも育成が望ましい ○ガイド ・コンテンツを説明・案内できるガイド



7

2-5.基本事項：コンテンツを構成する素材のイメージ

2－5．基本事項：コンテンツを構成する素材のイメージ

四十四経済研究所

- 四国遍路にしかない魅力を発信し、周辺観光と結びつけることで、訴求力のある体験・滞在型コンテンツを造成。
- 遍路の３要素と周辺観光のコンテンツ素材は以下のイメージ。

項　目	細目	検討内容	留意事項
遍路の３要素 霊場、巡礼路、おもてなしをテーマとする	霊場	・修行、座禅、護摩焚き ・宿坊体験、精進料理 ・ツアー	・霊場にまつわる歴史の説明は不可欠。欧米人目線で簡潔に。 ・巡礼路のトレイルでは、自然、歴史、民俗等を接合するストーリーの創出が必要。 ・「おもてなし」を「地域住民との交流」と読み替えて、ボランティアガイドによる遍路道や中山歩き等も対象に。
	巡礼路	・遍路道トレイル、里山登山 ・遍路道サイクリング ・スピリチュアルスポット	
	おもてなし	・地域住民との交流	
周辺観光 周辺地域の文化体験・自然を生かしたアクティビティ	文化・歴史 Tradition	・古民家泊 ・寺院、仏像、城郭、歴史博物館	・訪日グローバルキャンペーンの７つのパッションを中心に考える（特に、Tradition、Cuisine、Nature、Outdoor）。 ・当面、観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」（平成31年3月）より、コト消費における欧米豪旅行者の意識や行動特性の精向を参考に事業を進める。
	食事・お酒 Cuisine	・地元農産物、魚介類 ・酒蔵、地酒、地ビール	
	自然 Nature	・海や山の大自然、瀬戸内海、眺望 ・四国の原風景	
徒歩、サイクリングで行ける距離	アート・デザイン Art	・絵画者体験、藍染体験、その他民芸品制作体験 ・美術館	
	宿泊施設 Relaxation	・高級旅館	
	アウトドア Outdoor	・トレイル、サイクリング、登山 ・サーフィン、ラフティング、カヌー	

＜補足説明＞　本事業が対象とするものは、「コンテンツ」であって「旅行商品」ではない。知られていなかった素材を多く探し出し、それを情報拠点・カイトと結び付けることで、地区一帯をコンテンツとしてまとめる商品が重要。
（注意事項）
- 遍路巡ないに、知られていない素材やストーリーを探すことが重要。ライト層では、徒歩・自転車に限るものではない。
- コンテンツ素材のイメージとしては、四国にしかない、地元民しか知らない体験・食が考えられる。
- 札所、宿坊などで、外国人を対象とする特別体験メニューなどの提供があればよい素材となる。
- 旅行会社は、出来きあがったコンテンツを組み込んで旅行商品を造ることになり、その段階で有名観光地が結びつく場合もありうる。（ストーリーで結びつくものはコンテンツとして入れることも可）
- いずれの場合も、造成プロセスに必ず第三者の立場としての外国人の意見、目線を入れる。
- 国毎に嗜好や到達する素材が異なることにも注意。

8

3-1.業務フローの確認：ライト層向けコンテンツ造成

3－1．業務フローの確認：ライト層向けコンテンツ造成（造成案の作成まで）

四十四経済研究所

（１）ａ情報拠点（案）／（１）ｂコンテンツ素材（案）　→　（２）コンテンツ造成（案）　→　（３）ワークショップ コンテンツ造成（案） ・検討、絞り込み ・修正指示　→　（４）コンテンツ造成（案）の修正　→　（５）ワークショップ コンテンツ造成（案） 最終版の報告

番号	項目	要旨	実施内容
(1) a	情報拠点（案）作成	周辺のコンテンツ素材の多寡に当たりをつけて情報拠点を抽出	・嗜好確認（仮説）→　文献・実地で情報拠点発見（外国人目線）→　情報拠点シート作成（資料P4） ・内部での検討（含、外国人目線） ・情報拠点（案）抽出完了
(1) b	コンテンツ素材（案）作成	抽出した情報拠点と紐付けするコンテンツ素材を発見し検討を行う	・嗜好確認（仮説）→ 文献・実地でコンテンツ素材発見（外国人目線）→ 素材シート作成（資料P7） ・内部での検討（含、外国人目線） ・コンテンツ素材（案）抽出完了
(2)	コンテンツ造成（案）作成	情報拠点とコンテンツ素材とを紐付けしてコンテンツ造成（案）	・情報拠点（案）とコンテンツ素材（案）を紐付け　→　総括シート作成（資料P1） ・内部での検討（含、外国人目線） ・コンテンツ造成（案）完成
(3)	**ワークショップでの検討**	コンテンツ造成（案）を提出し、有識者の意見を聴取し改善点等を発見	・コンテンツ造成（案）総括シート（資料P1）等で説明 ・有識者の評価・修正箇所の指示
(4)	コンテンツ造成（案）修正	有識者の評価・修正箇所の指示に基づく修正	・有識者の評価に基づく再検討 ・検討結果に基づく修正を織り込む　→　総括シート（資料P1）等の修正
(5)	**ワークショップへの報告**	修正後のコンテンツ造成（案）を報告し了解を得る	・コンテンツ造成（案）総括シート（資料P1）等（修正分）で説明 ・有識者の了解を得る

9

3-2.業務フローの確認：ライト層向けコンテンツ造成

3－2．業務フローの確認：ライト層向けコンテンツ造成（使用シート類）

四十四経済研究所

情報拠点＆コンテンツ素材の抽出、内部検討、ＷＳでの評価等は以下のシートを用いて実施する。

（１）コンテンツ造成サマリー
- ◇総括シート　資料P1
  - ・情報拠点情報
  - ・コンテンツ情報
- ○付属シート　資料P3
  - ・説明項目
  - ・評価項目

（２）情報拠点の抽出
- ◇情報拠点シート（主１ヵ所）資料P4
  - ・宿坊
  - ・中～大規模宿泊施設
- ○付属シート（複数ヵ所）資料P6
  - ・小規模宿泊施設
  - ・道の駅
  - ・おもてなしステーション

紐付け

（３）コンテンツ素材の抽出
- コンテンツ素材シート①　資料P7
- コンテンツ素材シート②
- コンテンツ素材シート③
- コンテンツ素材シート④
- コンテンツ素材シート⑤
- コンテンツ素材シートｎ

番号	目的	実施内容
(1)	コンテンツ造成サマリー	・総括シート：造成したコンテンツ（コンテンツ素材＆情報拠点）概要を整理して記載 ・付属シート：　説明項目－調査担当者の説明を記載 評価項目－有識者、外国人等からの評価を記載
(2)	情報拠点の抽出	・情報拠点シート（主１ヵ所）：当該コンテンツの主情報拠点となる施設情報を記載 宿坊、中～大規模宿泊施設が望ましい ・付属シート（複数ヵ所）：補助的な情報拠点の施設情報を記載（１枚に複数ヵ所が記載できる） 小規模宿泊施設、道の駅、おもてなしステーション等が候補となる
(3)	コンテンツ素材の抽出	・コンテンツ素材シート：一定のボリューム（滞在時間等）がある素材を１シートに記載 ・遍路に直接関係した素材（札所、道、おもてなし）や周辺観光等をコンテンツ素材として記載（P8参照）

10

6.当面のスケジュール（案）

6．当面のスケジュール（案）　第一回ＷＳまでにある程度先までの日程を調整します。

四十四経済研究所

- 本格派向けコンテンツとライト層向けコンテンツは、独立した手順で開発を行い、ＷＳで情報共有する。
- 本格派向けコンテンツの人材育成手法をライト層向けにも横展開するため、徳島での開発を先行する。

		全体管理 ＷＳは主にライト層コンテンツ	ライト層向けコンテンツ 四国ツーリズム創造機構様	本格派向けコンテンツ イーストとくしま観光推進機構様
8月	②週	**打ち合わせ会（キックオフ）8/5**		③週 **第１回検討会（徳松）8/16** マスタープランの検討 今後の運営方法の確認
	④週		**第１回検討会（高松）8/19** ・事業概要の説明 ・ライト層コンテンツ造成に関する確認	
	⑤週	**第１回ワークショップ（高松）8/30** ・事業概要の説明 ・ライト層コンテンツ検討地域（案）		④週 人材ピックアップ開始
9月	○週	**第２回ワークショップ（　）** ・ライト層コンテンツ検討 ・本格派プラン進捗報告	○週 **第２回検討会（　）** ・ライト層コンテンツの検討	⑤週 **第２回検討会　9/29** ・本格派プラン検討（第１区間） ・コーディネーターＯＪＴ
			○週 **第３回検討会（　）** ・ライト層コンテンツの検討	
10月	○週	**第３回ワークショップ（　）** ・ライト層コンテンツ検討 ・本格派プラン進捗報告		○週 **第３回検討会** ・本格派プラン検討（第３区間） ・コーディネーターＯＪＴ

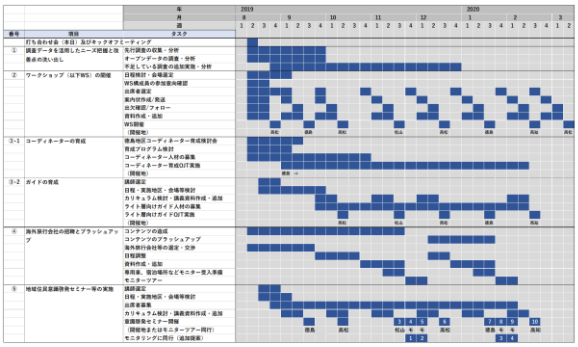
※会議体（検討会、ワークショップ）の名称、構成員、開催頻度について、第一回ＷＳまでに明確化する。

11

7.スケジュール表（案）

7．スケジュール表（案）　第一回ＷＳまでに再作成します。

四十四経済研究所



12

資料名：ライト層向けコンテンツ　検討会

8.参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（セグメント別傾向）

8．参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（セグメント別傾向）

百十四経済研究所

- 海外旅行者の志向（セグメント）別に海外旅行や訪日旅行に関する意識や行動実態を把握するための分析。
- セグメントはJNTOの訪日グローバルキャンペーンで想定している"7つのパッション"を中心とした15のセグメントに基づいている。

セグメント	ポイント・志向性
伝統文化	・出現率は49%で上位5位に入る。 ・**現地の伝統文化や芸能を体験することが目的で、本物に触れたり自身の教養を増やすような学びを求める。** ・求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「自分の知識や教養を増やすような、**学びのある体験**を求める」、「**家族や友人に話せるような旅先での面白い体験**を求める」である。
食	・出現率は51%で上位4位に入る。 ・全体と比較して**現地の食文化に対する興味が高く**、ナイトライフや料理教室などのコンテンツを求める傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」、次いで「じっくり**時間をかけて体験**したい」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「**家族や友人に話せるような旅先での面白い体験**を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。
自然	・出現率は全体の62%で最も多く、自然を体験したい需要の大きさがうかがえる。 ・海外旅行時の**滞在期間は2週間以上が多く、長い傾向**が見られる。 ・全体と比較して、**海外旅行時に体験したいことの多くが自然体験型のアクティビティ**である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」、次いで「じっくり**時間をかけて体験**したい」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「自分の知識や教養を増やすような、**学びのある体験**を求める」、「**家族や友人に話せるような旅先での面白い体験**を求める」である。
アウトドア	・海外旅行時の滞在時間が長いセグメントである。 ・アクティブに体を動かす**山や雪のアクティビティ**を求めている。 ・現地の生活に近い感覚で**民泊（Airbnb）やゲストハウスに宿泊**する傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」、次いで「**家族や友人に話せるような旅先での面白い体験**を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「**アクティブに体を動かして過ごしたい**」や「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。
コミュニティ	・現地での生活に溶け込み、**地域の人たちとのつながり**や現地でしか体験できない**その土地ならではの経験**を求める。 ・ハンドメイド、農業、料理教室など、**その土地固有の体験**に興味を示す。 ・宿泊先もその土地の文化や生活が目の当たりにできる**民泊等を挙げる傾向**が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」、次いで「自分の知識や教養を増やすような、**学びのある体験**を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、「人と同じでない、**自分だけの特別な体験**を求める」である。
歴史	・フランスやスペイン等の**ヨーロッパ諸国の出身者が多く**、年齢層は中年女性が相対的に多い。 ・海外旅行時の滞在時間は長く、じっくり**時間をかけて学びのある体験**を求める。 ・ガイドツアーや施設見学等、**ガイド等の説明を通じて理解が深まる体験**を好む。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「**現地でしかできないこと**など、**本物の体験**を求める」、次いで「じっくり**時間をかけて体験**したい」。全体と比べて相対的に高いのは「自分の知識や教養を増やすような、**学びのある体験**を求める」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。

資料：観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」平成31年3月より（https://www.mlit.go.jp/common/001279555.pdf）

13

9.参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（国・地域別行動）

9．参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（国・地域別傾向）

百十四経済研究所

国・地域単位で海外旅行や訪日旅行に関する意識や行動実態を把握するための分析。

国	ポイント・志向性
アメリカ	・全体と比較すると、2週間以上の長期滞在型海外旅行を楽しむ割合が非常に高い。 ・日中は幅広い体験アクティビティ、夜はナイトレクリエーションを中心とした夜間に楽しむ体験の意向が高い。 ・情報サイトTripAdvisorや家族の話など、個人の口コミをもとに自ら旅行の計画を立てる傾向がうかがえる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。
オーストラリア	・滞在期間は1週間から1か月と比較的長く、現地での暮らしを満喫なくじっくり体験する長期滞在型である。 ・体験としてはガイドツアーのほかに、リラクゼーションや夜間に楽しむコンテンツに加え、自然等幅広い種類のコンテンツを体 ・験したいと考えている。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのは「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」や「現地の暮らしを体験し、現地の人と積極的に交流したい」である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。
イギリス	・食事やお酒、伝統的・文化的資産巡りの志向性が強い、中・長期滞在型旅行者。 ・ナイトショーやナイトクラブなど、夜の体験の体験意向が強い。 ・訪日の際にはWEBサービスの情報をもとに、個人で旅行を計画する傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」や「じっくり時間をかけて体験したい」である。
フランス	・歴史や史跡巡り、または食事やお酒を楽しむことへの志向性が強い、中・長期滞在型旅行者。 ・ガイドツアーやナイトライフなど、手軽に楽しめるコンテンツへの興味・関心が高い。 ・情報収集時は雑誌やガイドブック、ラジオ等のマスメディアを参考にする傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「空いた時間に手軽に楽しみたい」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」である。
カナダ	・じっくりと時間をかけて大都市のエンターテイメントや食事、自然まで楽しみたいと考える長期滞在型タイプである。 ・個人で旅行を手配する傾向があるが、現地ポイントではガイド付きツアーへの参加意向が高い。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の街並み、有名な建築などを鑑賞したい」。全体と比較して相対的に高いのは「その国・地域の大都市の刺激、エンターテイメントを楽しみたい」や「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。

資料：観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」平成31年3月より（https://www.mlit.go.jp/common/001279555.pdf）

14

資料：コンテンツ造成サマリー

(1) コンテンツ造成サマリー

資料

◇総括シート

番号	香川-1 ①	名称 ②	②香川県五色台付近の札所と遍路道古道	関連札所	根香寺 ③

情報拠点情報（主1か所、付属ある場合は名称のみ記載）

主	施設名	休暇村五色台	付属	施設名	
	タイプ	宿泊施設		施設名	
④	住所	坂出市大屋冨町3042		施設名	

コンテンツ素材情報

⑤	名称	喝破道場	7	名称	
	素材要素	おもてなし		素材要素	
	住所	高松市中山町		住所	
2	名称	史跡「根香寺道」	8	名称	
	素材要素	巡礼路		素材要素	
	住所	根香寺周辺山間部		住所	
3	名称		9	名称	
	素材要素			素材要素	
	住所			住所	
4	名称			名称	
	素材要素			素材要素	
	住所			住所	
5	名称			名称	
	素材要素			素材要素	
	住所			住所	
6	名称			名称	
	素材要素			素材要素	
	住所			住所	

位置図

⑥

（P-1）

（2）ライト層向けコンテンツ　第１回ワークショップ

日時	令和１年８月 30 月（金）10：00～12：00
場所	サンポート合同庁舎　北館 702 号会議室
出席者	四国運輸局（大麻課長・柴原係長）一般社団法人四国ツーリズム創造機構（森副本部長・漆原シニアマネージャー）一般財団法人百十四経済研究所（西川所長・村尾主任研究員） 株式会社穴吹トラベル（阿部社長・ショーン氏）
有識者	宍戸栄徳氏、グルネウォルド・マーク氏、和世氏、十河瑞澄氏、松本浩氏、佐藤崇裕氏
議題	（1）本事業の概要及び実施方法について （2）進捗状況の報告・確認 （3）今後のワークショップ開催について
会議資料	（1）第１回ワークショップ （2）コンテンツ造成サマリー一覧（ライト層向けコンテンツ）

説明事項（四国運輸局）

・ライト層向けコンテンツ造成にあたっては、外国人目線を取り入れ、訪日無関心層及び日本には来ているが四国には関心がない層に訴求できるものを調査、発掘してほしい。

報告事項

・資料（1）により事業概要と実施方法について、資料（2）によりコンテンツ案（15 地域）について報告。

協議事項

①コンテンツ地域について

・石鎚山周辺についても検討すべきとの意見があり追加調査することとなった。

・外国人目線にかなう日本の原風景が残る地域として四万十町窪川周辺が強く推された。

（資料：番号⑤高知県土佐市～四万十町と遍路道古道）

・コンテンツを案内するガイドの育成は長期的課題であり、今回造成するコンテンツについてガイドの存在を絶対条件とはしないこととされた。

②情報拠点について

・情報拠点整備については、本事業のなかで完全なものとすることは難しいことから、案内マップ配置について協力してもらえるレベルでも可とする。

③次回会議について

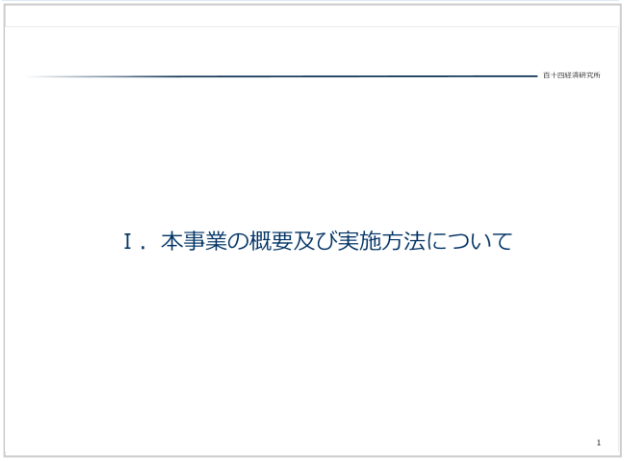
・次回会議は、出席者の発言機会を増やし、自由闊達な意見交換を行うべく 2 グループに分けて行う。

ライト層向けコンテンツ　ワークショップ第１回目（令和１年８月 30 日）

資料名：第１回ワークショップ

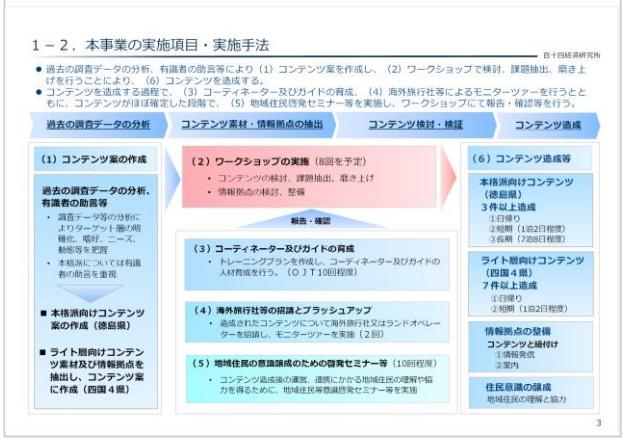
・表紙

Ⅰ.本事業の概要及び実施方法について



1-1.本事業の目的・主旨

1-2.本事業の実施項目・実施手法



2-1.過去の調査データの分析

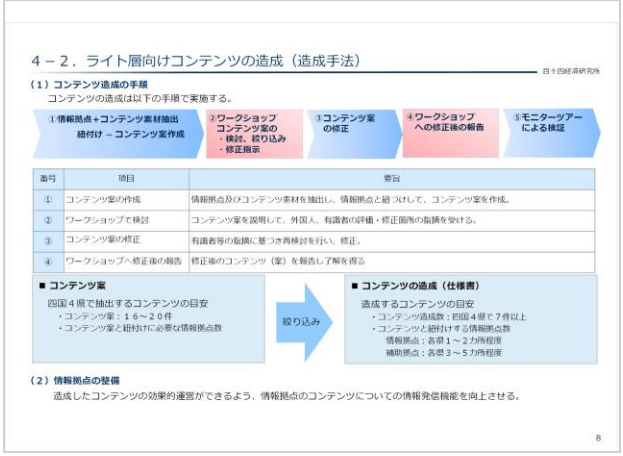
2-2.過去の調査データの分析

資料名：第１回ワークショップ

3-1.本格派向けコンテンツの造成（造成手法）

4-1.ライト層向けコンテンツの造成（抽出基準）

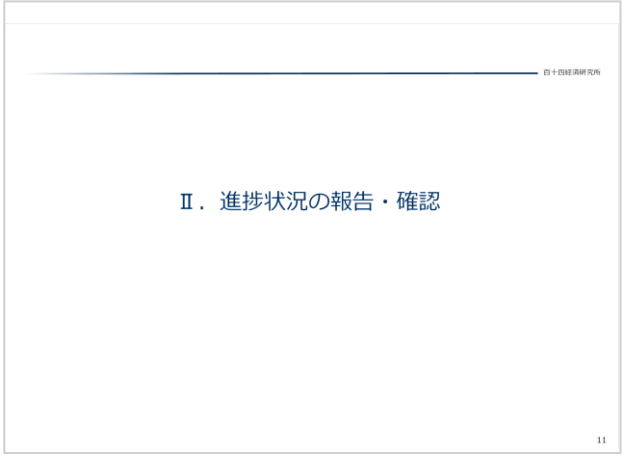
4-2.ライト層向けコンテンツの造成（造成手法）



6-1.海外旅行会社等の招請とブラッシュアップ

7-1.地域住民の意識醸成セミナーの実施

Ⅱ.進捗状況の報告・確認



資料名：第１回ワークショップ

1-1.本格派向けコンテンツの造成（進捗状況）

１－１．本格派向けコンテンツの造成（進捗状況）

百十四経済研究所

- モートン氏の助言を受けて、トレーニングコースの区間を決めて、ガイドマニュアル作成に着手している。
- ガイド希望者のピックアップは、イーストとくしま観光機構においてＯＪＴへの参加人材を募集している。
- コース造成とガイドマニュアル案の完成を急ぎ、ガイド希望者が集まった段階で、コースのモニタリングとＯＪＴを実施。

完了及び実施中の事項

■ **モートン氏のアイデアを聴取**

コース造成区間（案）
以下の区間を組み合わせて３つのコースを造成
①～⑥、⑥～⑪、⑫～㉓
ここから着手する。

ガイドマニュアルの作成
以下の文献を参考とする。
- Pilgrimage ToThe 88 Secrede Places of Shikoku
- Dhikoku Japan 88 Route Guide　ほか

■ **調査結果を基にしたトレーニング項目の抽出**
トレーニング事項の整理
○基本事項
・巡礼コース、日程、歩き方、体調管理
・服装、必需品等の購入指導
・お参り、納経、お接待文化とエチケット
・宿泊施設の予約、変更、キャンセル、宿坊の過ごし方
・食事（宿坊・宿泊施設、山歩きの行動食、外部での調達等）
・危機管理、非常時の連絡
○各札所の説明
・札所毎の見所、留意点

■ **コーディネーター人材のピックアップ**
イーストとくしま観光推進機構にて募集中

■ **ガイドマニュアル作成に着手　→　9月25日までに⑥番札所まで完成予定**

基本・共通事項マニュアル
- 遍路の基礎
- 宿泊施設、食事
- 装備・用品購入補助等

＋

札所毎のマニュアル
- 歴史、ストーリー
- 史跡、建造物、仏像
- 説明ポイント

今後の予定

■ **コースのモニタリング及びＯＪＴの実施**

【9月】28、29日（予定）
①～⑤市街地の札所の体験
⑥宿坊体験

【10月】13、14日（調整中）
⑦～⑫

【11月】2日（調整中）
⑬～㉓山間部の札所の体験

12

2-1.ライト層向けコンテンツの造成（進捗状況ｙ）

２－１．ライト層向けコンテンツの造成（進捗状況）

百十四経済研究所

- ライト層向けコンテンツ抽出基準（P7）に従って、コンテンツ素材、情報拠点等の抽出に着手しており、進捗をご報告するとともに、以下（１）（２）について確認したい。

（１）コンテンツ造成サマリーの作成
- 情報拠点とセットで周辺のコンテンツ素材を抽出して地図上にプロットしたものを資料として作成。（資料参照）
- コンテンツ素材の内容を検討する前に、コンテンツ造成イメージ（情報拠点と紐付けされたコンテンツ素材の質、量、関係性）について、認識を共有したい。

コンテンツ造成サマリー
◇**総括シート**
・**情報拠点情報**
・**コンテンツ情報**
説明
ストーリー
外国人目線

情報拠点の抽出
◇**情報拠点（主１カ所）**
・宿坊、中～大規模宿泊施設
◇**補助拠点（複数カ所）**
・小規模宿泊施設、道の駅
・おもてなしステーション

紐付け

コンテンツ素材の抽出
◇コンテンツ素材①（札所用、一般用）
◇コンテンツ素材②（札所用、一般用）
◇コンテンツ素材③（札所用、一般用）
◇コンテンツ素材④（札所用、一般用）
◇コンテンツ素材⑤（札所用、一般用）
◇コンテンツ素材ｎ（札所用、一般用）

（２）外国人目線のコンテンツ素材の収集
- 外国人同行の実地調査によりコンテンツ素材を収集したものを資料として作成。（資料参照）
- コンテンツ素材としての評価、課題等のご意見をいただきたい。

（３）コンテンツとしての縮め上げ
今後、情報拠点及びコンテンツ素材を取捨選別することで、外国人に刺さるコンテンツ案を作成し、ワークショップで検討、絞り込み、磨き上げを行う。

13

2-2.ライト層向けコンテンツの造成（コンテンツ造成サマリー一覧）

２－２．ライト層向けコンテンツの造成（コンテンツ造成サマリー一覧）

百十四経済研究所

情報拠点とのセットで周辺のコンテンツ素材を抽出したものを地図上にプロット。

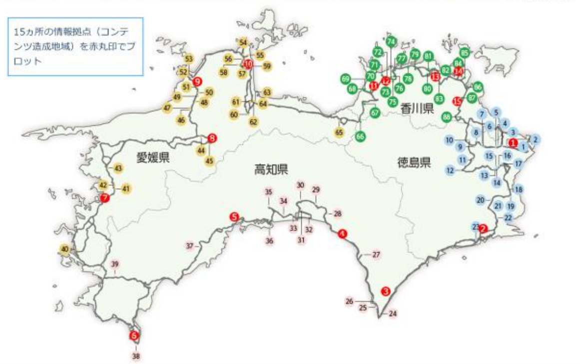
番号	コンテンツ仮称	関連札所	情報拠点候補	コンテンツ素材候補
❶	発心の道（鳴門市、板野町、上板町、阿波市）	1霊山寺～10切幡寺	お遍路ハウス一番門前通り 安楽寺宿坊	遍路用品・装束の購入、藍染体験、阿波踊り、宿坊体験（安楽寺）スモトリ屋
❷	歩き遍路（阿南市、海部郡）	19立江寺、20鶴林寺、21太龍寺、22平等寺、23薬王寺	PAVILIONSURF&LODGE 薬王寺宿坊	阿字観、勤行、瞑想、写経、護摩祈祷、温泉宿坊（薬王寺）太龍寺ロープウェイ、めだかの里、太龍寺道、鶴林寺道の遍路道体験
❸	室戸市付近と遍路道トレール（室戸市）	24最御崎寺、25津照寺、26金剛頂寺	ホテル明星（あけのほし）	最御崎寺道、旧土佐東街道の伝統的建物、吉良家群、老舗酒造、写経、郷土料理、勤行、宿坊体験など（最御崎寺、金剛頂寺）
❹	土佐修の道、国分寺道トレール（安芸市、南国市）	27神峯寺、28大日寺、29国分寺	ロイヤルホテル土佐 ONWA、遊庵（ゆあん）	国分寺道沿道の田園、道標群、塚、写経体験（国分寺）、龍河洞
❺	四万十の青龍寺道トレール（四万十町）	36青龍寺、37岩本寺、	須崎プリンスホテル、ゲストハウス40010、宇楽屋	宿坊体験（岩本寺）、田園風景、青龍寺道の石像群、道標群、そえみみず遍路道、四万十川ウオーキング
❻	足摺岬、あしずり遍路道トレール（土佐清水市）	38金剛福寺	足摺国際ホテル	勤行、写経、郷土料理、宿坊体験（金剛福寺）真念庵 あしずり遍路道沿道の砂丘、漁港、農村、段畑、樹林群
❼	宇和島の仏木寺道トレール（宇和島）	41龍光寺、42仏木寺	木屋旅館、きさいや広場、みま	仏木寺道の山道、屋道の山岳遍路道、龍光寺付近の田園風景
❽	久万高原の遍路道トレール（久万高原）	45岩屋寺	国民宿舎古岩屋荘	八丁坂、岩屋寺遍路道の山門、石仏群、岩屋寺せりわり禅定修行体験、ジビエ料理、笹倉湿原苔むした神の庭
❾	道後周辺の地元民に愛されるスポット散策（松山市）	49浄土寺、50繁多寺、51石手寺	道後観光案内所、松山ユースホテル、DOUGOYADO	道後温泉、足湯巡り、淡路ケ峠展望デッキ、水口酒造、奴寿司、杖の淵公園
❿	今治~しまなみサイクリングコース（今治市）	57栄福寺、58仙遊寺	今治地方観光情報センターサンライズ糸山、仙遊寺等	宿坊体験（仙遊寺）今治城、波止浜湾、来島海峡急流観潮線
⓫	観音寺・三豊パワースポット巡り（観音寺市、三豊市）	67大興寺、68神恵院、69観音寺、70本山寺	UDON HOUSE 観音寺市観光協会	瀬戸内海眺望、紫雲出山、父母ヶ浜、銭形砂絵、高屋神社、有明浜海水浴場と海浜植物群など
⓬	空海誕生の地　善川中讃の七ヶ所まいり（三豊、善通寺、仲多度）	71弥谷寺~77道隆寺	善通寺宿坊 善通寺市観光交流センター	宿坊体験など（善通寺）お砂踏み道場、七ヶ所まいり、五岳山トレッキング、丸亀城
⓭	五色台・根香寺周辺トレール（坂出市、高松市）	81白峰寺、82根香寺	五色台休暇村 白峰温泉ニューサンピア坂出	鴨部道場、根香寺周辺遍路道古道、崇徳上皇陵、西行の道、十川とこうてん
⓮	屋島寺~志度寺遍路道サイクリングコース（高松市）	84屋島寺、85八栗寺、86志度寺	望海荘（屋島山頂）道の駅源平の里むれ	瀬戸内海眺望、四国村、情進カフェ宙、竹居観音岬、うどん山田屋、イサムノグチ美術館、流政之美術館、88ALBERGUE
⓯	巡り終える結願までの上がり三カ寺（高松市、さぬき市）	86志度寺、87長尾寺、88大窪寺	長尾寺本坊詰所 民宿八十窪	お砂踏み道場、護摩焚き、前山お遍路サロンの遍路資料室、大窪寺周辺の古道

14

2-2.ライト層向けコンテンツの造成（コンテンツ造成サマリー地域）

２－３．ライト層向けコンテンツの造成（コンテンツ造成サマリー地域）

百十四経済研究所



Ⅲ.今後のワークショップ開催について

百十四経済研究所

Ⅲ．今後のワークショップ開催について

16

1-1.ワークショップの実施スケジュール（案）

１－１．ワークショップの実施スケジュール（案）

百十四経済研究所

コンテンツの発掘・開発・検証、課題抽出、磨き上げ等を目的としてワークショップを実施する。

日程	**第１回** 2019年８月30日	**第２～５回** 2019年９月中旬～12月上旬	**第６～７回** 2019年12月中旬～1月中旬	**最終回** 2020年3月上旬
開催地	高松 ２時間	高松２回、徳島２回 各２時間	高松１回、予備１回 各２時間	高松 ２時間
内容	○事業実施方針・方法の報告 ・調査データの活用 ・コンテンツ造成と情報拠点 ・コーディネーター、ガイド等の育成 ・海外旅行社の招請 ・住民啓発セミナー ○進捗報告等 ・本格派向けコンテンツ造成 ・ライト層向けコンテンツ造成	○有識者、外国人目線によるライト層向けコンテンツ候補の検討 ・コンテンツ候補の検討と絞り込み ・課題、改善事項の指摘 ・改善後の確認（前回分） ＊モニターツアー直前には、ツアーの概要説明を行う。 ○本格派向けコンテンツの検討 徳島開催時には、徳島地域のライト層向けコンテンツに加えて、本格派向けコンテンツの検討等を行う。 ○その他実施事項の報告	○第１回モニターツアーの結果報告 ・ツアー概要 ・コンテンツの評価 ・課題、改善点 ○コンテンツの磨き上げ ・課題、改善点の検討 ・第２回モニターツアーの概要説明 ○その他の実施事項の報告 ・住民セミナー ・ガイド等の育成	○事業報告書（案）の概要説明 ・本格派コンテンツ ・ライト層コンテンツ ・情報拠点整備 ・ガイドの育成 ・住民意識の醸成
実施項目	8月～10月　調査データを活用した分析 8月下旬～12月　コンテンツや付随する情報拠点等の企画開発・磨き上げ 10月下旬～2月　コーディネーター及びガイドの育成 10月下旬～12月　地域住民意識啓発等		12月初旬 第1回モニターツアー WSメンバー希望者同行	1月末頃 第2回モニターツアー WSメンバー希望者同行

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回
時期	8月30日	9月下旬	10月下旬	11月下旬	12月	12月中旬	1月中旬	3月上旬
場所	高松	高松	徳島	高松	徳島	高松	（予備）	高松
備考					12月初旬　第1回モニターツアー		1月末頃　第2回モニターツアー	

17

資料名：第１回ワークショップ

参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（セグメント別傾向）

■参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（セグメント別傾向）

百十四経済研究所

- 海外旅行者の志向（セグメント）別に海外旅行や訪日旅行に関する意識や行動実態を把握するための分析。
- セグメントはJNTOの訪日グローバルキャンペーンで想定している"7つのパッション"を中心とした15のセグメントに基づいている。

セグメント	ポイント・志向性
伝統文化	・出現率は49%で上位5位に入る。 ・現地の伝統文化や芸能を体験することが目的で、本物に触れたり自身の教養を増やすような学びを求める。 ・求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」、「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」である。
食	・出現率は51%で上位4位に入る。 ・全体と比較して現地の食文化に対する興味が高く、ナイトライフや料理教室などのコンテンツを求める傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。
自然	・出現率は全体の62%で最も多く、自然を体験したい需要の大きさがうかがえる。 ・海外旅行時の滞在期間は2週間以上が多く、長い傾向が見られる。 ・全体と比較して、海外旅行時に体験したいことの多くが自然体験型のアクティビティである。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」や「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」、「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」である。
アウトドア	・海外旅行時の滞在時間が長いセグメントである。 ・アクティブに体を動かす山や雪のアクティビティを求めている。 ・現地の生活に近い感覚で民泊（Airbnb）やゲストハウスに宿泊する傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「アクティブに体を動かして過ごしたい」や「家族や友人に話せるような旅先での面白い体験を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。
コミュニティ	・現地での生活に溶り、地域の人たちとのつながりや現地でしか体験できないその土地ならではの経験を求める。 ・ハンドメイド、農業、料理教室など、その土地固有の体験に興味を示す。 ・宿泊先もその土地の文化や生活が目の当たりにできる民泊等を挙げる傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、「人と同じでない、自分だけの特別な体験を求める」である。
歴史	・フランスやスペイン等のヨーロッパ諸国の出身者が多く、年齢層は中年女性が相対的に多い。 ・海外旅行時の滞在時間は長く、じっくり時間をかけて学びのある体験を求める。 ・ガイドツアーや施設見学等、ガイド等の説明を通じて理解が深まる体験を好む。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「自分の知識や教養を増やすような、学びのある体験を求める」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、「じっくり時間をかけて体験したい」である。

資料：観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」平成31年3月より（https://www.mlit.go.jp/common/001279555.pdf）

18

参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（国・地域別傾向）

■参考資料：海外旅行時の意識・行動特性（国・地域別傾向）

百十四経済研究所

国・地域単位で海外旅行や訪日旅行に関する意識や行動実態を把握するための分析。

国	ポイント・志向性
アメリカ	・全体と比較すると、2週間以上の長期滞在型海外旅行を楽しむ割合が非常に高い。 ・日中は幅広い体験アクティビティ、夜はナイトレクリエーションを中心とした夜間に楽しむ体験の意向が高い。 ・情報サイトTripAdvisorや家族の話など、個人の口コミをもとに自ら旅行の計画を立てる傾向がうかがえる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。
オーストラリア	・滞在期間は1週間から1か月と比較的長く、現地での暮らしを満喫なくじっくり体験する長期滞在型である。 ・体験としてはガイドツアーのほかに、リラクゼーションや夜間に楽しむコンテンツに加え、自然等幅広い種類のコンテンツを体験したいと考えている。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのは「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」や「現地の暮らしを体験し、現地の人と積極的に交流したい」である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。
イギリス	・食事やお酒、伝統的・文化的資産巡りの志向性が強い、中・長期滞在型旅行者。 ・ナイトショーやナイトクラブなど、夜の体験の体験意向が強い。 ・訪日の際にはWEBサービスの情報をもとに、個人で旅行を計画する傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」、次いで「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」。全体と比べて相対的に高いのは「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」や「じっくり時間をかけて体験したい」である。
フランス	・歴史や史跡巡り、または食事やお酒を楽しむことへの志向性が強い、中・長期滞在型旅行者。 ・ガイドツアーやナイトライフなど、手軽に楽しめるコンテンツへの興味・関心が高い。 ・情報収集時は雑誌やガイドブック、ラジオ等のマスメディアを参考にする傾向が見られる。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」。全体と比較して相対的に高いのも同様である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「空いた時間に手軽に楽しみたい」や「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」である。
カナダ	・じっくりと時間をかけて大都市のエンターテイメントや食事、自然まで楽しみたいと考える長期滞在型タイプである。 ・個人で旅行を手配する傾向があるが、現地ポイントではガイド付きツアーへの参加意向が高い。 ・旅行時に求める体験として最も高いのは「その国・地域の歴史や遺跡などをめぐりたい」、次いで「その国・地域の街並み、有名な建築などを鑑賞したい」。全体と比較して相対的に高いのは「その国・地域の大都市の刺激、エンターテイメントを楽しみたい」や「その国・地域の食事やお酒を楽しみたい」である。 ・旅行時に求める体験価値として高いのは「現地でしかできないことなど、本物の体験を求める」、次いで「じっくり時間をかけて体験したい」。全体と比べて相対的に高いのは「じっくり時間をかけて体験したい」や「旅行先では、割と贅沢にお金を使いたい」である。

資料：観光庁「体験型観光コンテンツ市場の概観」平成31年3月より（https://www.mlit.go.jp/common/001279555.pdf）

19

ライト層向けコンテンツ　ワークショップ第１回目（令和１年８月30日）

資料名：コンテンツ造成サマリー一覧（ライト層向けコンテンツ）

表紙

4-3.ライト層向けコンテンツの造成（候補）

4－3．ライト層向けコンテンツの造成（候補）　百十四経済研究所

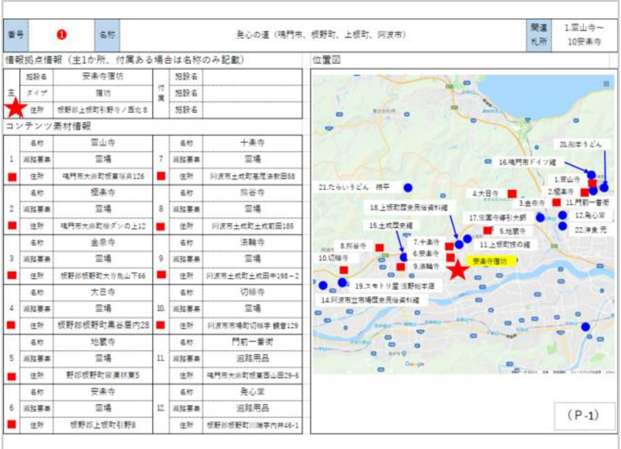
● コンテンツの造成は、四国全体で20カ所程度の候補を抽出して絞り込む。現時点で15カ所を抽出済み。

番号	コンテンツ仮称	関連札所	情報拠点候補	コンテンツ素材候補
1	発心の道（鳴門市、板野町、上坂町、阿波市）	1霊山寺～10切幡寺	お遍路ハウス一番門前通り 安楽寺宿坊	遍路用品・装束の購入、藍染体験、阿波踊り、宿坊体験（安楽寺）
2	歩き遍路（阿南市、海部郡）	19立江寺、20鶴林寺、21太龍寺、22平等寺、23薬王寺	PAVILIONSURF&LODGE 薬王寺宿坊	阿字観、朝のお勤め、瞑想体験、写経、護摩祈祷、温泉宿坊 太龍寺ロープウェイ景観、太龍寺道、鶴林寺道の遍路道体験
3	室戸市付近と遍路道トレール（室戸市）	24最御崎寺、25津照寺、26金剛頂寺	ホテル明星（あけのほし）	最御崎寺道、旧土佐東街道の伝統的建物、古民家群、老舗酒造。写経、郷土料理、勤行、宿坊体験など（最御崎寺、金剛頂寺）
4	土佐塩の道、国分寺道トレール（安芸市、南国市）	27神峯寺、28大日寺、29国分寺	ロイヤルホテル土佐 ONIWA、遊庵（ゆあん）	国分寺道沿道の田園、道標群、塚、写経体験（国分寺）、龍河洞
5	四万十の青龍寺道トレール（四万十町）	36青龍寺、37岩本寺、	須崎プリンスホテル、ゲストハウス40010、宇案屋	宿坊体験（岩本寺）、田園風景、青龍寺道の石像群、道標群、そえみみず遍路道、四万十川ウオーキング
6	足摺岬、あしずり遍路道トレール（土佐清水市）	38金剛福寺	足摺パシフィックホテル花椿	勤行、写経、郷土料理、宿坊体験（金剛福寺）真念庵 あしずり遍路道沿道の砂丘、漁港、農村、段畑、樹林群
7	宇和島の仏木寺道トレール（宇和島）	41龍光寺、42仏木寺	木屋旅館、きさいや広場、みま	仏木寺道の山道、歯道の山岳遍路道、龍光寺付近の田園風景
8	久万高原の遍路道トレール（久万高原）	45岩屋寺	国民宿舎古岩屋荘	八丁坂、岩屋寺遍路道の山門、石仏群、岩屋寺せりわり禅定修行体験、ジビエ料理、笹倉湿原苔むした神の庭
9	道後周辺の地元民に愛されるスポット散策（松山市）	49浄土寺、50繁多寺、51石手寺	道後観光案内所、松山ユースホテル、DOUGOYADO	道後温泉、足湯巡り、淡路ケ峠展望デッキ、水口酒造、奴寿司、杖の淵公園
10	今治~しまなみサイクリングコース（今治市）	57栄福寺、58仙遊寺	今治地方観光情報センター サンライズ糸山、仙遊寺等	宿坊体験（仙遊寺）今治城、波止浜港、来島海峡急流観潮線
11	観音寺・三豊パワースポット巡り（観音寺市、三豊市）	67大興寺、68神恵院、69観音寺、70本山寺	UDON HOUSE 観音寺市観光協会	瀬戸内海眺望、紫雲出山、父母ケ浜、銭形砂絵、高屋神社、有明浜海水浴場と海浜植物群など
12	空海誕生の地 香川中讃の七ヶ所まいり（三豊、善通寺、仲多度）	71弥谷寺～77道隆寺	善通寺宿坊 善通寺市観光交流センター	宿坊体験など（善通寺）お砂踏み道場、七ヶ所まいり、五岳山トレッキング、丸亀城
13	五色台・根香寺周辺トレール（坂出市、高松市）	81白峰寺、82根香寺	五色台休暇村 白峰温泉ニューサンピア坂出	明破道場、根香寺周辺遍路道古道、崇徳上皇陵、西行の道、十川ところてん
14	屋島寺～志度寺遍路道サイクリングコース（高松市）	84屋島寺、85八栗寺、86志度寺	望海荘（屋島山頂） 道の駅源平の里むれ	瀬戸内海眺望、四国村、精進カフェ宙、竹居観音岬、うどん山田屋、六万寺おもてなし イサムノグチ美術館、流政之美術館
15	巡り終える結願までの上がり三カ寺（高松市、さぬき市）	86志度寺、87長尾寺、88大窪寺	長尾寺本坊櫃所 民宿八十窪	お砂踏み道場、護摩焚き、前山お遍路サロンの遍路資料室、大窪寺周辺の古道と石像群

1

4-4.ライト層向けコンテンツの造成（候補地）

番号①発心の道（鳴門市、板野町、上坂町、阿波市）



番号	❶	名称	発心の道（鳴門市、板野町、上坂町、阿波市）	関連札所	1.霊山寺～10安楽寺

情報拠点情報（主1か所、付属ある場合は名称のみ記載）

主	施設名	安楽寺宿坊
	タイプ	宿坊
	住所	板野郡上板町引野寺ノ西北8

コンテンツ素材情報

No.	名称	遍路要素	住所
1	霊山寺	霊場	鳴門市大麻町板東塚鼻126
2	極楽寺	霊場	鳴門市大麻町檜ダンの上12
3	金泉寺	霊場	板野郡板野町大寺亀山下66
4	大日寺	霊場	板野郡板野町黒谷居内28
5	地蔵寺	霊場	野郡板野町羅漢林東5
6	安楽寺	霊場	板野郡上板町引野8
7	十楽寺	霊場	阿波市土成町高尾法教田58
8	熊谷寺	霊場	阿波市土成町土成前田185
9	法輪寺	霊場	阿波市土成町土成田中198－2
10	切幡寺	霊場	阿波市市場町切幡字観音129
11	門前一番街	遍路用品	鳴門市大麻町板東西山田29-6
12	発心堂	遍路用品	板野郡板野町川端字内井46-1

位置図（P-1）

番号②歩き遍路（阿南市、海部郡）

番号	❷	名称	歩き遍路（阿南市、海部郡）	関連札所	19立江寺～23薬王寺

情報拠点情報（主1か所、付属ある場合は名称のみ記載）

主	施設名	薬王寺宿坊
	タイプ	宿坊
	住所	海部郡美波町奥河内寺前285-1

コンテンツ素材情報

No.	名称	遍路要素	住所
1	立江寺	霊場	小松島市立江町若松13
2	鶴林寺	霊場	勝浦郡勝浦町生名鷲ヶ尾14
3	太龍寺	霊場	
4	平等寺	霊場	
5	薬王寺	霊場	海部郡美波町奥河内寺前285-1
6	立江寺宿坊	おもてなし	小松島市立江町若松13
7	太龍寺ロープウェイ	自然	
8	菩提樹	食事	[illegible]
9	平等寺宿坊	おもてなし	阿南市新野町秋山177
10	日和佐うみがめ博物館	自然	海部郡美波町大浜海岸

位置図

番号③高知県室戸市付近と遍路道古道

番号	❸	名称	高知県室戸市付近と遍路道古道	関連札所	24最御崎寺、25津照寺、26金剛頂寺

情報拠点情報（主1か所、付属ある場合は名称のみ記載）

主	施設名	ホテル明星	付属：民宿徳増
	タイプ	宿泊施設	付属：蔵空間　茶館
	住所	室戸市室戸岬町3883	

コンテンツ素材情報

No.	名称	遍路要素	住所
1	金剛頂寺	霊場	室戸市元乙523
2	最御崎寺	霊場	室戸市室戸岬町4058-1
3	最御崎寺道	巡礼路	最御崎寺周辺山間部
4	旧土佐東街道	巡礼路	金剛頂寺～神峯寺への道

位置図

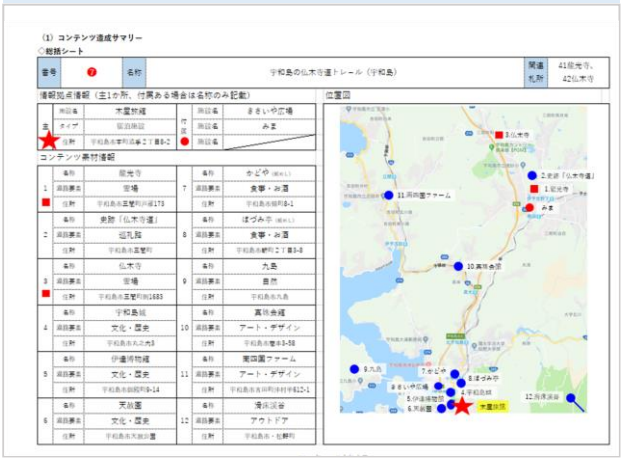
資料名：コンテンツ造成サマリー一覧（ライト層向けコンテンツ）

番号④土佐塩の道、国分寺道トレール（安芸市、南国市）

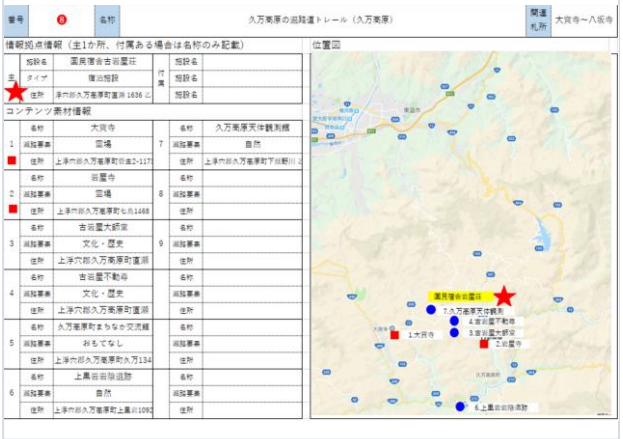
番号⑤高知県土佐市～四万十町と遍路道古道

番号⑥高知県土佐清水市付近と遍路道古道

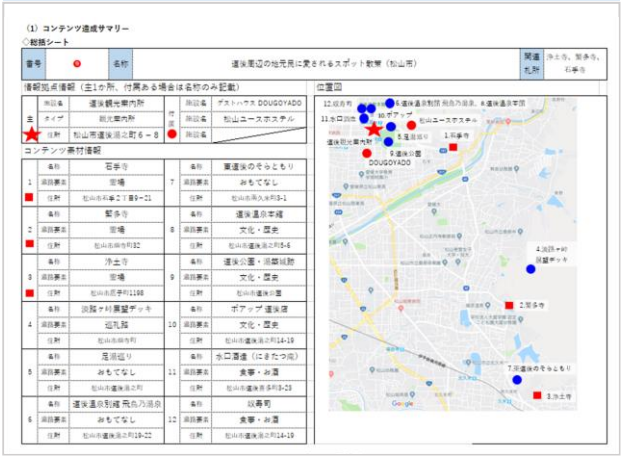
番号⑦宇和島の仏木寺道トレール（宇和島）



番号⑧久万高原の遍路道トレール（久万高原）

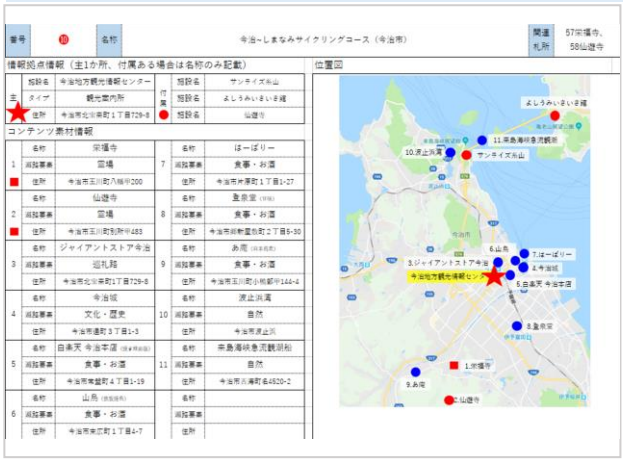


番号⑨道後周辺の地元民に愛されるスポット散策（松山市）

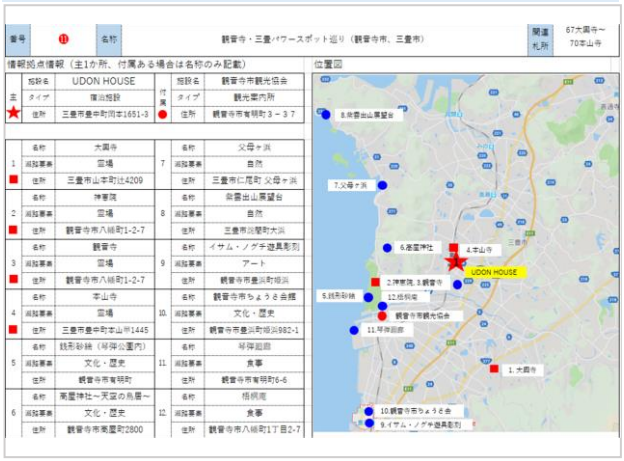


資料名：コンテンツ造成サマリー一覧（ライト層向けコンテンツ）

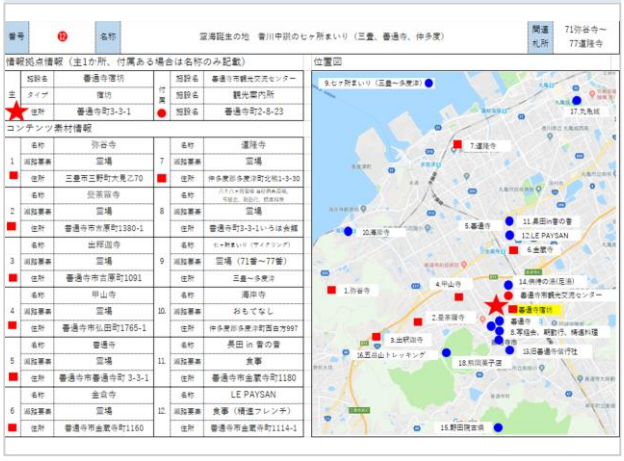
番号⑩今治～しまなみサイクリングコース（今治市）



番号⑪観音寺・三豊パワースポット巡り（観音寺市、三豊市）

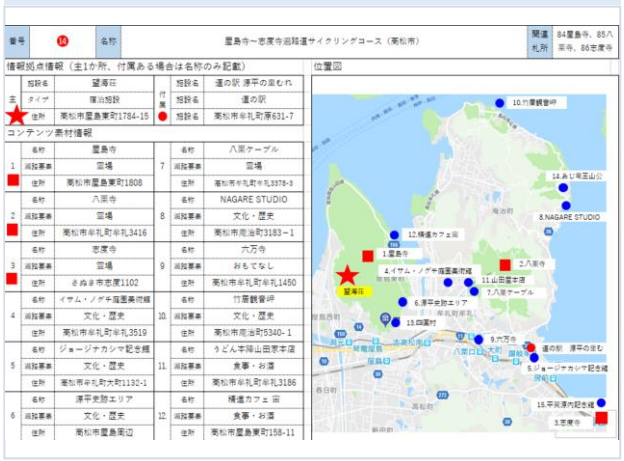
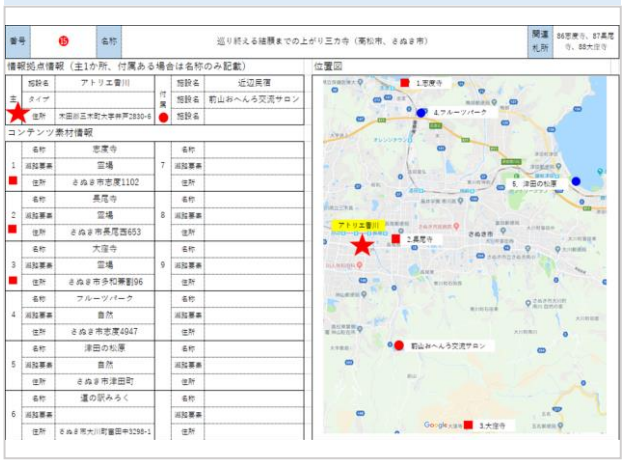


番号⑫空海誕生の地　香川中讃の七ヶ所まいり（三豊、善通寺、仲多度）



番号⑬五色台・根香寺周辺トレール（坂出市・高松市）

番号⑭屋島寺～志度寺遍路道サイクリングコース（高松市）



番号⑮巡り終える結願までの上り三ヵ寺（高松市、さぬき市）